

Ⅱ. 基本集計結果

1. 属性

○正社員、非正社員とも、年齢は『30代』が5～6割、子どもの人数は「2人」が4～5割強、今後子どもをもうけることを希望する人は正社員は4割弱、非正社員は2割強を占めている。

○祖父母と同居している人は1～2割、近居している人は5～6割を占めている。

○現在の就業形態は、正社員は「正社員（フルタイム）」が93.8%、フルタイムの非正社員は「パート・アルバイト」が71.6%、「契約社員」が23.5%を占めている。短時間の非正社員は「パート・アルバイト」が97.0%を占めている。

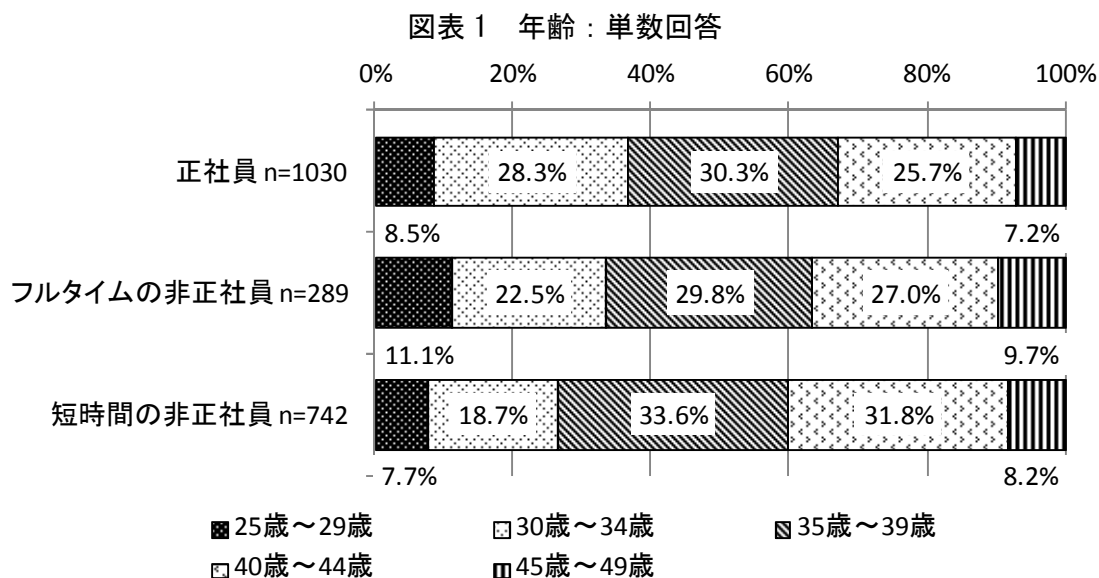
○現在の勤務先の業種は、正社員及びフルタイムの非正社員はそれぞれ「医療・福祉」が3割弱、「その他サービス業」が2割前後を占めている。短時間の非正社員は、「医療・福祉」「卸売業、小売業」がそれぞれ2割前後を占めている。

○最終学歴は、正社員は「大学」が31.7%、「高校」が24.6%を占めている。フルタイムの非正社員は「高校」が35.6%、「専修学校（専門課程）」が21.5%、短時間の非正社員は「高校」が32.9%、「短大・高専」が24.0%を占めている。

(1) 年齢

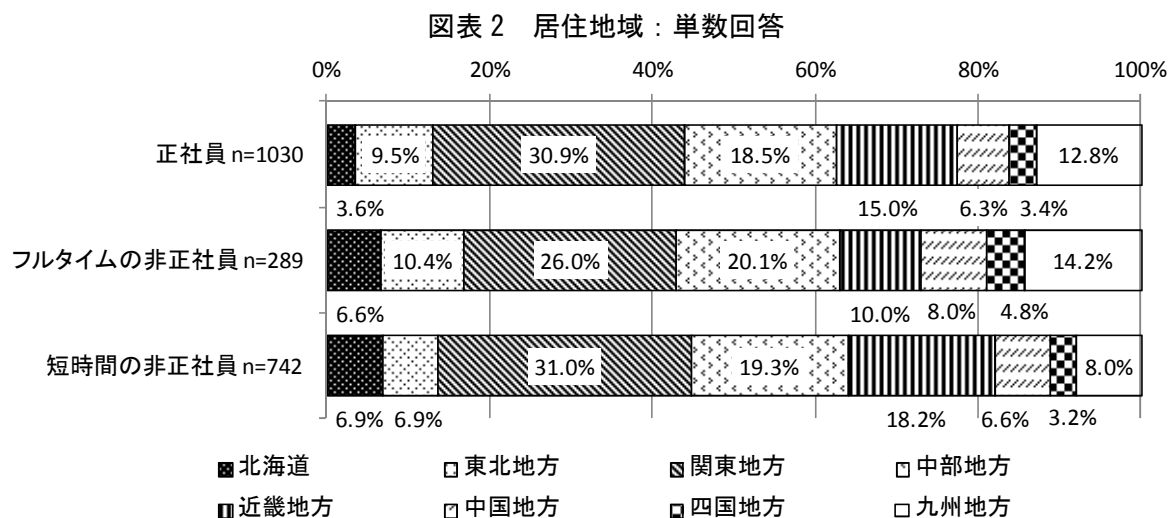
年齢をみると、正社員、非正社員ともに「35歳～39歳」が最も割合が高く、『30代』が5～6割を占めている。

短時間の非正社員は、他と比較してやや年齢層が高く、「40歳～44歳」（31.8%）と「45歳～49歳」（8.2%）を合わせた『40代』も4割を占めている。



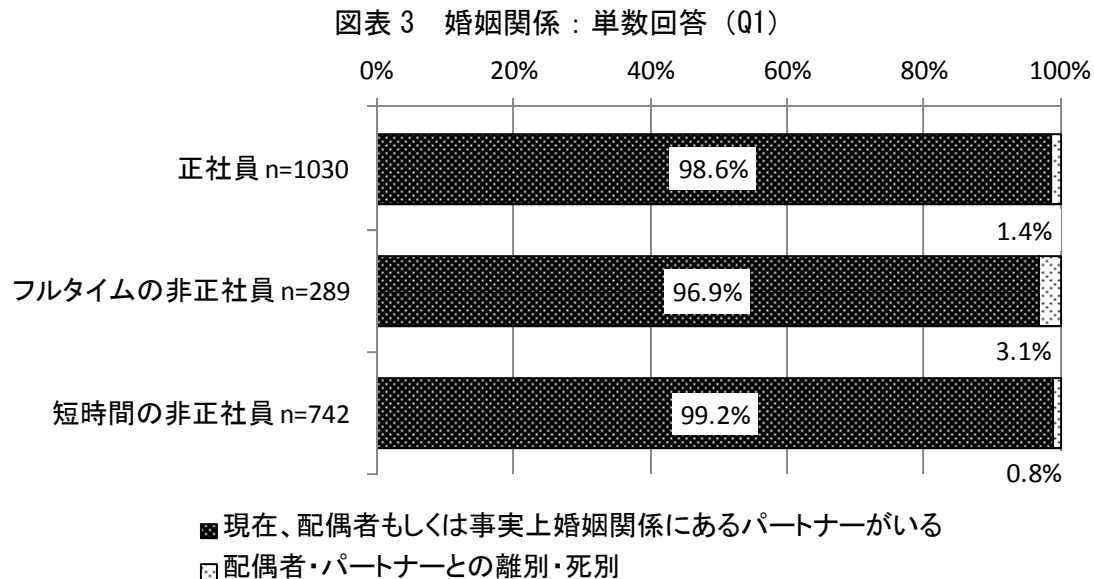
(2) 居住地域

居住地域をみると、正社員、非正社員とも「関東地方」が最も割合が高く、3割前後を占めている。次いで、「中部地方」が2割前後となっている。



(3) 婚姻関係

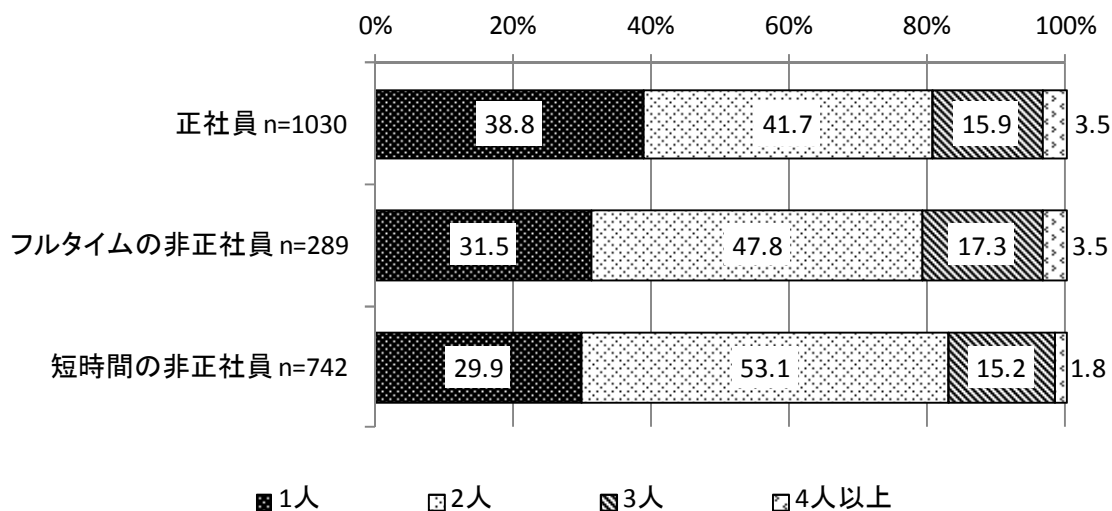
婚姻関係をみると、正社員、非正社員とも、ほぼ「現在、配偶者もしくは事実上婚姻関係にあるパートナーがいる」となっている。



(4) 子どもの人数

子どもの人数をみると、正社員は「1人」(38.8%)、と「2人」(41.7%)がほぼ同じ割合である。フルタイムの非正社員及び短時間の非正社員は、「2人」が47.8%、53.1%と約半数を占め、次いで「1人」が31.5%、29.9%で約3割を占めている。

図表4 子どもの人数：単数回答（SQ4）

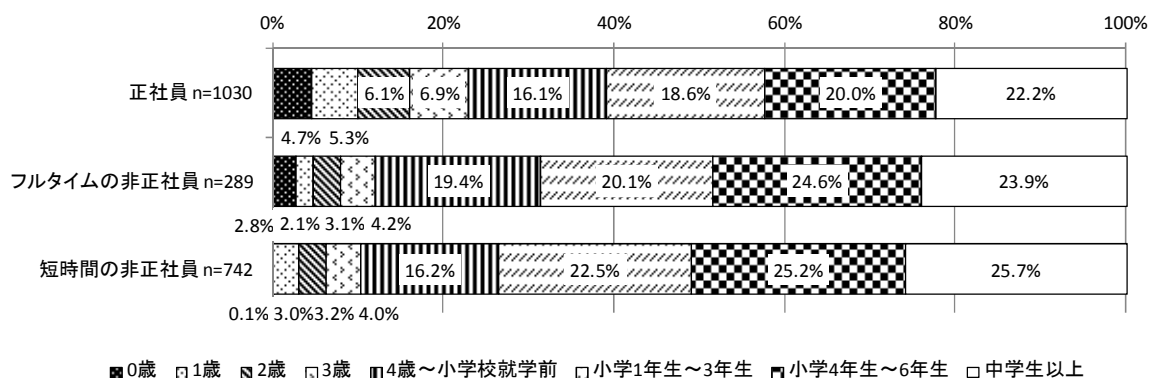


(5) 子ども（長子・末子）の年齢

長子の年齢をみると、正社員が低く、フルタイムの非正社員、短時間の非正社員の順に、年齢が高くなる傾向にあり、短時間の非正社員では、「中学生以上」が約4分の1、「小学1年生～3年生」と「小学4年生～6年生」を合わせた『小学生』が約半数を占めている。

一方、正社員は、『小学生』が4割弱を占めるが、「0歳」、「1歳」、「2歳」、「3歳」を合わせた『3歳以下』も2割強を占めている。

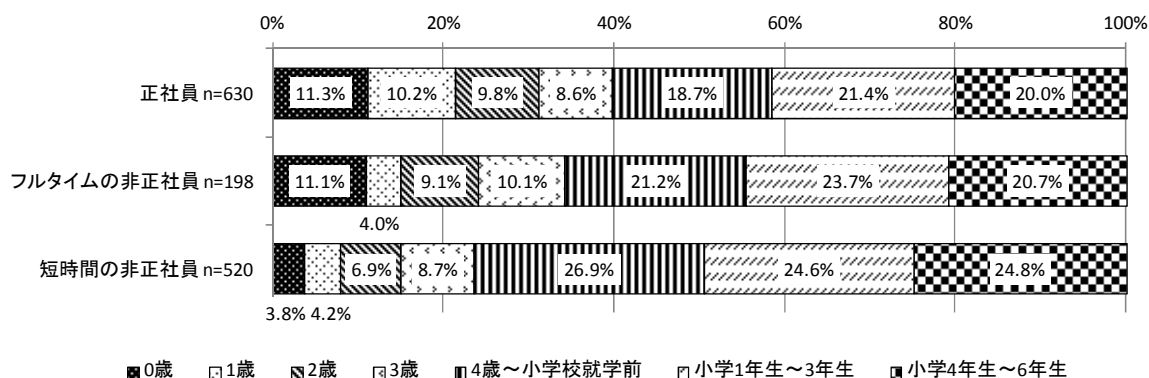
図表5 子どもの年齢（長子）：単数回答（SQ5）



末子についても、同様に、正社員が低く、フルタイムの非正社員、短時間の非正社員の順に年齢が高くなる傾向にある。短時間の非正社員では、「小学1年生～3年生」と「小学4年生～6年生」を合わせた『小学生』が約半数を占めている。

正社員及びフルタイムの非正社員では、『小学生』は4割強を占めているが、「0歳」、「1歳」「2歳」、「3歳」を合わせた『3歳以下』も3～4割を占めている。

図表6 子どもの年齢（末子）：単数回答（SQ5）

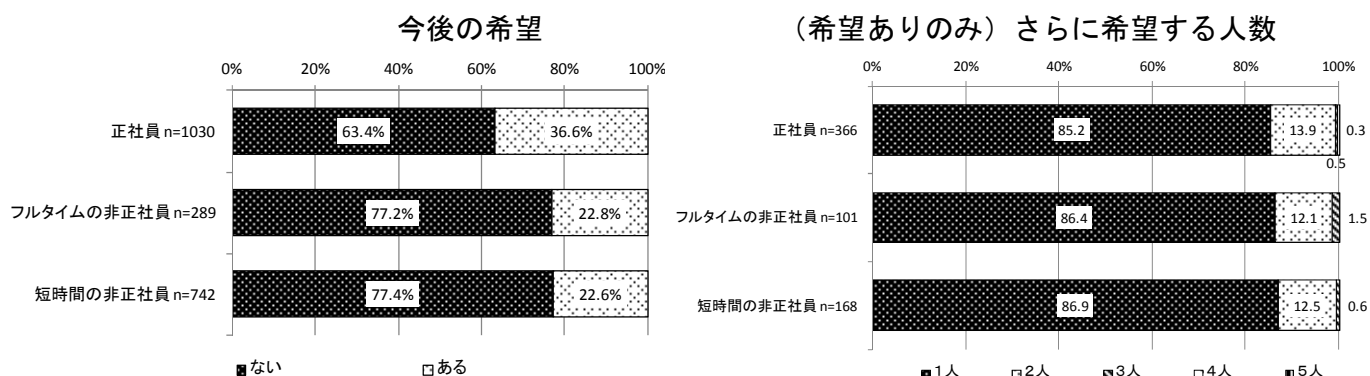


(6) 今後、子どもをもうける希望

今後子どもをもうける希望をみると、「ある」と回答した割合は、非正社員に比べて、正社員の方が高く、36.6%となっている。

また、希望ありと回答した人について、具体的な人数をみると、正社員、非正社員とも「1人」が8割以上、「2人」が1割強を占めている。

図表7 今後、子どもをもうける希望と人数：単数回答（Q2）

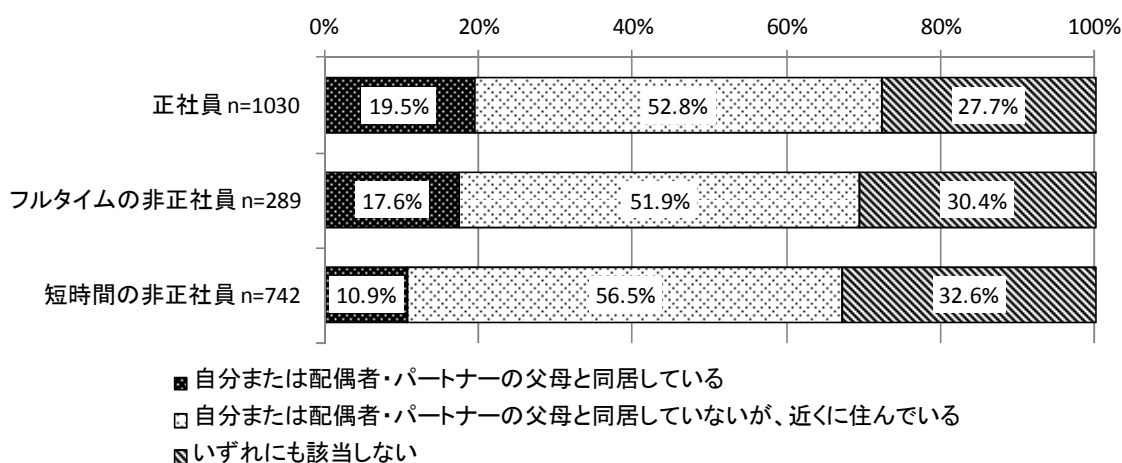


(7) 祖父母との同居・近居の状況

祖父母との同居・近居の状況をみると、正社員は他と比較して、「自分または配偶者・パートナーの父母と同居している」（19.5％）割合が最も高い。

短時間の非正社員は、他と比較して、「自分または配偶者・パートナーの父母と同居していないが、近くに住んでいる」（56.5％）、「いずれにも該当しない」（32.6％）の割合がいずれも最も高く、祖父母と同居・近居していない人が多い傾向にある。

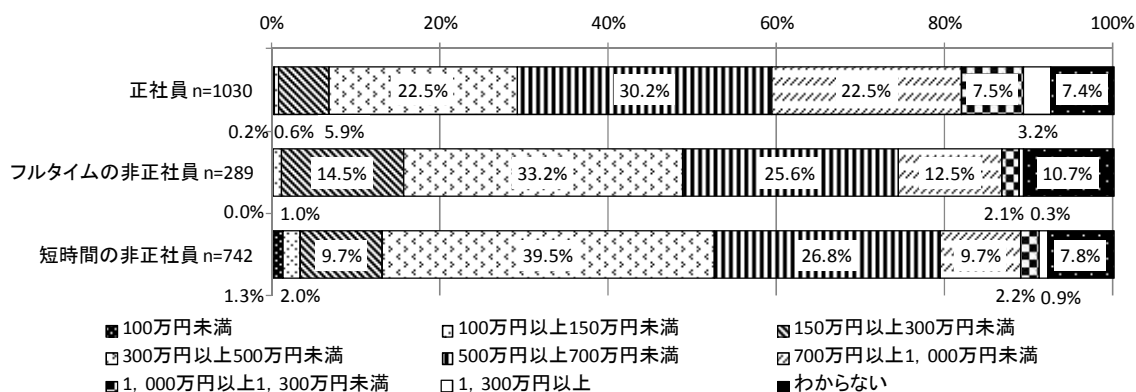
図表 8 祖父母との同居・近居の状況：単数回答（Q3）



(8) 世帯年収

世帯年収をみると、短時間の非正社員、フルタイムの非正社員、正社員の順に高くなる傾向がみられる。正社員では、「500 万円以上 700 万円未満」が最も割合が高く、30.2％となっている。一方、フルタイムの非正社員及び短時間の非正社員は、「300 万円以上 500 万円未満」が最も割合が高く、それぞれ 33.2％、39.5％となっている。

図表 9 世帯年収：単数回答（Q4）

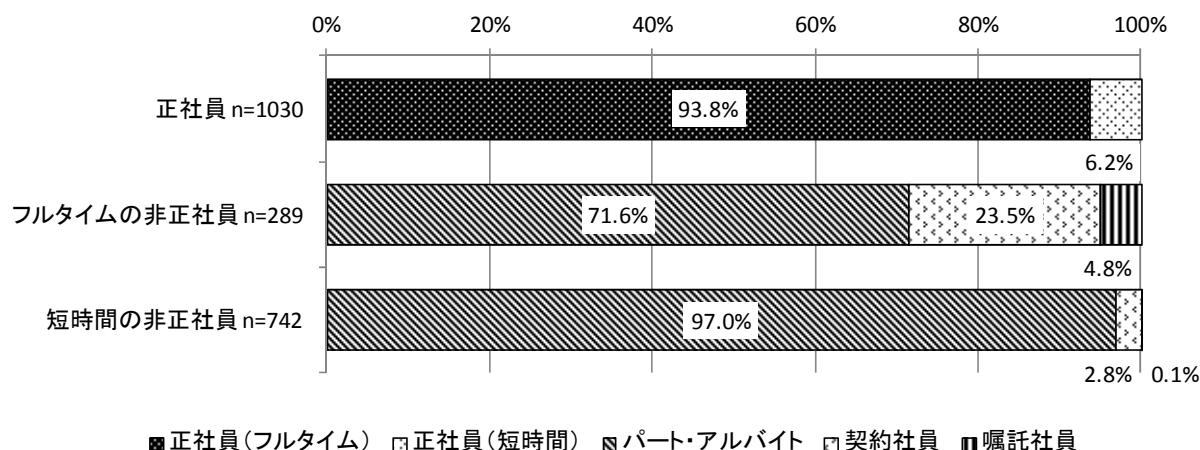


(9) 現在の仕事の状況

①就業形態

現在の就業形態をみると、正社員は「正社員（フルタイム）」が 93.8%で大半を占め、「正社員（短時間）」は 6.2%である。フルタイムの非正社員は、短時間の非正社員と比較して「契約社員」が 23.5%と割合が高い。短時間の非正社員は、「パート・アルバイト」が 97.0%を占めている。

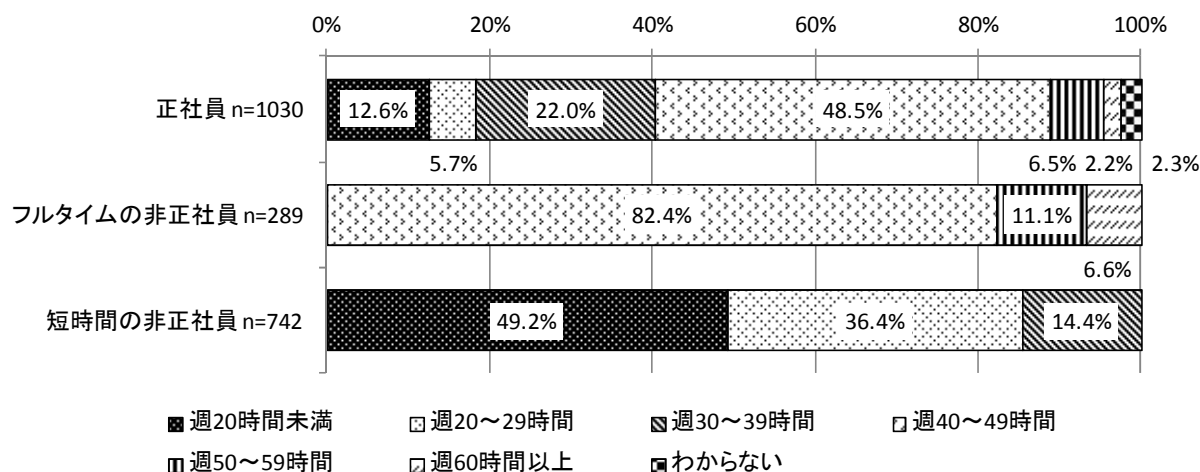
図表 10 現在の就業形態：単数回答（SQ2）



②現在の週当たり平均労働時間（残業時間を含む）

現在の週当たり平均労働時間をみると、正社員は「週 40～49 時間」が 48.5%で最も割合が高く、次いで「週 30～39 時間」が 22.0%を占めている。フルタイムの非正社員は、「週 40～49 時間」が 82.4%を占めている。短時間の非正社員は、「週 20 時間未満」（49.2%）及び「週 20～29 時間」（36.4%）の割合が高くなっている。

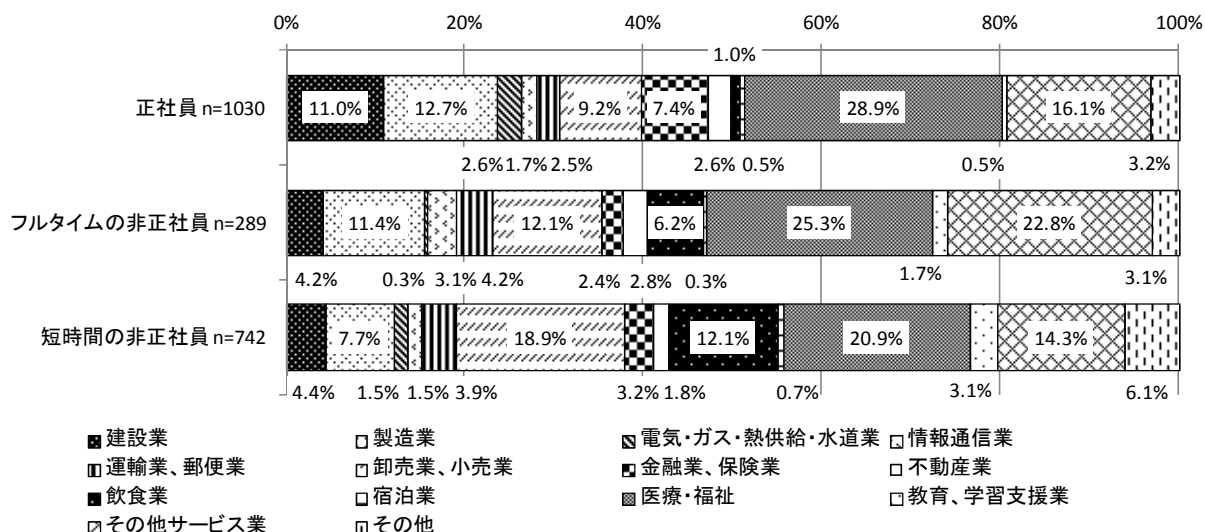
図表 11 現在の週当たり平均労働時間（残業時間を含む）：単数回答（SQ3）



③業種

業種をみると、正社員は「医療・福祉」が 28.9%と最も割合が高く、次いで「その他サービス業」が 16.1%を占めている。フルタイムの非正社員も正社員と同じ傾向にあり、「医療・福祉」が 25.3%、次いで「その他サービス業」が 22.8%を占めている。短時間の非正社員は、「医療・福祉」が 20.9%、次いで「卸売業、小売業」が 18.9%となっている。

図表 12 業種：単数回答（SQ1）



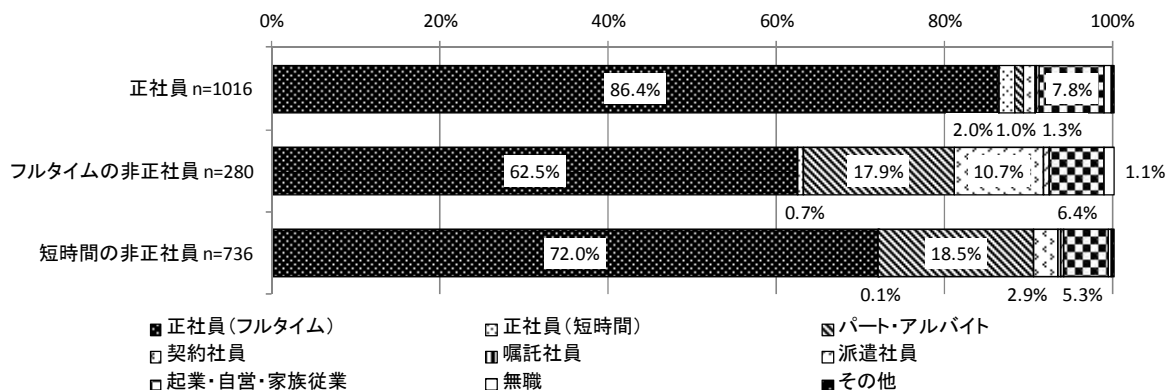
(10) 配偶者・パートナーの仕事の状況

①就業形態

配偶者・パートナーの就業形態をみると、正社員は「正社員（フルタイム）」が 86.4%で最も割合が高く、次いで、「起業・自営・家族従業」が 7.8%となっている。

フルタイムの非正社員及び短時間の非正社員は、「正社員（フルタイム）」がそれぞれ 62.5%、72.0%であり、次いで「パート・アルバイト」が 17.9%、18.5%を占めている。

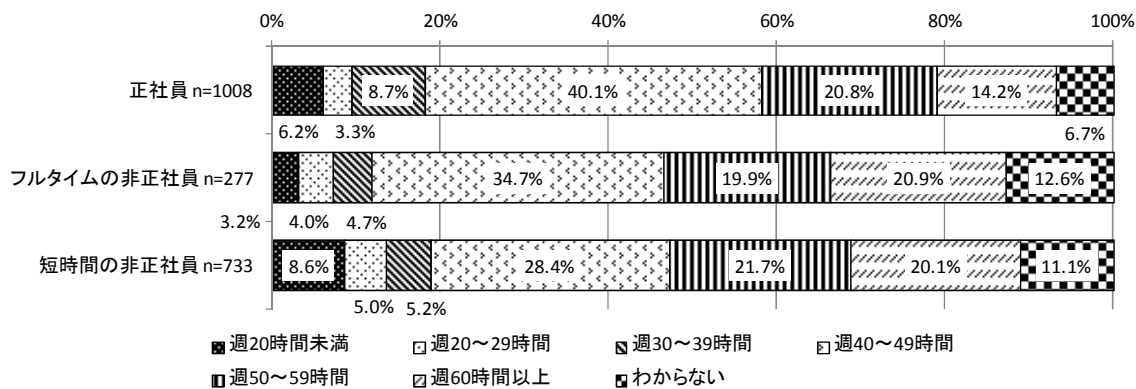
図表 13 配偶者・パートナーの就業形態：単数回答（Q5）



②週平均労働時間

配偶者・パートナーが働いている人について配偶者・パートナーの、一週間の平均労働時間（残業時間を含む）をみると、正社員、非正社員とも「週 40～49 時間」の割合が最も高く、3～4 割程度を占めている。また、「週 50～59 時間」と「週 60 時間以上」を合わせた『50 時間以上』の割合は、正社員では 35.0%、フルタイムの非正社員及び短時間の非正社員では、4 割強となっている。

図表 14 配偶者・パートナーの週平均労働時間（残業時間を含む）：単数回答（Q6）



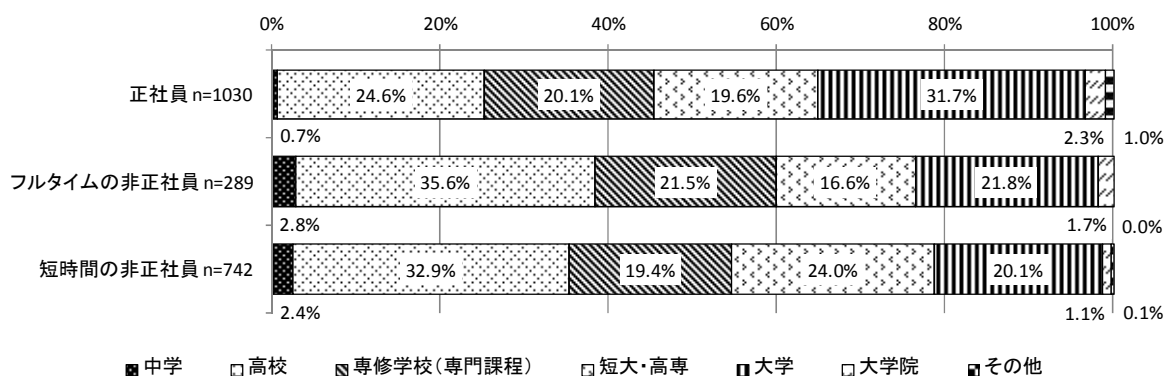
(11) 最終学歴

最終学歴をみると、正社員は「大学」が 31.7%で最も割合が多く、次いで「高校」が 24.6%となっている。

フルタイムの非正社員は、「高校」が 35.6%で最も割合が高く、次いで「大学」及び「専修学校（専門課程）」がそれぞれ 2 割強となっている。

短時間の非正社員は、「高校」が 32.9%で最も割合が高く、次いで「短大・高専」が 24.0%となっている。

図表 15 最終学歴：単数回答（Q7）



2. 出産・育児等を機に離職した仕事について

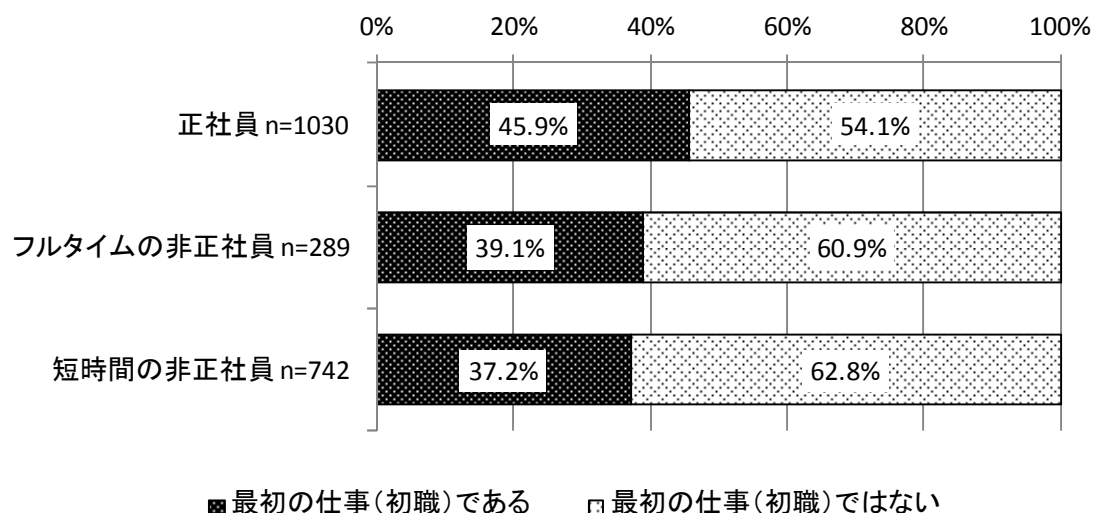
- 出産・育児等を機に離職した仕事が、「最初の仕事（初職）である」割合は、正社員は5割弱、フルタイム及び短時間の非正社員は4割弱である。（※就業形態は再就職後である。以下同様。）
- 離職した仕事の就業形態は、正社員は「正社員（フルタイム）」が81.9%、フルタイム及び短時間の非正社員は、それぞれ「正社員（フルタイム）」が6割弱、「パート・アルバイト」が3割弱を占めている。
- 離職した仕事の職種は、正社員は「専門職・技術職」が24.2%、「その他一般事務」が16.7%である。フルタイムの非正社員は「サービス（調理、接客等）」「専門職・技術職」がそれぞれ2割強、短時間の非正社員は、「専門職・技術職」「その他一般事務」がそれぞれ2割弱を占めている。
- 離職した仕事の従業員規模は、正社員、非正社員とも「50人以下」が3～4割と多い。また、「1,001人以上」も1～2割を占めており、小規模の企業と、大企業に勤めていた人がそれぞれ一定程度いることがうかがえる。
- 離職前の仕事のやりがいは、「非常に感じていた」が2割前後、「ある程度感じていた」が5～6割で、両者を合わせて、やりがいを感じていた人が7～8割を占めている。
- 出産・育児等を機に離職した理由は、「家事・育児に専念するため、自発的にやめた」が4～6割で最も多く、次いで「勤務時間が長い（残業など）・不規則など、時間的に両立が難しかった」や、「配偶者・パートナーの勤務地の問題や転勤で、仕事を続けるのが難しかった」があげられている。
- 離職した当時、ほとんどの人が再就職の意向を有しており、「再び就業するつもりはなかった」との回答は5%前後にとどまっている。また、正社員は、「（仕事を辞めた後、）すぐにでも就業したいと思っていた」割合が高く、非正社員は「子ども（末子）がある程度の年齢になったら就業したいと思っていた」、もしくは「特に時期を決めていないがいずれ就業したいと思っていた」割合が高い。

(1) 離職した仕事について、最初の仕事（初職）かどうか

出産・育児等を機に離職した仕事について、最初の仕事（初職）かどうかをみると、正社員は他と比較して、「最初の仕事（初職）である」（45.9%）割合が最も高い。

フルタイムの非正社員、短時間の非正社員は、「最初の仕事（初職）である」割合は、それぞれ39.1%、37.2%となっている。

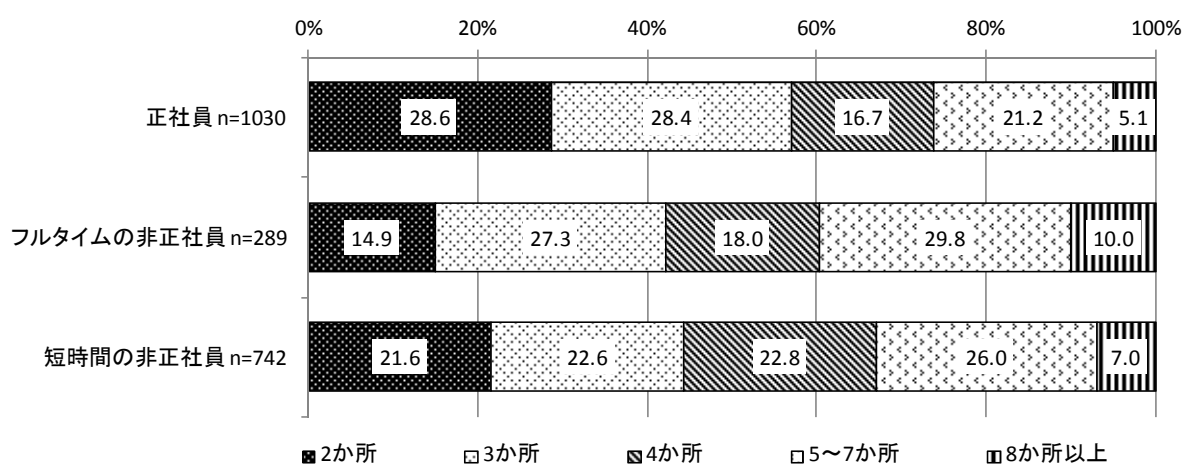
図表 16 離職した仕事について、最初の仕事（初職）かどうか：単数回答（Q10）



(2) これまで（調査時点）に働いた会社数

これまで（調査時点）に働いた会社数をみると、正社員は「2か所」（28.6%）と「3か所」（28.4%）がそれぞれ3割弱を占めている。フルタイムの非正社員及び短時間の非正社員は、正社員に比べて多い傾向にあり、「5～7か所」（29.8%、26.0%）と「8か所以上」（10.0%、7.0%）を合わせた『5か所以上』も3～4割を占めている。

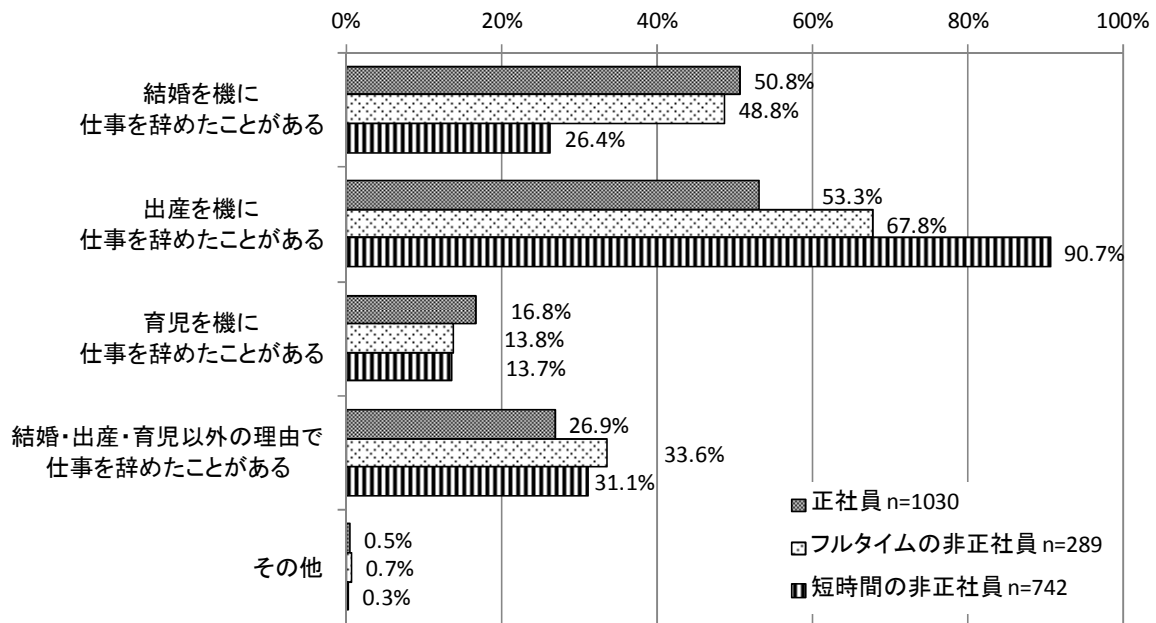
図表 17 これまで（調査時点）に働いた会社数：数値回答（Q8）



(3) 離職の経験

離職の経験については、短時間の非正社員は「出産を機に仕事辞めたことがある」（90.7%）が約9割にのぼっており、出産により退職したことがある人が多い。正社員及びフルタイムの非正社員は、「出産を機に仕事を辞めたことがある」人はそれぞれ 53.3%、67.8%であり、「結婚を機に仕事を辞めたことがある」人が 50.8%、48.8%で約半数となっている。

図表 18 離職の経験：複数回答（SQ6）



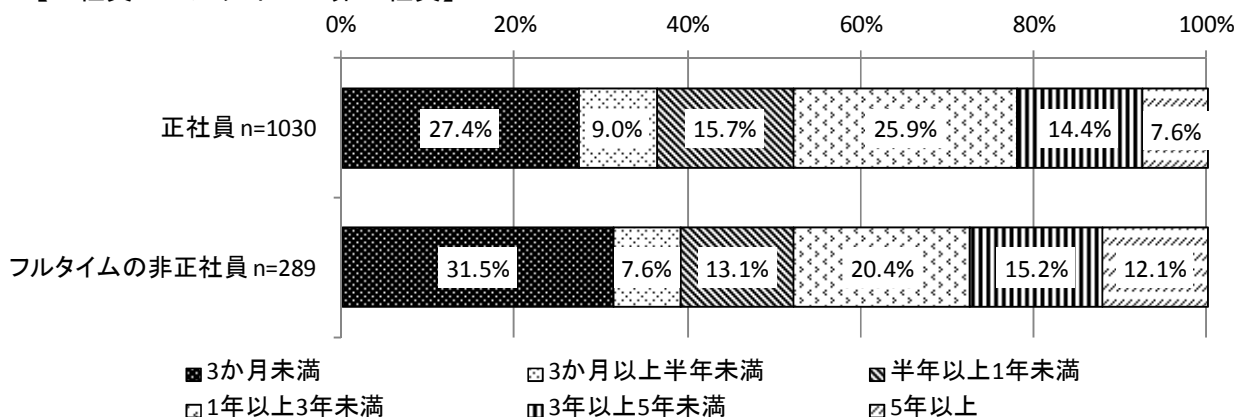
注) 出産・育児を機に離職した経験のある人を調査の対象とし、サンプル数が不足する場合には結婚を機に離職した経験のある人も調査の対象に含めることとした。

(4) 直近の就職をする前の離職期間

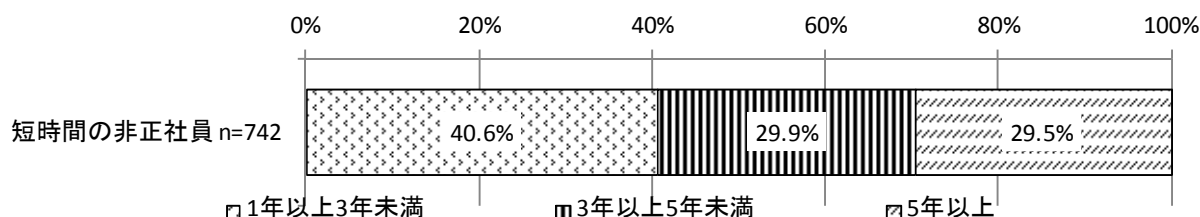
直近の就職をする前の離職期間をみると、正社員及びフルタイムの非正社員は「3か月未満」、「3か月以上半年未満」、「半年以上1年未満」を合わせた『1年未満』と、「1年以上3年未満」、「3年以上5年未満」、「5年以上」を合わせた『1年以上』の割合が、ほぼ半々となっている。短時間の非正社員については、「1年以上3年未満」（40.6%）が最も割合が高く、「3年以上5年未満」（29.9%）及び「5年以上」（29.5%）もそれぞれ約3割を占めている。

図表 19 直近の就職をする前の離職期間：単数回答（SQ7）

【正社員／フルタイムの非正社員】



【短時間の非正社員】



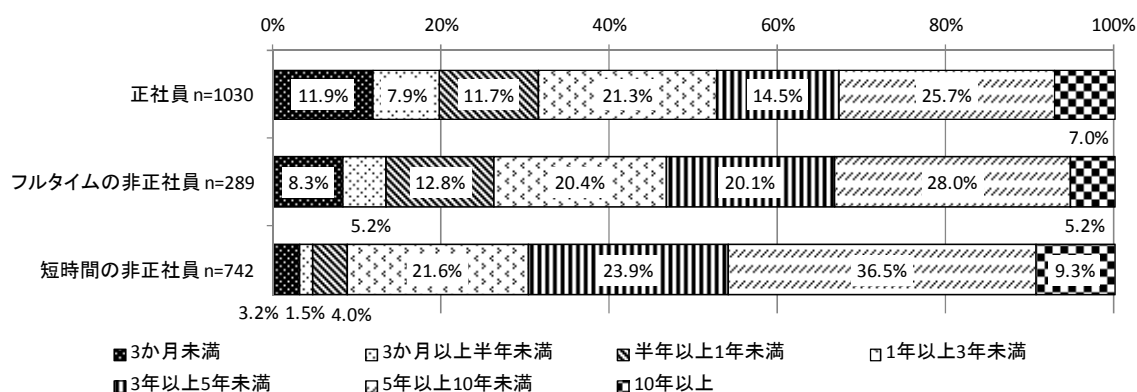
注) 直近の就職をする前の離職期間については、一定の期間をおいてから再就職している人を対象とした方が、再就職にあたっての課題や、再就職後のキャリア形成への影響などを分析できると考え、短時間の非正社員については、1年以上の人を調査の対象とした。正社員及びフルタイムの非正社員については、調査対象数を確保するため、離職期間が1年未満の人も対象に含めることとした。

(5) これまで（調査時点）の離職のうち、最も離職期間が長かった期間

これまで（調査時点）の離職のうち、最も離職期間が長かった期間をみると、「5年以上10年未満」の割合がそれぞれ最も高く、正社員（25.7%）、フルタイムの非正社員（28.0%）、短時間の非正社員（36.5%）となっている。

また、正社員、フルタイムの非正社員、短時間の非正社員の順に、離職期間が長くなる傾向がみられる。

図表 20 これまで（調査時点）の離職のうち、最も離職期間が長かった期間：単数回答（Q9）

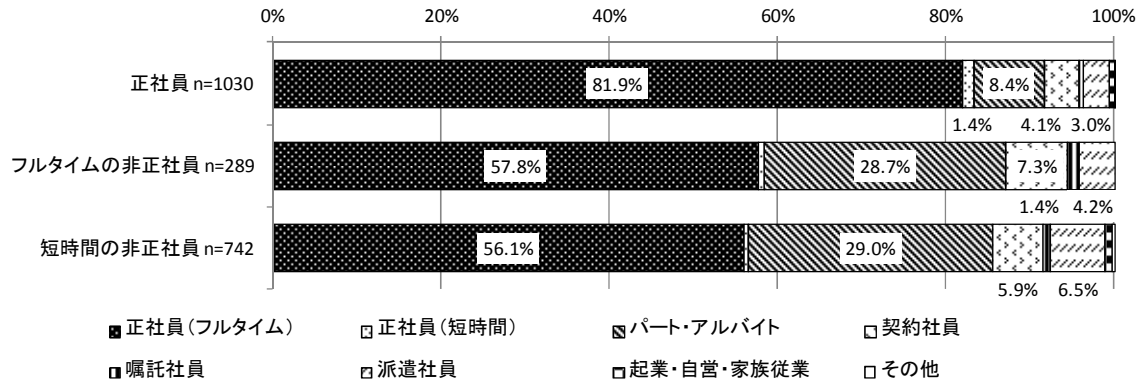


(6) 出産・育児等を機に離職した仕事について

①就業形態

出産・育児等を機に離職した仕事の就業形態をみると、正社員は「正社員（フルタイム）」が81.9%で大半を占めている。一方、フルタイムの非正社員及び短時間の非正社員は、「正社員（フルタイム）」が6割弱、「パート・アルバイト」が3割弱を占めている。

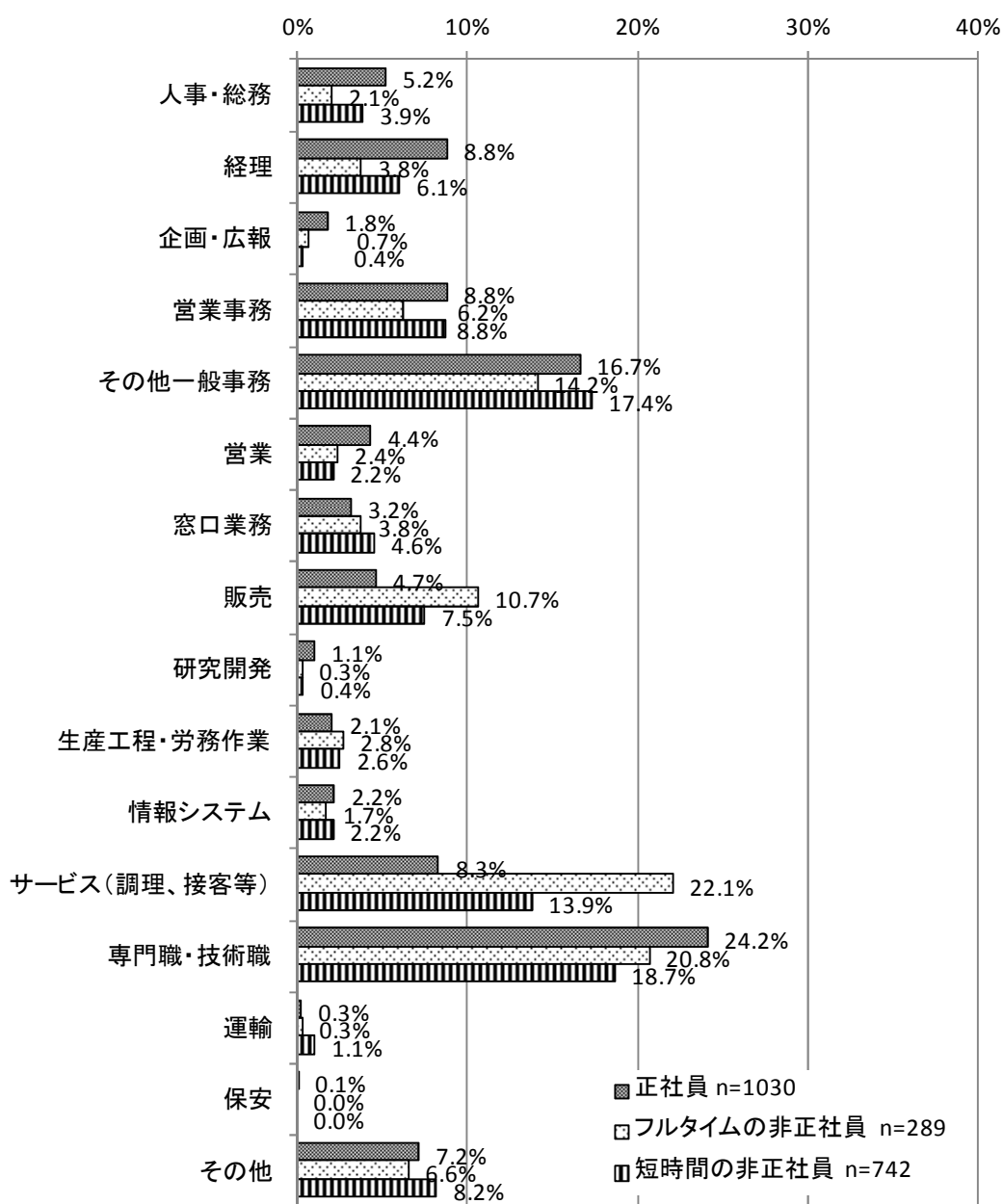
図表 21 就業形態：単数回答（Q11）



②職種

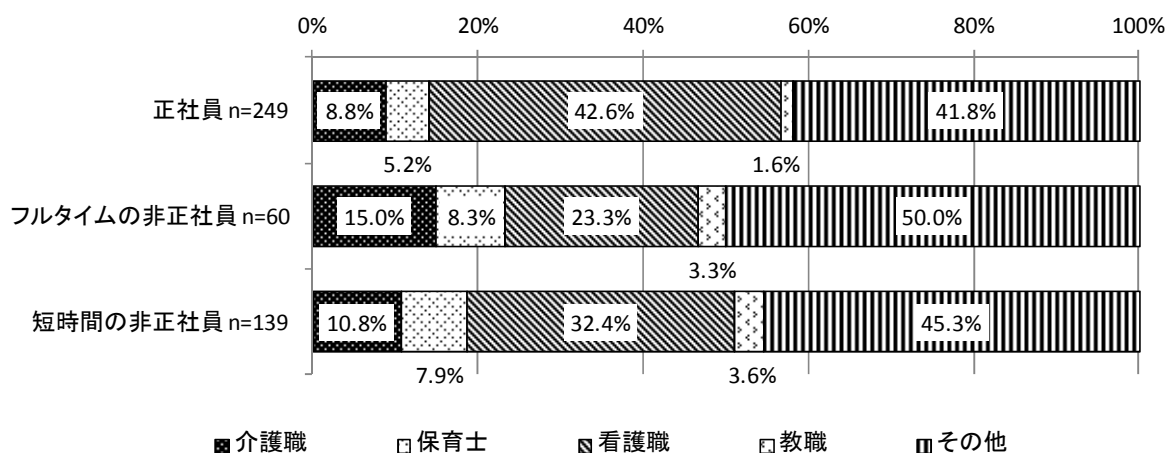
出産・育児等を機に離職した仕事の職種をみると、正社員は「専門職・技術職」(24.2%)の割合が高い傾向にある。次いで「その他一般事務」(16.7%)である。フルタイムの非正社員は、「サービス(調理、接客等)」(22.1%)、「専門職・技術職」(20.8%)の割合が高くなっている。短時間の非正社員は、「専門職・技術職」(18.7%)、「その他一般事務」(17.4%)の割合が高くなっている。

図表 22 職種：単数回答 (Q12)



離職前の職種が「専門職・技術職」であった人について、具体的にみると、正社員は他と比較して、「看護職」（42.6％）の割合が高く、フルタイムの非正社員は「介護職」（15.0％）の割合が高くなっている。

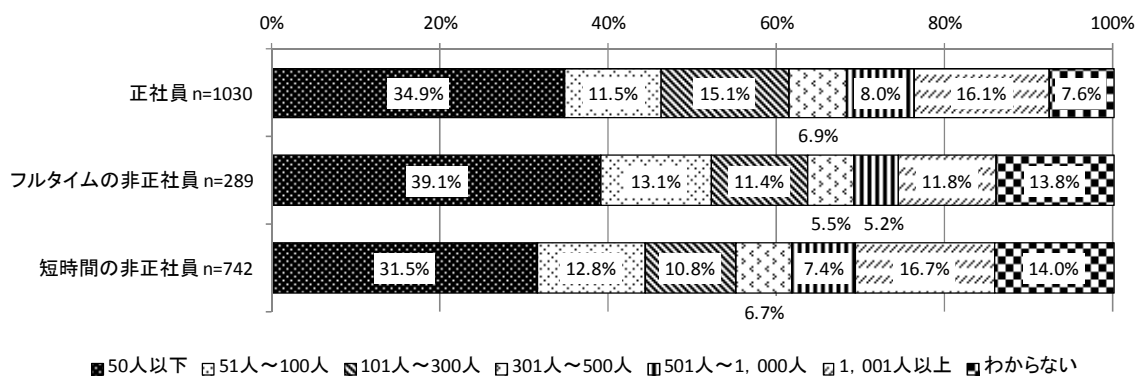
図表 23 専門職・技術職の具体的な内容（初職）：単数回答（Q13）



③従業員規模

出産・育児等を機に離職した勤務先の従業員規模をみると、正社員、非正社員とも「50 人以下」の割合が最も高く、3～4 割を占めている。次いで、正社員及び短時間の非正社員は、「1,000 人以上」（16.1％、16.7％）が続いており、小規模の企業と、大企業に勤めていた人がそれぞれ一定程度いることがうかがえる。

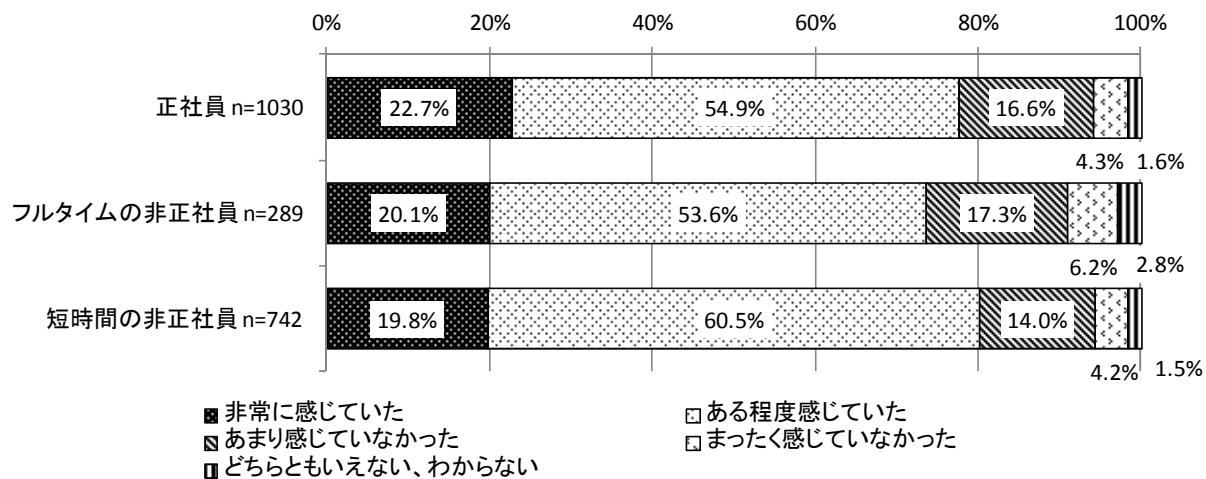
図表 24 従業員規模：単数回答（Q14）



④離職前の仕事のやりがい

離職前の仕事のやりがいをみると、正社員、非正社員とも「非常に感じていた」と「ある程度感じていた」を合わせたやりがいを感じていた人の割合は、7～8割程度を占めている。

図表 25 離職前の仕事のやりがい：単数回答（Q15）

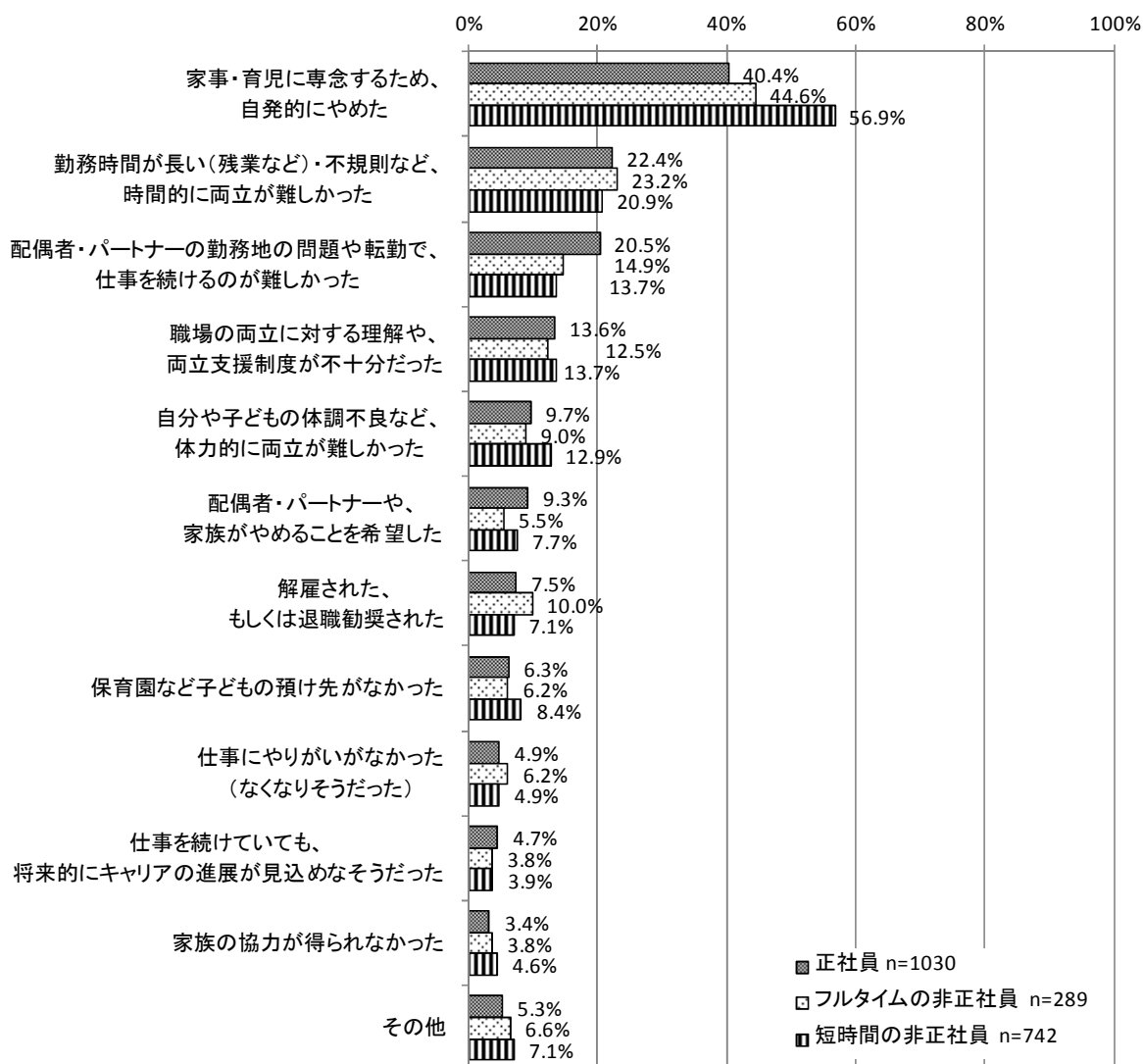


(7) 出産・育児等を機に離職した理由

出産・育児等を機に離職した理由をみると、正社員、非正社員とも「家事・育児に専念するため、自発的にやめた」が最も割合が高い。次いで、「勤務時間が長い（残業など）・不規則など、時間的に両立が難しかった」、「配偶者・パートナーの勤務地の問題や転勤で、仕事を続けるのが難しかった」が続いている。

就業形態別にみると、短時間の非正社員は他と比較して、「家事・育児に専念するため、自発的にやめた」（56.9％）の割合が高く、正社員は「配偶者・パートナーの勤務地の問題や転勤で、仕事を続けるのが難しかった」（20.5％）がやや高くなっている。

図表 26 出産・育児等を機に離職した理由：複数回答（Q16）

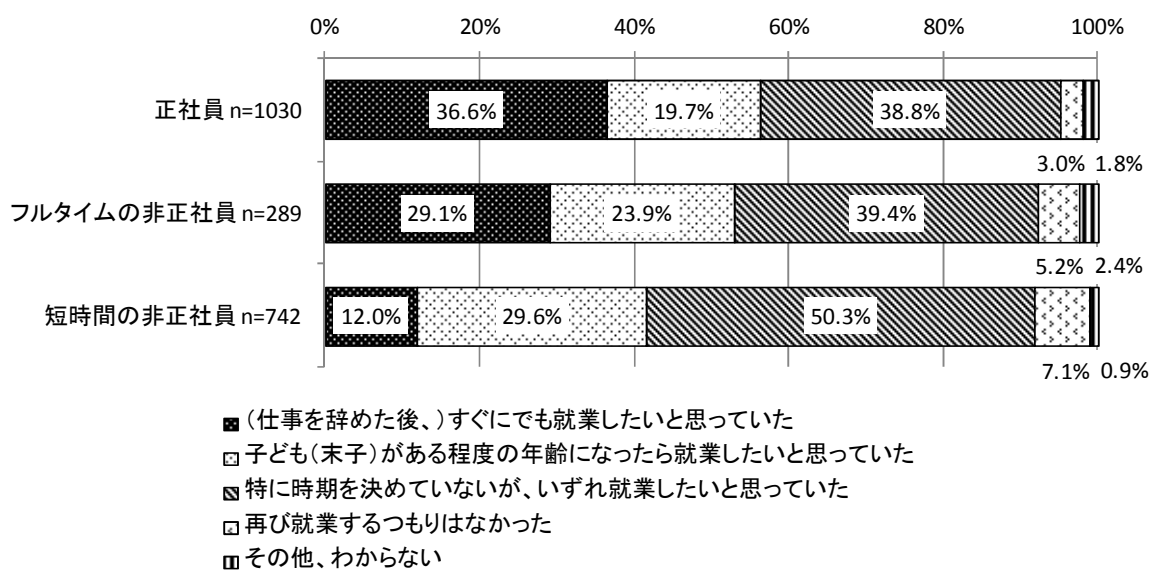


(8) 離職した当時の再就職についての意向

離職した当時の再就職についての意向をみると、正社員、非正社員ともほとんどの人が、離職時に再就職の意向を有しており「再び就業するつもりはなかった」との回答は5%前後にとどまっている。

就業形態別にみると、短時間の非正社員、フルタイムの非正社員、正社員の順に再就職の意向が強くなる傾向にあり、正社員は他と比較して、「(仕事を辞めた後、) すぐにでも就業したいと思っていた」(36.6%) の割合が高い。一方、短時間の非正社員は、「子ども(末子)がある程度の年齢になったら就業したいと思っていた」(29.6%) や、「特に時期を決めていないが、いずれ就業したいと思っていた」(50.3%) の割合が高い。

図表 27 離職した当時の再就職についての意向：単数回答 (Q17)

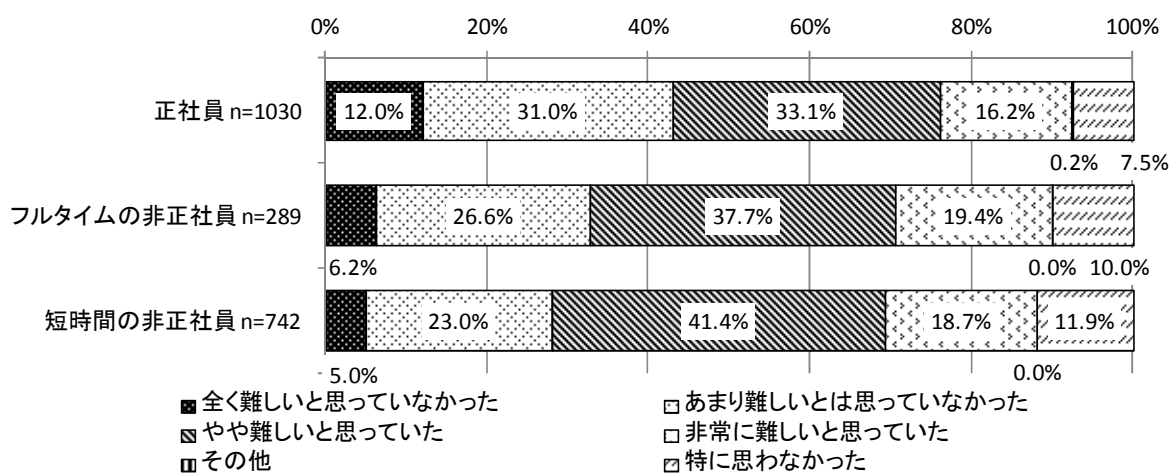


(9) 再就職の際にキャリアや自分の能力を活かすことについて

離職当時、再就職の際にキャリアや自分の能力を活かすことについて、どのように思っていたかをみると、正社員、非正社員とも「やや難しいと思っていた」が最も割合が高く、3～4割強を占めている。次いで、「あまり難しいと思っていなかった」、「非常に難しいと思っていた」の順となっている。

就業形態別にみると、正社員は他と比較して「全く難しいと思っていなかった」(12.0%)の割合が高く、キャリアや自分の能力を活かした再就職を難しいと思っていなかった人(「全く難しいと思っていなかった」及び「あまり難しいと思っていなかった」と、難しいと思っていた人(「非常に難しいと思っていた」及び「やや難しいと思っていた」)が概ね半々である。フルタイムの非正社員及び短時間の非正社員は、難しいと思っていた人の方が多くなっている。

図表 28 再就職の際にキャリアや自分の能力を活かすことについて：単数回答 (Q18)



3. 再就職の状況

- 求職活動中の就業形態の希望と、再就職後の就業形態の差をみると、正社員及び短時間の非正社員は、希望と実際の差が比較的少ない。一方、フルタイムの非正社員は、「正社員（フルタイム／短時間）」を希望していた割合が31.5%に対し、実際は5.5%しか正社員に就けておらず、希望が叶わず「パート・アルバイト」等で再就職した人が一定程度みられる。
- 再就職後の職種は、正社員は「その他一般事務」「専門職・技術職」がそれぞれ2割強、フルタイムの非正社員は「その他一般事務」が約4分の1、「サービス（調理、接客等）」「専門職・技術職」がそれぞれ2割弱、短時間の非正社員は「サービス（調理、接客等）」「その他一般事務」がそれぞれ2割前後を占めている。正社員、非正社員とも、特に「その他一般事務」を求職活動中に希望しながら、実現しなかった人が比較的多い。
- 現在の勤務先の従業員規模は「50人以下」が4～5割、「1,001人以上」が1割強である。
- 再就職後、仕事に慣れるまでの期間は、「再就職後、3か月くらい」までが4割強、「再就職後、半年くらい」が2～3割を占めている。
- 再就職した理由は、「子どもの教育費や生活費がかかるなど、経済的理由のため」が7～8割強で最も多く、次いで「生活を充実させたり、変化を持たせたりしたいと思ったから」があげられている。正社員は、非正社員に比べて「自分の技術や能力、勉強したことを社会で活かしたいと思ったから」が20.9%で割合が高くなっている。
- 再就職先を決める際に重視したこととしては、「仕事内容が希望に合っていること」「希望する雇用形態であること」「職場が近いこと」「残業がない、少ないこと」が多くあげられている。
- 求職活動中の利用機関・情報サービスは、「ハローワークやマザーズハローワークの相談窓口」が4～6割で最も多い。また、非正社員は正社員に比べて「新聞の折り込みチラシ、新聞の求人欄」「求人サイト、就職関連サイト」の利用割合が高い。
- 再就職前に不安のあった人は8割前後にのぼり、「子育てと両立できるか」「仕事についていけるか」「職場の人とうまくやっていけるか」などを不安に感じている人が多い。ただし、そのうち半数程度は、実際に再就職してみると「思っていたほど、心配はなかった」と答えている。
- 再就職活動で苦労したことは、「希望する条件に合う仕事が見つからない」「子どもが小さいため、家族などの支援体制がないと断られてしまう」が多くあげられている。
- 再雇用制度について、「制度があったかどうかかわからない」が最も割合が高く半数前後を占め、制度の利用者は1割未満である。利用した（したい）理由では、「退職前のスキルや知識を活かして働くことができるから」「以前勤めていた会社にあこがれがある（あった）から」などの割合が高い。

(1) 再就職時の仕事について

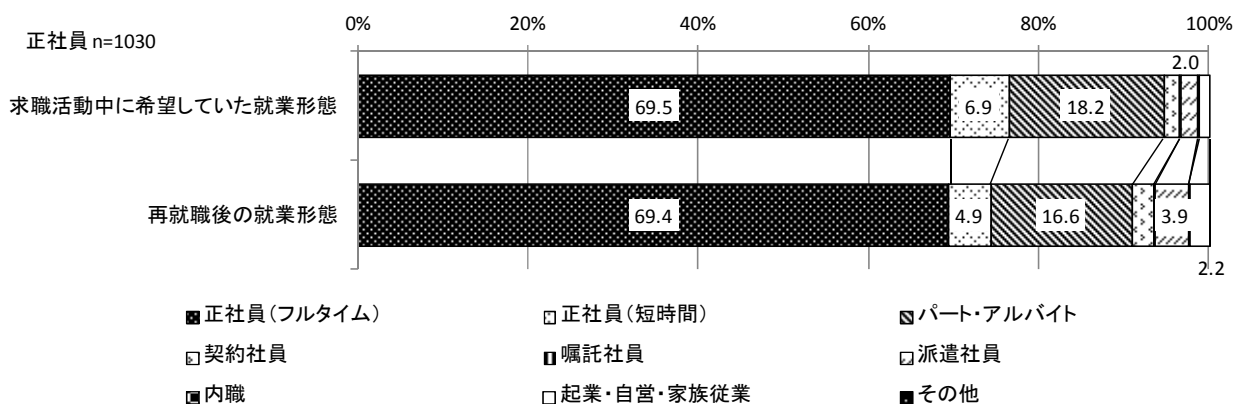
①求職活動中の就業形態の希望と、再就職後の就業形態

求職活動中に希望していた就業形態と再就職後の就業形態をみると、正社員は求職活動中に希望していた就業形態は「正社員（フルタイム）」が69.5%、「パート・アルバイト」が18.2%を占め、再就職後の就業形態は「正社員（フルタイム）」が69.4%、「パート・アルバイト」が16.6%と希望と実際の差はあまりみられない。

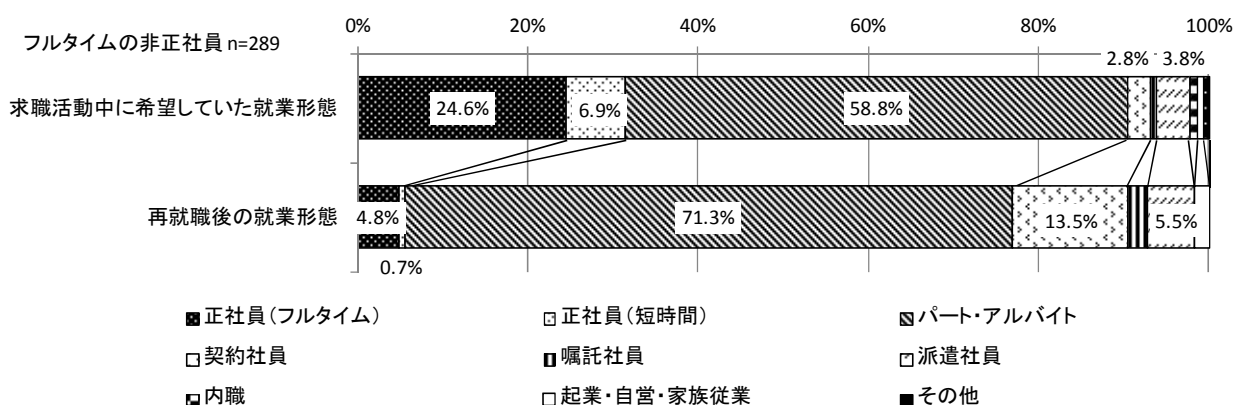
フルタイムの非正社員は、「正社員（フルタイム）」を希望（24.6%）と実際（4.8%）の差が大きく、正社員に就くことができなかった人が、「パート・アルバイト」（希望58.8%、実際71.3%）や、「契約社員」（希望2.8%、実際13.5%）になっている。

短時間の非正社員は、フルタイムの非正社員と同様に、「パート・アルバイト」の希望（82.9％）に比べて、実際（90.3％）の方が多く、「正社員（フルタイム）」、「正社員（短時間）」は希望より実際の方が少ないが、その差はフルタイムの非正社員に比べると小さい傾向にある。

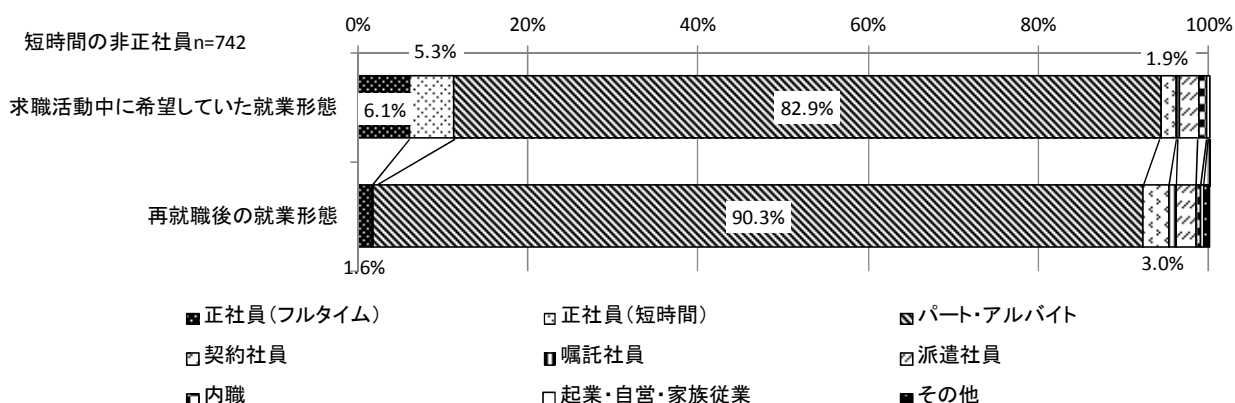
図表 29 求職活動中の就業形態の希望と、再就職後の就業形態【正社員】：単数回答（Q19）



図表 30 求職活動中の就業形態の希望と、再就職後の就業形態【フルタイムの非正社員】：単数回答（Q19）



図表 31 求職活動中の就業形態の希望と、再就職後の就業形態【短時間の非正社員】：単数回答（Q19）



②求職活動中の職種の希望と、再就職後の職種

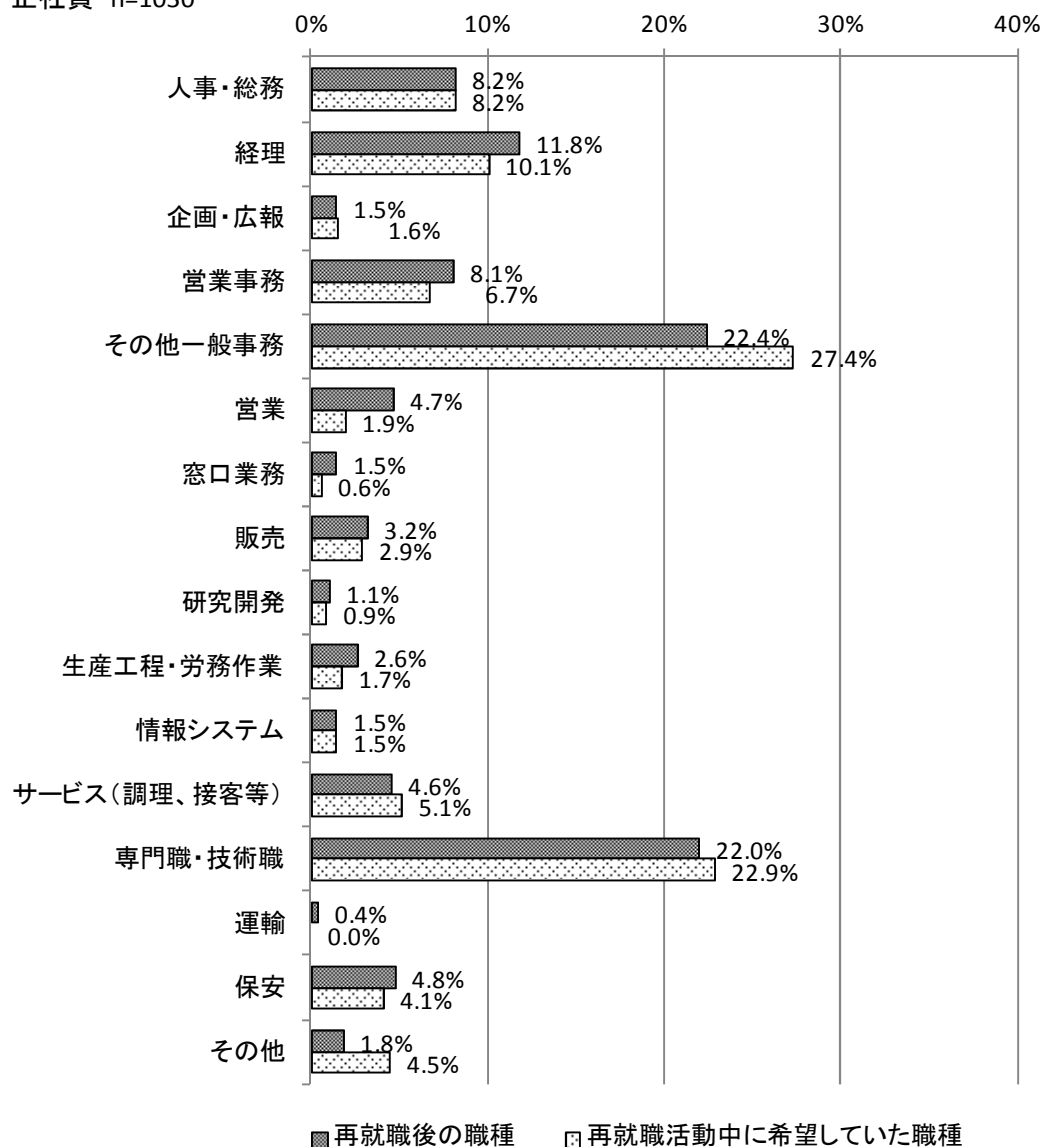
求職活動中に希望していた職種と再就職後の職種をみると、正社員は「その他一般事務」で希望（27.4%）と実際（22.4%）にやや差がみられるが、それ以外はあまり差がなく、「専門職・技術職」はともに2割強となっている。

フルタイムの非正社員は、「その他一般事務」で、希望（29.8%）と実際（24.6%）にやや差がみられるが、それ以外はあまり差がなく、「サービス（調理、接客等）」、「専門職・技術職」はともに2割弱となっている。

短時間の非正社員は、他と比較して「その他一般事務」の希望（27.1%）と実際（17.5%）の差が最も大きい。また、「サービス（調理、接客等）」や、「販売」では、希望（15.4%、7.1%）に対して実際（21.2%、12.0%）の割合が高くなっている。

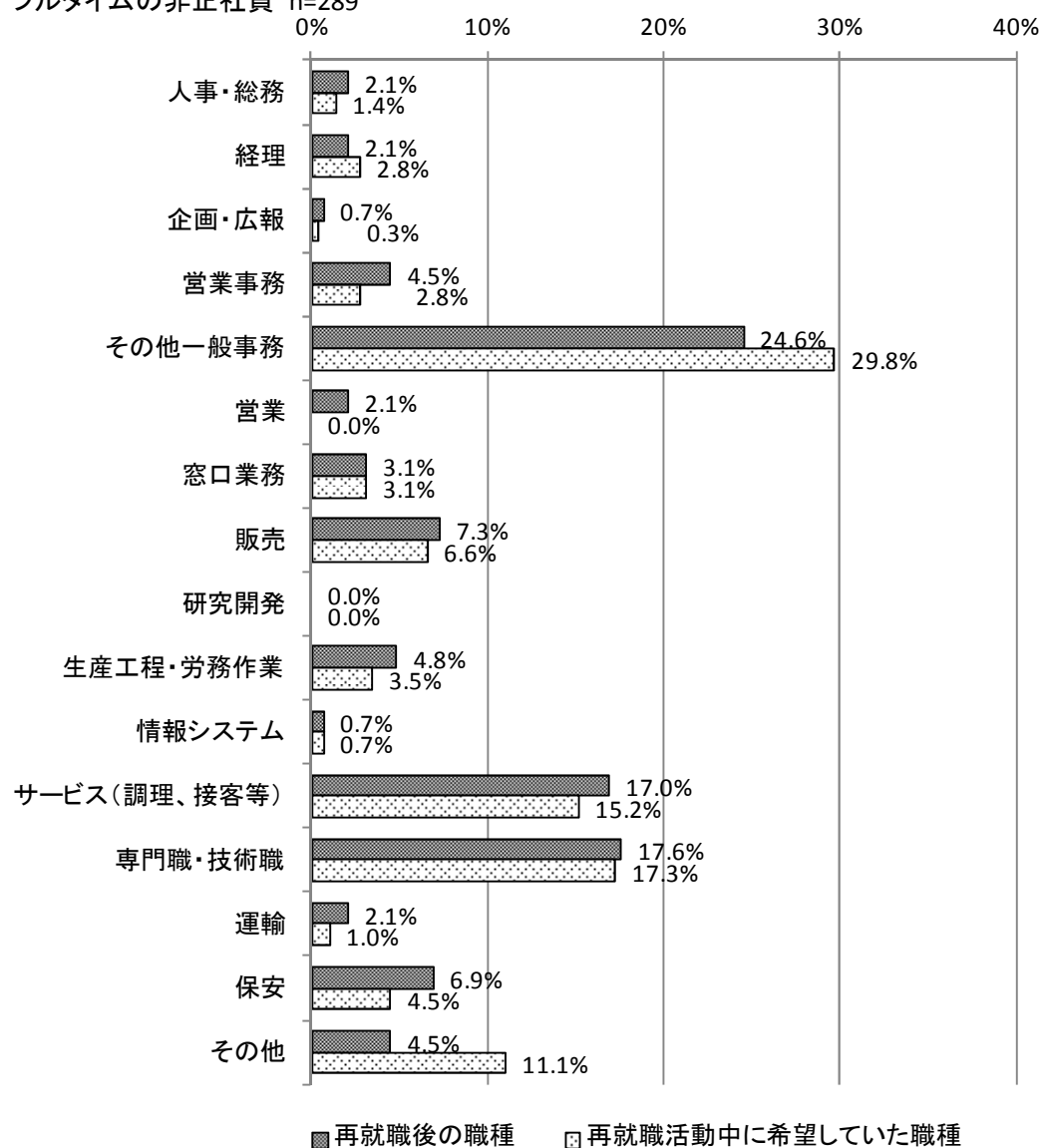
図表 32 求職活動中の職種の希望と、再就職後の職種【正社員】：単数回答（Q20）

正社員 n=1030



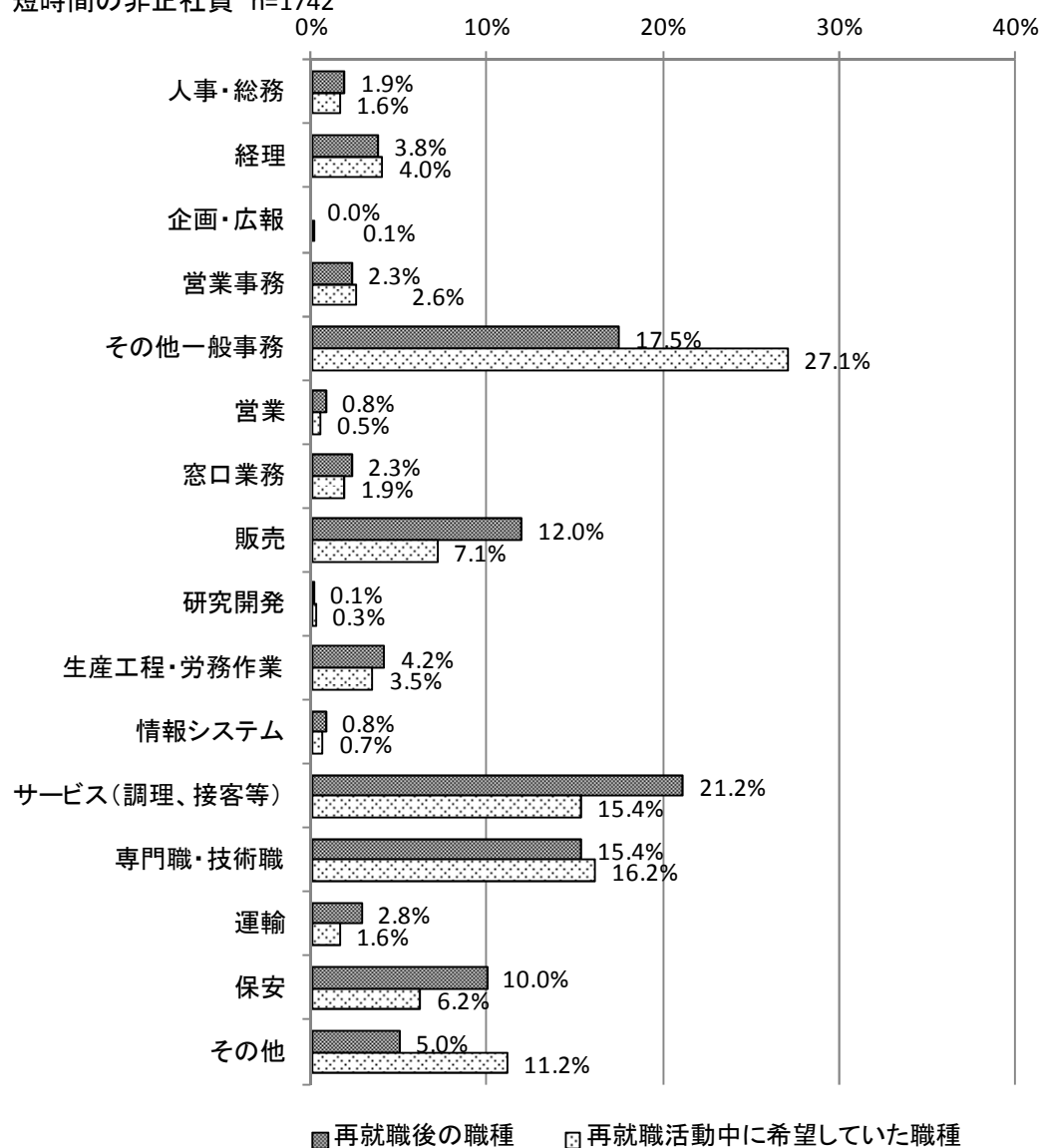
図表 33 求職活動中の職種の希望と、再就職後の職種【フルタイムの非正社員】：単数回答（Q20）

フルタイムの非正社員 n=289



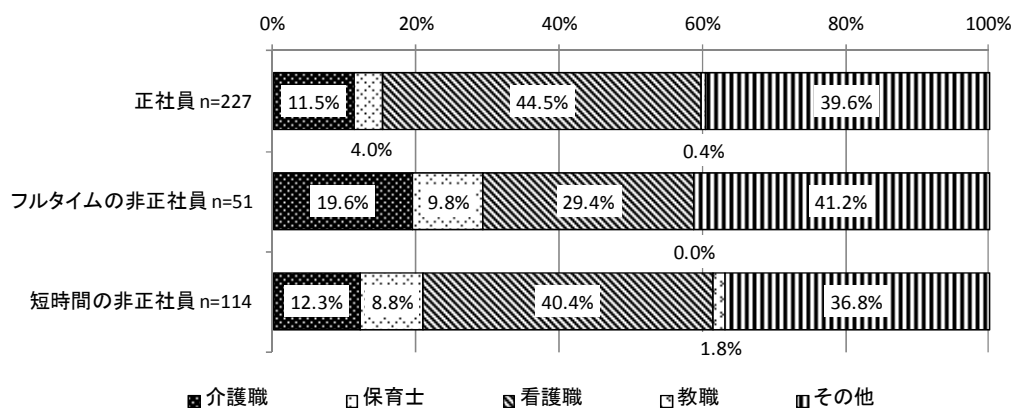
図表 34 求職活動中の職種の希望と、再就職後の職種【短時間の非正社員】：単数回答（Q20）

短時間の非正社員 n=1742



さらに、再就職後の職種が「専門職・技術職」の人についてその具体的な内容をみると、正社員及び短時間の非正社員は、フルタイムの非正社員と比較して、「看護職」の割合が4割強と高い。一方、フルタイムの非正社員は、他と比較して「介護職」（19.6％）の割合が高い。

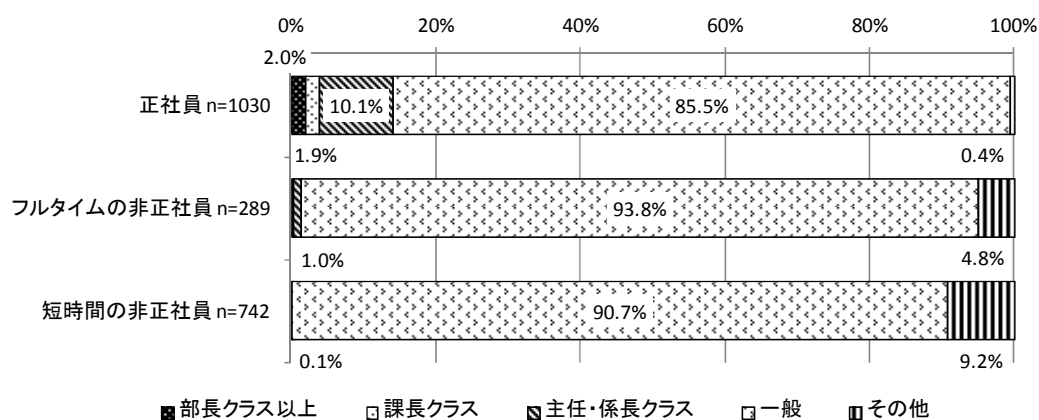
図表 35 専門職・技術職の具体的な内容（再就職後）：単数回答（Q21）



③役職

現在の役職をみると、正社員では、「一般」が85.5％、次いで「主任・係長クラス」が10.1％となっている。フルタイムの非正社員、短時間の非正社員は、「一般」が9割以上を占めている。

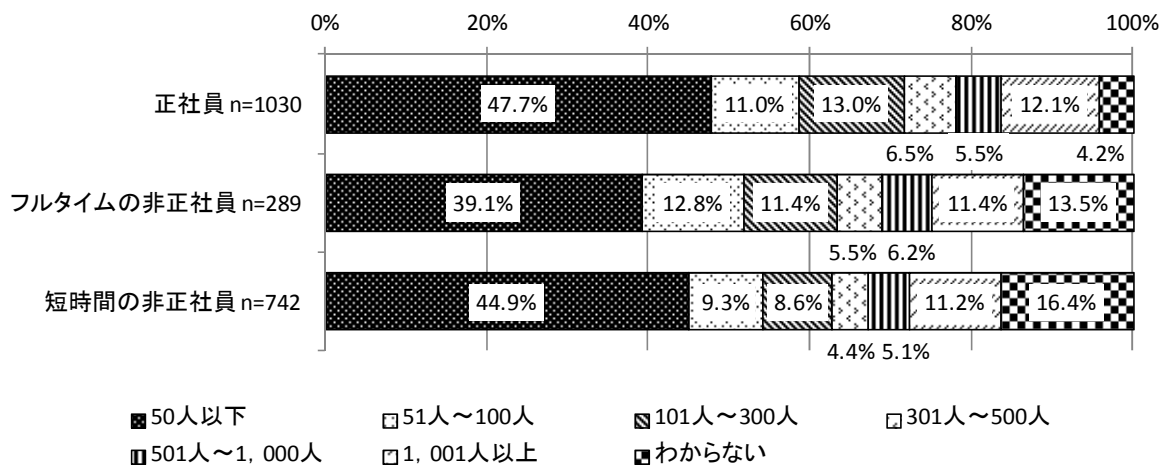
図表 36 役職：単数回答（Q22）



④従業員規模

現在の勤務先の従業員規模をみると、正社員、非正社員とも「50人以下」が最も割合が高く、4～5割前後を占めている。また、「1,001人以上」の割合は、1割強となっている。

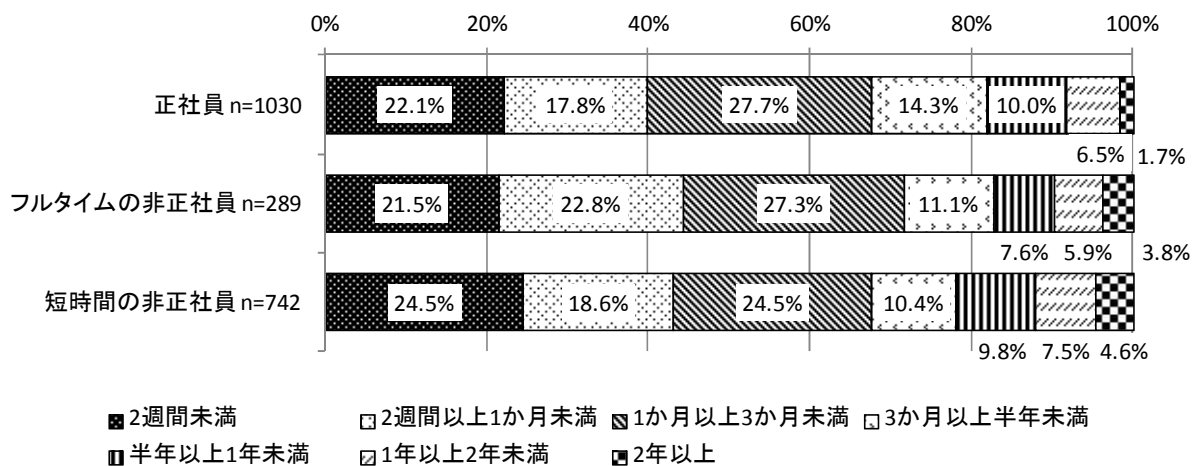
図表 37 従業員規模：単数回答（Q23）



(2) 再就職の際の求職期間

再就職の際の求職期間をみると、正社員、非正社員とも「1か月以上3か月未満」が2～3割で最も割合が高い。また、「2週間未満」、「2週間以上1か月未満」を合わせた『1か月未満』の割合は、4割前後となっている。

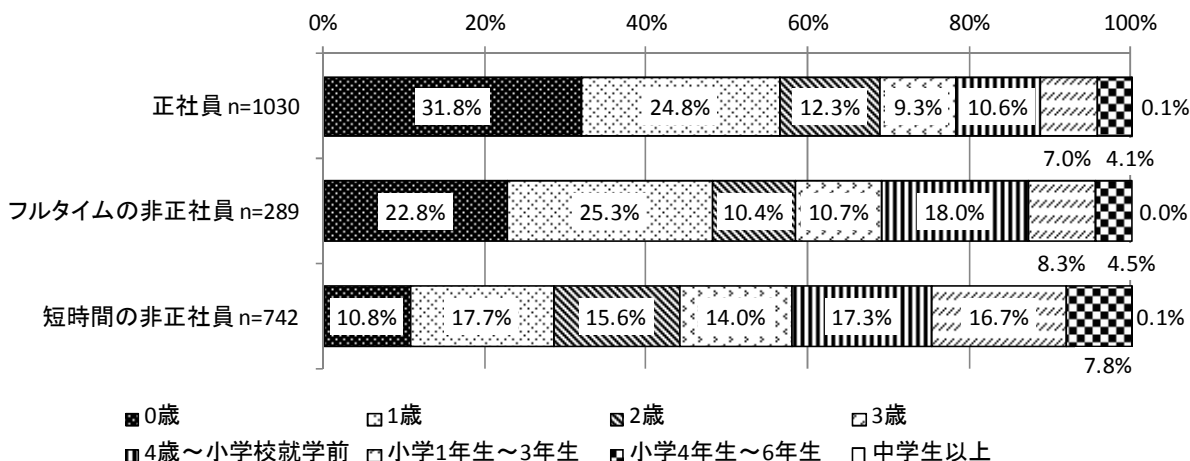
図表 38 再就職の際の求職期間：単数回答（Q24）



(3) 再就職時の末子年齢

再就職時の末子の年齢をみると、正社員、フルタイムの非正社員、短時間の非正社員の順に年齢が高くなっている。「正社員」は、「0歳」（31.8%）と「1歳」（24.8%）を合わせると半数以上を占めており、比較的子どもが小さい時期に再就職している人が多い傾向にある。一方、短時間の非正社員は、2歳以上で71.5%であり、子どもがある程度大きくなってから再就職している人が多い。

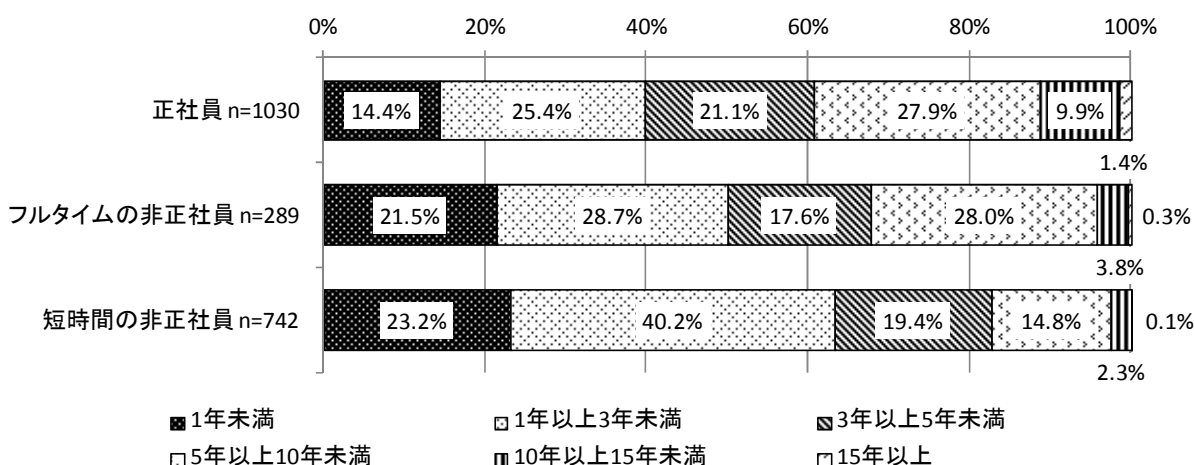
図表 39 再就職時の末子年齢：単数回答（Q25）



(4) 現在の勤務先での勤続年数

現在の勤務先での勤続年数をみると、短時間の非正社員、フルタイムの非正社員、正社員の順に長くなる傾向にあり、正社員は他と比較して「10年以上15年未満」（9.9%）の割合が高く、「5年以上10年未満」（27.9%）を合わせると約4割を占めている。一方、短時間の非正社員は、他と比較して「1年未満」（23.2%）、「1年以上3年未満」（40.2%）の割合が高い。

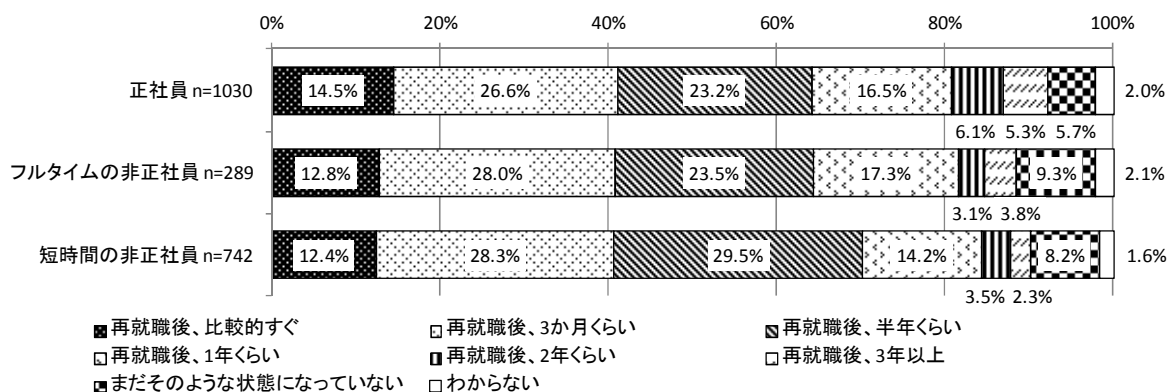
図表 40 現在の勤務先での勤続年数：単数回答（Q26）



(5) 再就職後、仕事に慣れるまでの期間

再就職後、「仕事に慣れた、仕事をこなせるようになった」と感じるようになるまでの期間をみると、正社員、非正社員とも「再就職後、3か月くらい」までが4割以上、「再就職後、半年くらい」までが6割以上となっている。

図表 41 再就職後、仕事に慣れるまでの期間：単数回答（Q27）

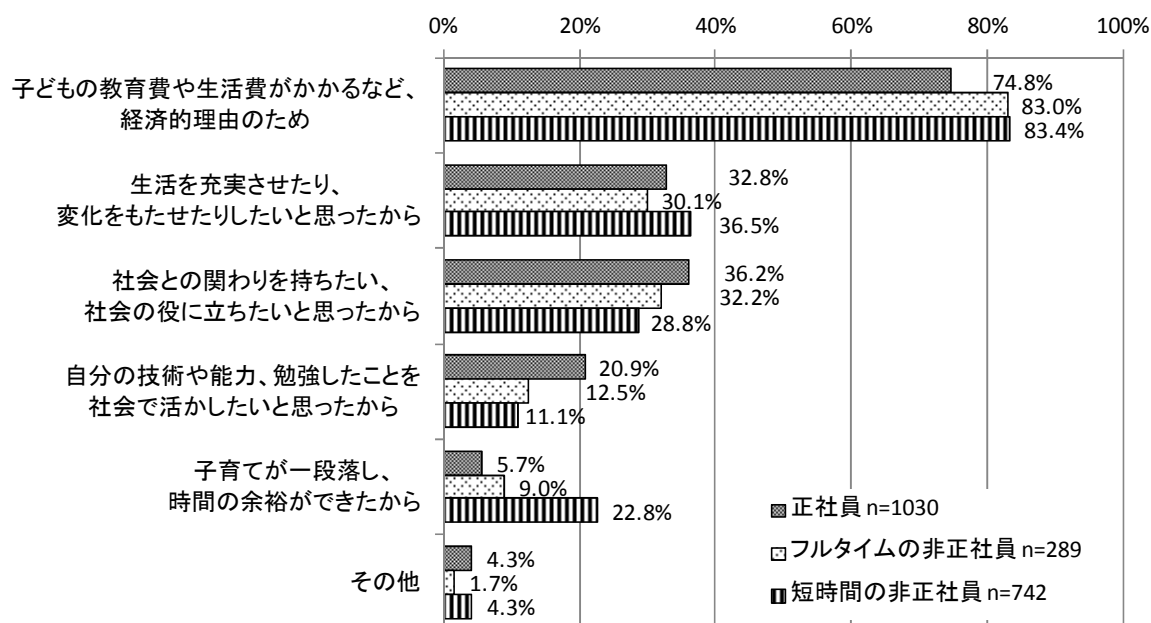


(6) 再就職した理由

再就職した理由をみると、正社員、非正社員とも「子どもの教育費や生活費がかかるなど、経済的理由のため」が7～8割前後で最も多い。

ただし、正社員は、他と比較して「社会との関わりを持ちたい、社会の役に立ちたいと思ったから」（36.2%）や、「自分の技術や能力、勉強したことを社会で活かしたいと思ったから」（20.9%）の割合が高い傾向にある。一方、短時間の非正社員は、他と比較して「子育てが一段落し、時間の余裕ができたから」（22.8%）の割合が高い。

図表 42 再就職した理由：複数回答（Q28）

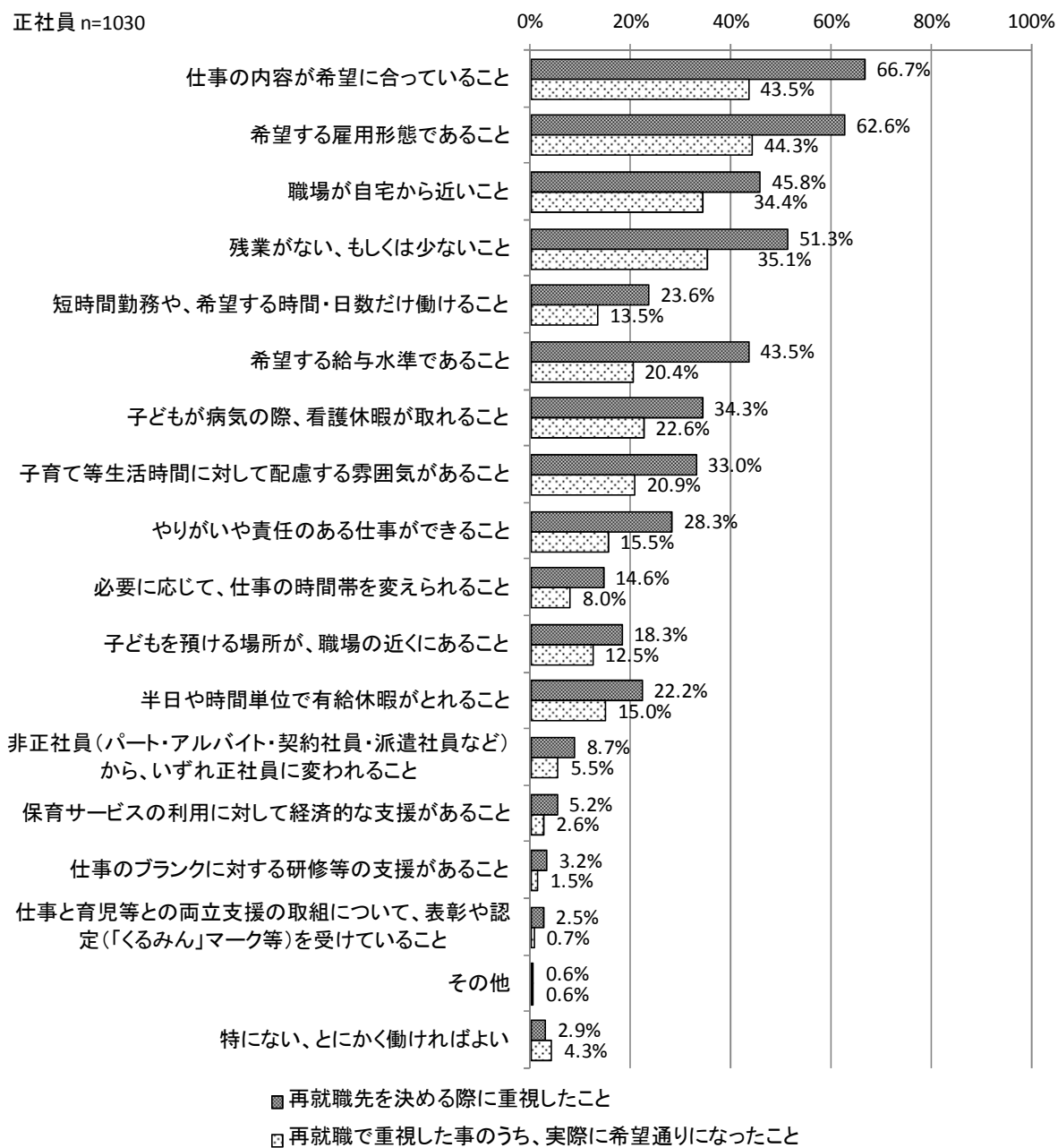


(7) 再就職先を決める際に重視したこと等

再就職先を決める際に重視したことをみると、正社員は「仕事の内容が希望に合っていること」(66.7%)、「希望する雇用形態であること」(62.6%)、「残業がない、もしくは少ないこと」(51.3%)などが上位にあげられている。

重視したことのうち、希望通りになったこととの差をみると、「仕事の内容が希望に合っていること」(差 23.2 ポイント)、「希望する給与水準であること」(差 23.1 ポイント)などで、両者の差が大きくなっている。

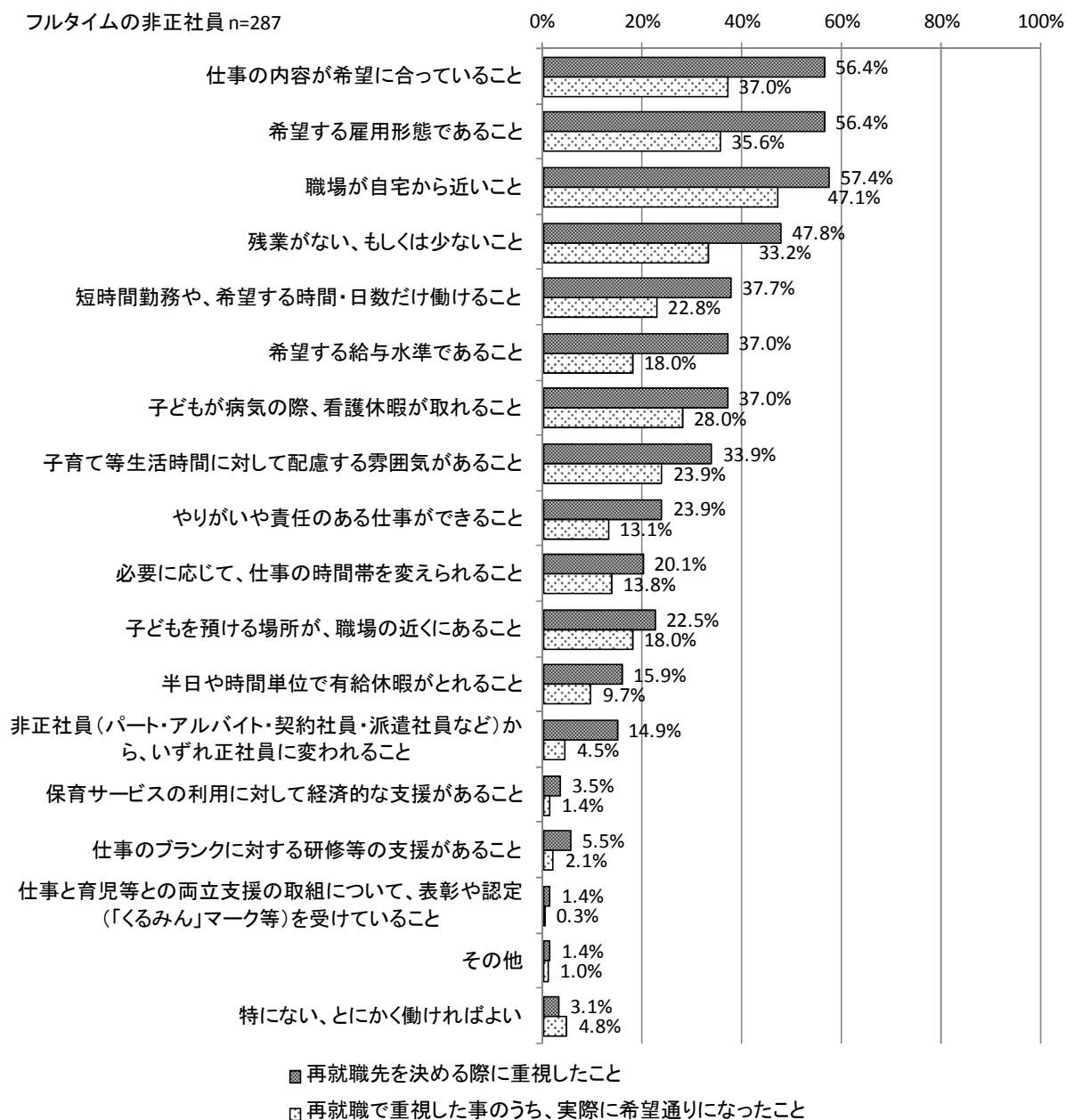
図表 43 再就職先を決める際に重視したこと等【正社員】：複数回答 (Q29)



フルタイムの非正社員については、「職場が自宅から近いこと」(57.4%)、「仕事の内容が希望に合っていること」(56.4%)、「希望する雇用形態であること」(56.4%)などが上位にあげられている。

重視したことのうち、希望通りになったこととの差をみると、「希望する雇用形態であること」(差 20.8 ポイント)、「仕事の内容が希望に合っていること」(差 19.4 ポイント)、「希望する給与水準であること」(差 19.0 ポイント)などで両者の差が大きくなっている。

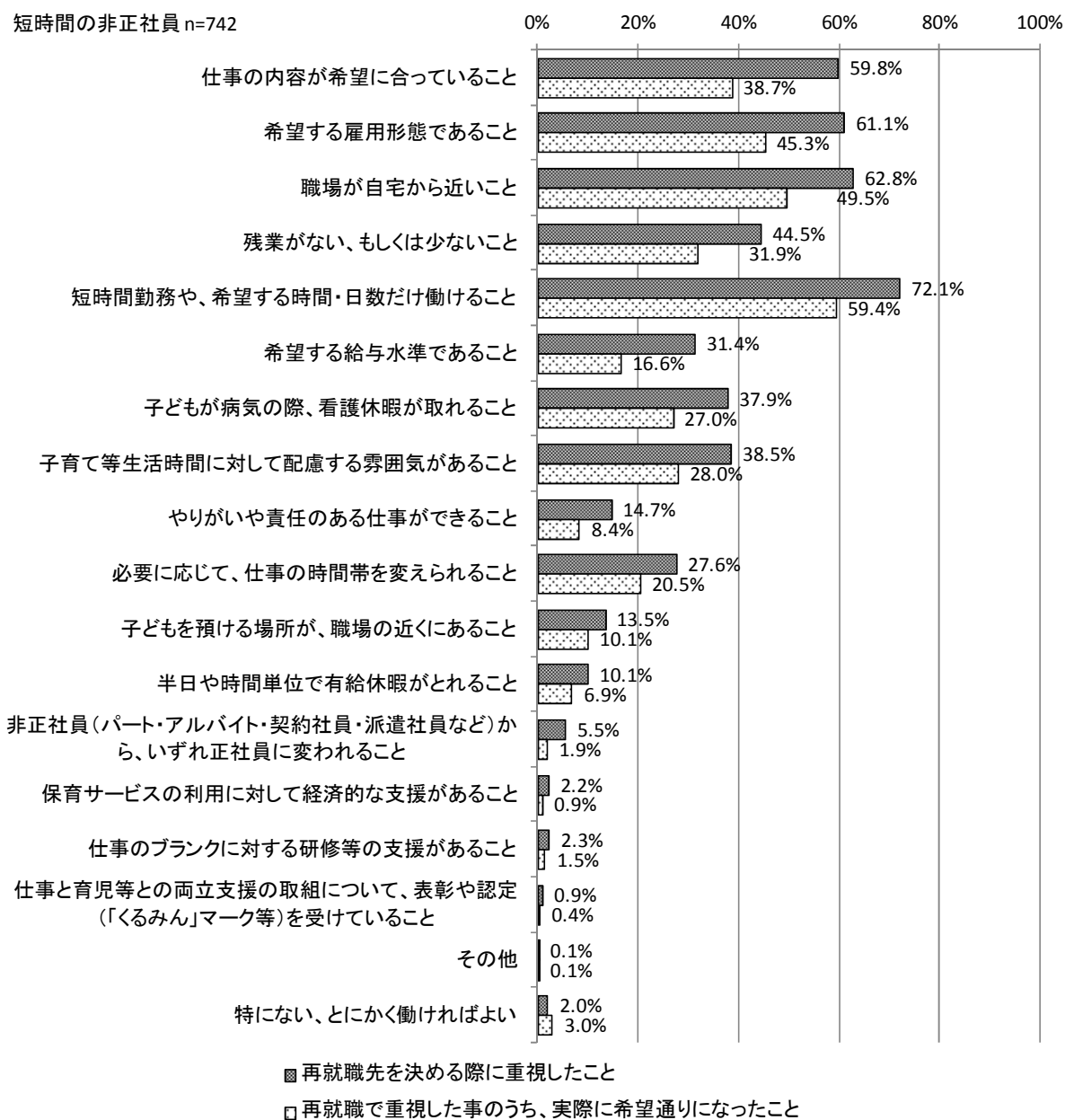
図表 44 再就職先を決める際に重視したこと等【フルタイムの非正社員】：複数回答 (Q29)



短時間の非正社員については「短時間勤務や、希望する時間・日数だけ働けること」(72.1%)、「職場が自宅から近いこと」(62.8%)、「希望する雇用形態であること」(61.1%)などが上位にあげられている。

重視したことのうち、希望通りになったこととの差をみると、「仕事の内容が希望に合っていること」(差 21.1 ポイント)、「希望する雇用形態であること」(差 15.8 ポイント)などで両者の差が大きくなっている。

図表 45 再就職先を決める際に重視したこと等【短時間の非正社員】：複数回答 (Q29)

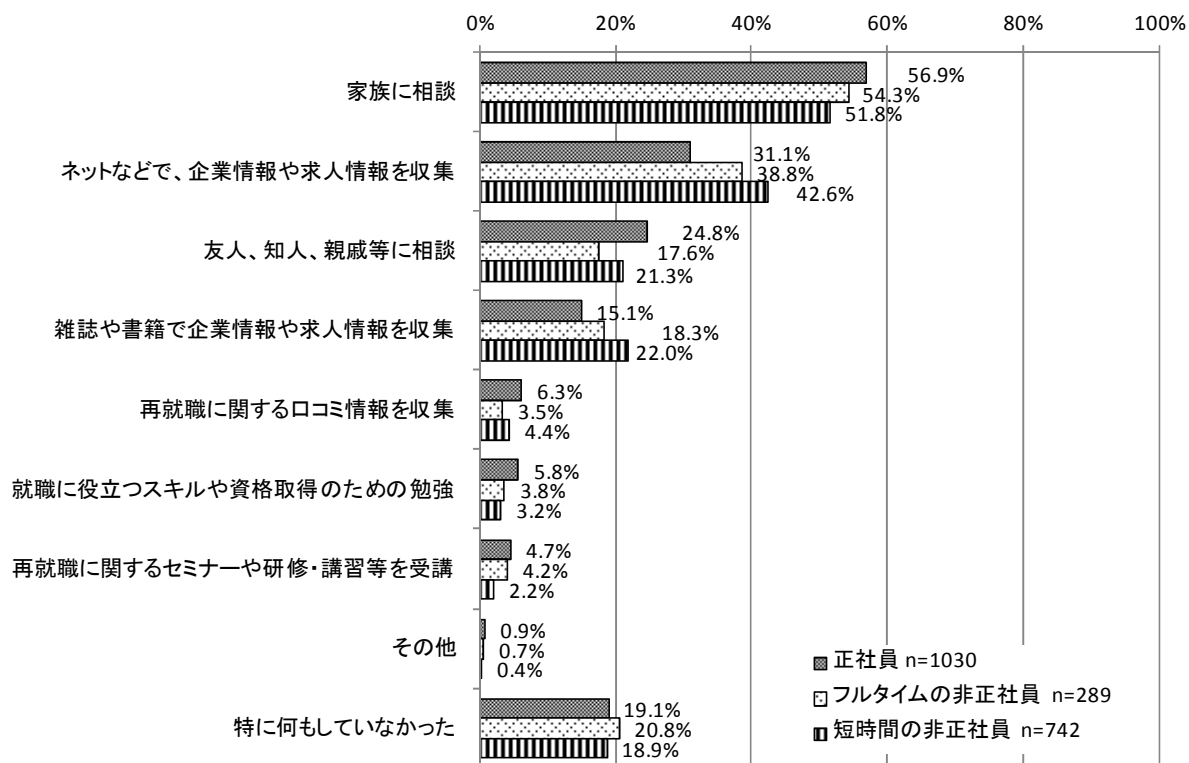


(8) 離職期間中、求職活動を始める前に取り組んでいたこと

離職期間中、求職活動を始める前に取り組んでいたことをみると、正社員、非正社員とも「家族に相談」、「ネットなどで、企業情報や求人情報を収集」が上位にあげられている。

また、就業形態別にみると、正社員は他と比較して「家族に相談」（56.9％）の割合が高い一方、短時間の非正社員は、「ネットなどで、企業情報や求人情報を収集」（42.6％）、「雑誌や書籍で企業情報や求人情報を収集」（22.0％）などの割合が高い傾向にある。

図表 46 離職期間中、求職活動を始める前に取り組んでいたこと：複数回答（Q30）



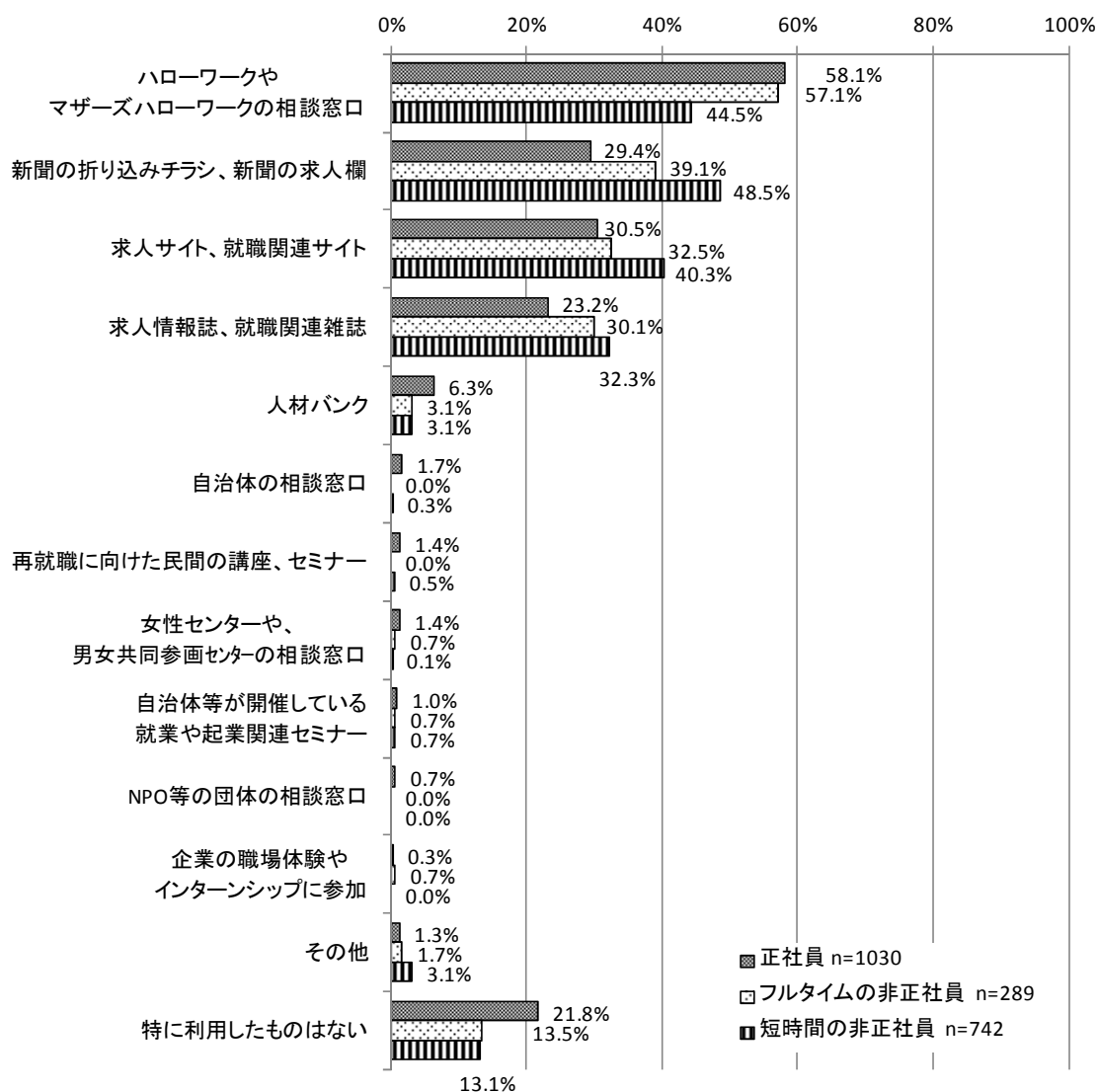
(9) 求職活動中に利用した機関や情報サービス

求職活動中に利用したサービスや機関をみると正社員及びフルタイムの非正社員は、「ハローワークやマザーズハローワークの相談窓口」がそれぞれ 58.1%、57.1%で最も多くあげられている。

短時間の非正社員は、「新聞の折り込みチラシ、新聞の求人欄」(48.5%) が最も割合が高く、他と比較して、「求人サイト、就職関連サイト」(40.3%) や「求人情報誌、就職関連雑誌」(32.3%) の利用も多い傾向にある。

一方、「特に利用したものはない」は、正社員で割合が高く、21.8%と 2 割強を占めている。

図表 47 求職活動中に利用した機関や情報サービス：複数回答 (Q31)



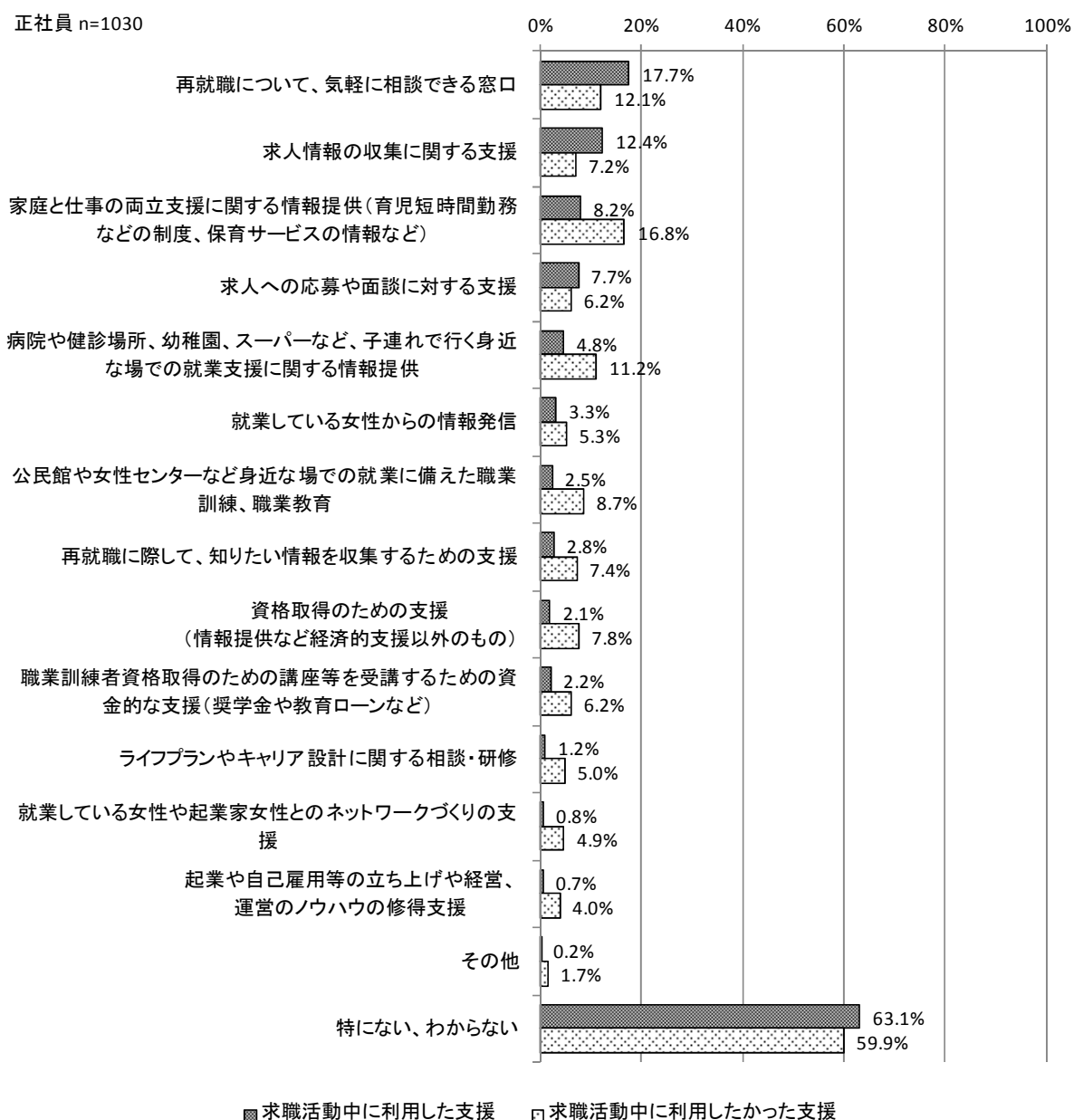
(10) 求職活動中に利用した支援／利用しなかった支援

求職活動中に利用した支援をみると、正社員は「再就職について、気軽に相談できる窓口」(17.7%)、「求人情報の収集に関する支援」(12.4%)などが上位にあげられている。

利用しなかった支援をみると、「家庭と仕事の両立支援に関する情報提供（育児短時間勤務などの制度、保育サービスの情報など）」(16.8%)、「再就職について、気軽に相談できる窓口」(12.1%)などが上位にあげられている。そのほか、利用したものとの差が大きいものとしては、「病院や健診場所、幼稚園、スーパーなど、子連れで行く身近な場での就業支援に関する情報提供」(差 6.4 ポイント)などがあげられる。

また、「特にない、わからない」は、利用経験、利用希望とも6割前後となっている。

図表 48 求職活動中に利用した支援／利用しなかった支援【正社員】：複数回答（Q32）

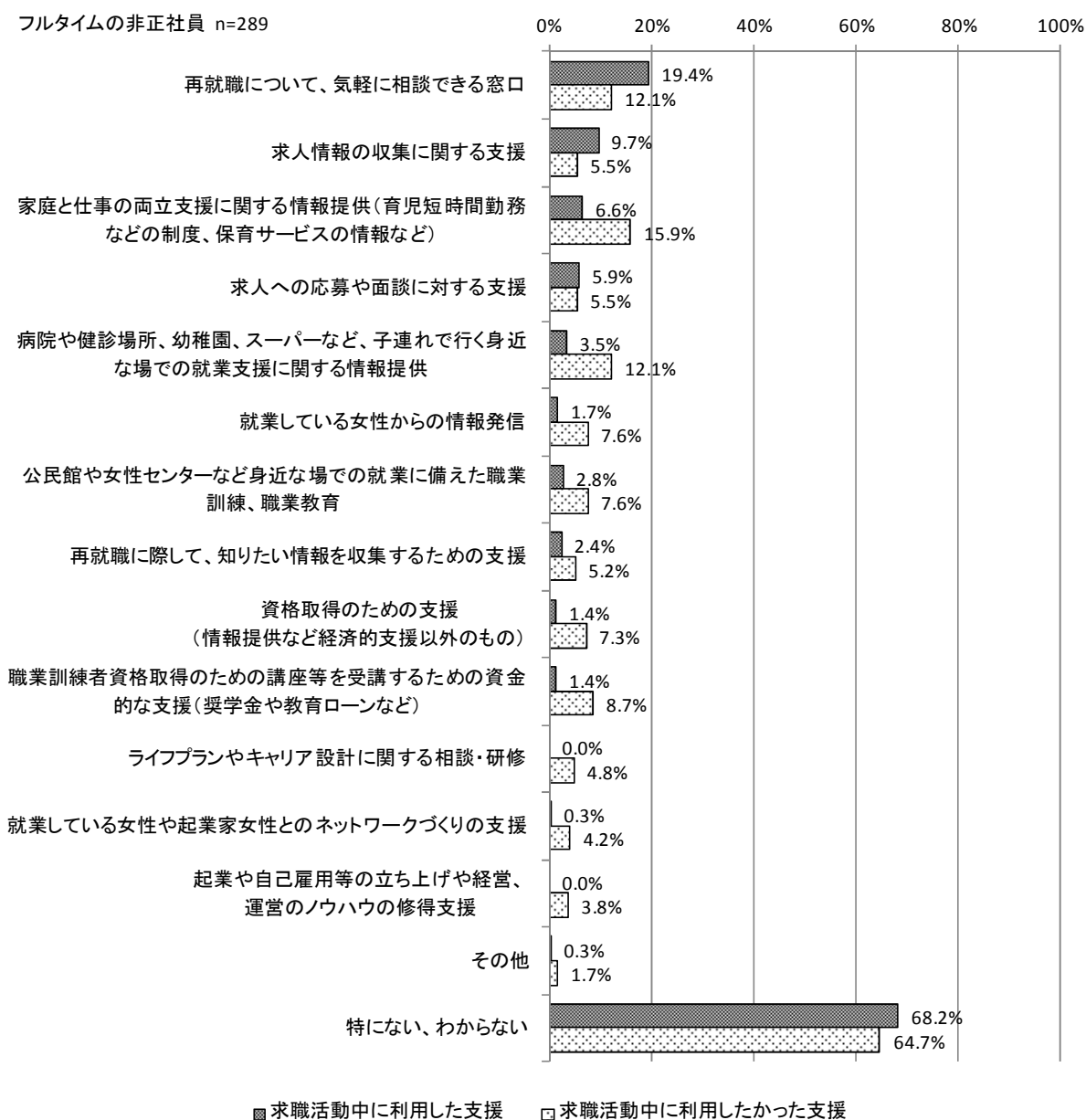


フルタイムの非正社員は「再就職について、気軽に相談できる窓口」(19.4%)が最も多く、次いで「求人情報の収集に関する支援」(9.7%)が上位にあげられている。

利用しなかった支援をみると、「家庭と仕事の両立支援に関する情報提供(育児短時間勤務などの制度、保育サービスの情報など)」(15.9%)、「再就職について、気軽に相談できる窓口」(12.1%)、「病院や健診場所、幼稚園、スーパーなど、子連れで行く身近な場での就業支援に関する情報提供」(12.1%)などがあげられている。

また、「特にない、わからない」は利用経験、利用希望とも6～7割となっている。

図表 49 求職活動中に利用した支援／利用しなかった支援
【フルタイムの非正社員】：複数回答(Q32)



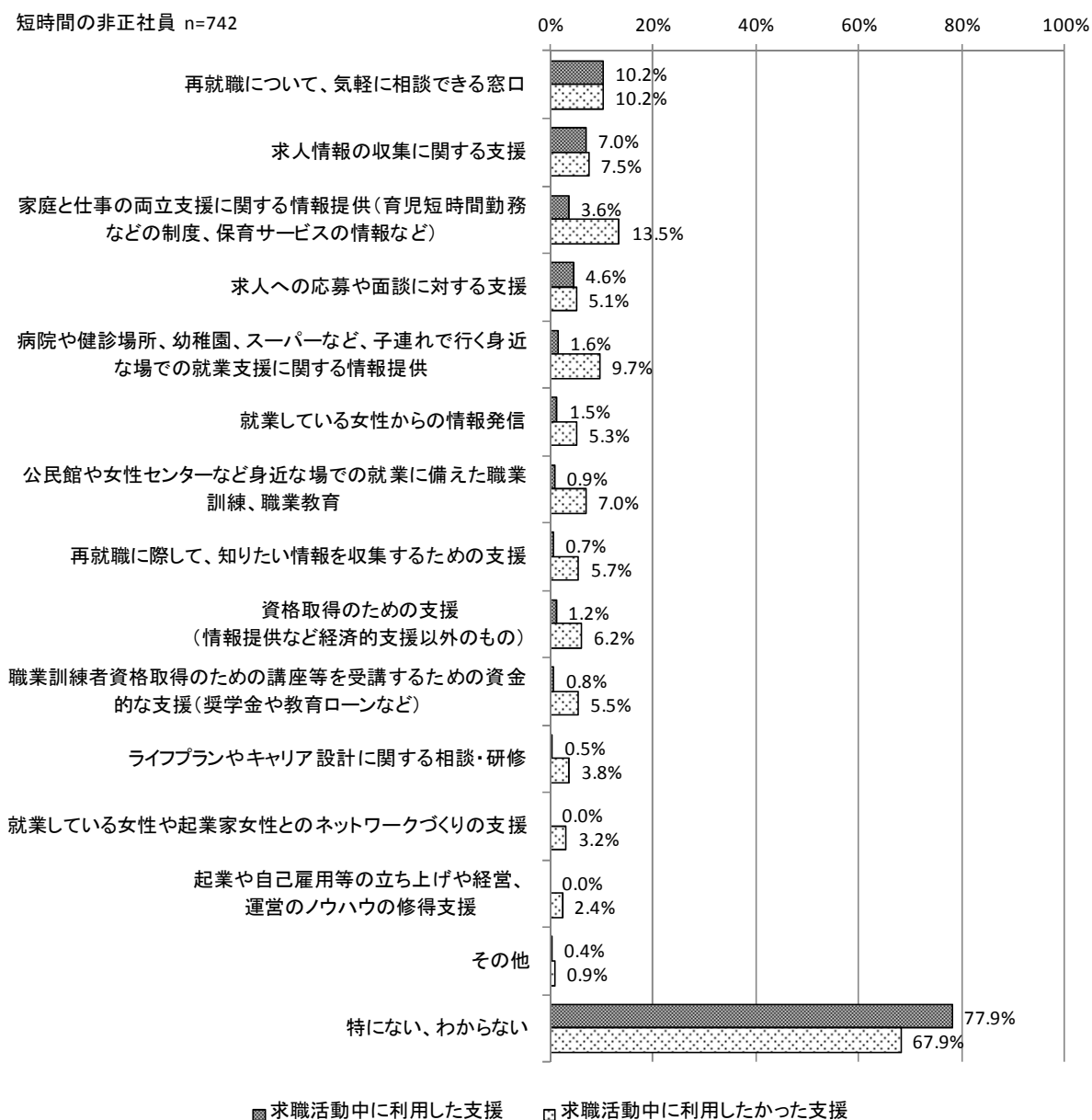
短時間の非正社員は「再就職について、気軽に相談できる窓口」(10.2%)、「求人情報の収集に関する支援」(7.0%)などが上位であるが、いずれも正社員、フルタイムの非正社員に比べると利用割合は低い。

利用しなかった支援をみると、「家庭と仕事の両立支援に関する情報提供(育児短時間勤務などの制度、保育サービスの情報など)」(13.5%)、「再就職について、気軽に相談できる窓口」(10.2%)、「病院や健診場所、幼稚園、スーパーなど、子連れで行く身近な場での就業支援に関する情報提供」(9.7%)などが上位にあげられている。

また、「特にない、わからない」は利用経験、利用希望とも7～8割前後となっている。

図表 50 求職活動中に利用した支援／利用しなかった支援

【短時間の非正社員】：複数回答(Q32)

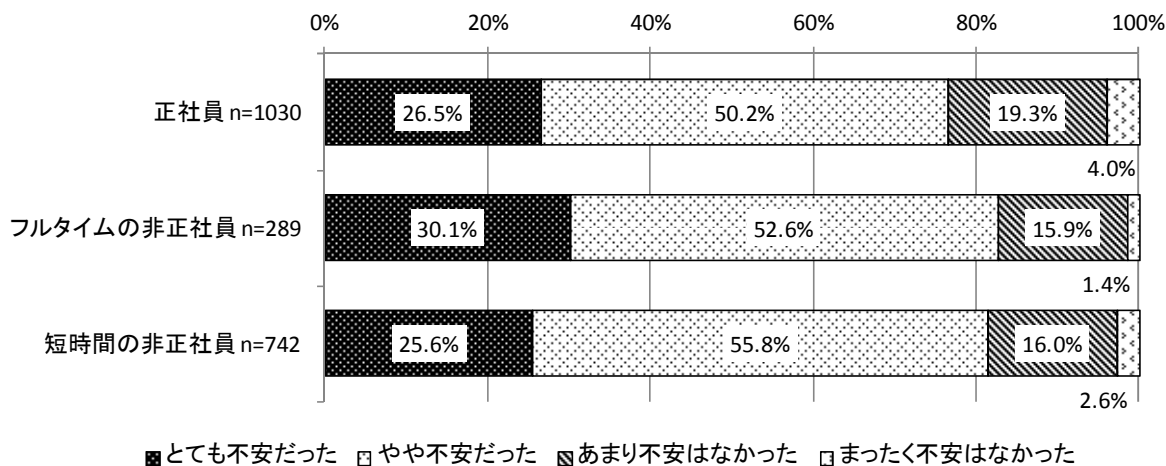


(11) 再就職にあたっての不安

①再就職にあたっての不安

再就職にあたっての不安をみると、正社員、非正社員とも「とても不安だった」と「やや不安だった」を合わせた、不安のあった人が8割前後を占めている。

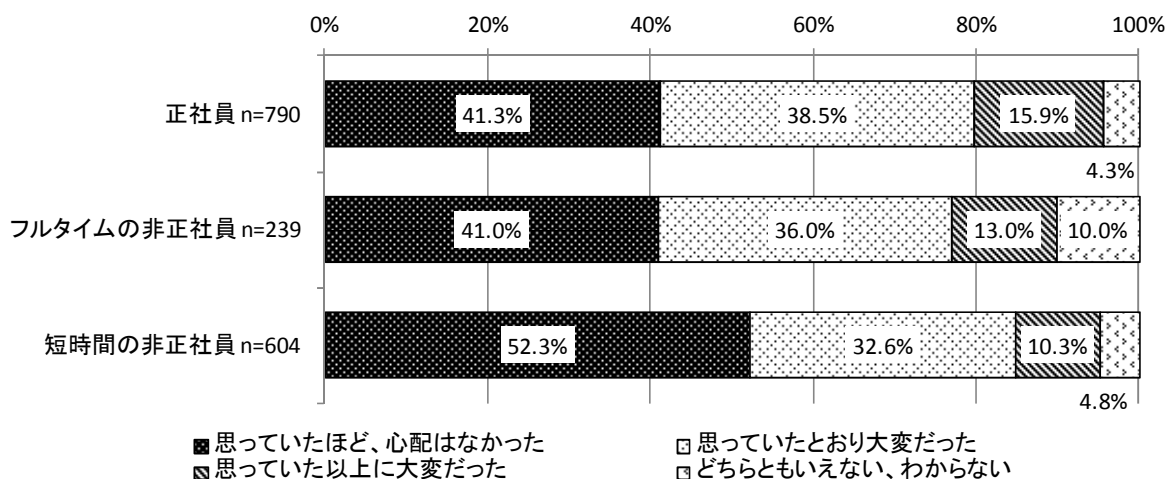
図表 51 再就職にあたっての不安：単数回答（Q33）



②再就職前に感じていた不安と実際

再就職前に不安を感じていた人について、実際に再就職後どうだったかをきいたところ、正社員、非正社員とも「思っていたほど、心配はなかった」が4～5割強で最も割合が高い。一方で、「思っていたとおりに大変だった」が3～4割、「思っていた以上に大変だった」も1割以上を占めており、短時間の非正社員、フルタイムの非正社員、正社員の順に、実際に再就職してみて大変だったとする割合が高くなる傾向がみられる。

図表 52 再就職前に感じていた不安と実際：単数回答（Q34）



③再就職前に不安だったことと、実際に働いてみると心配なかったこと

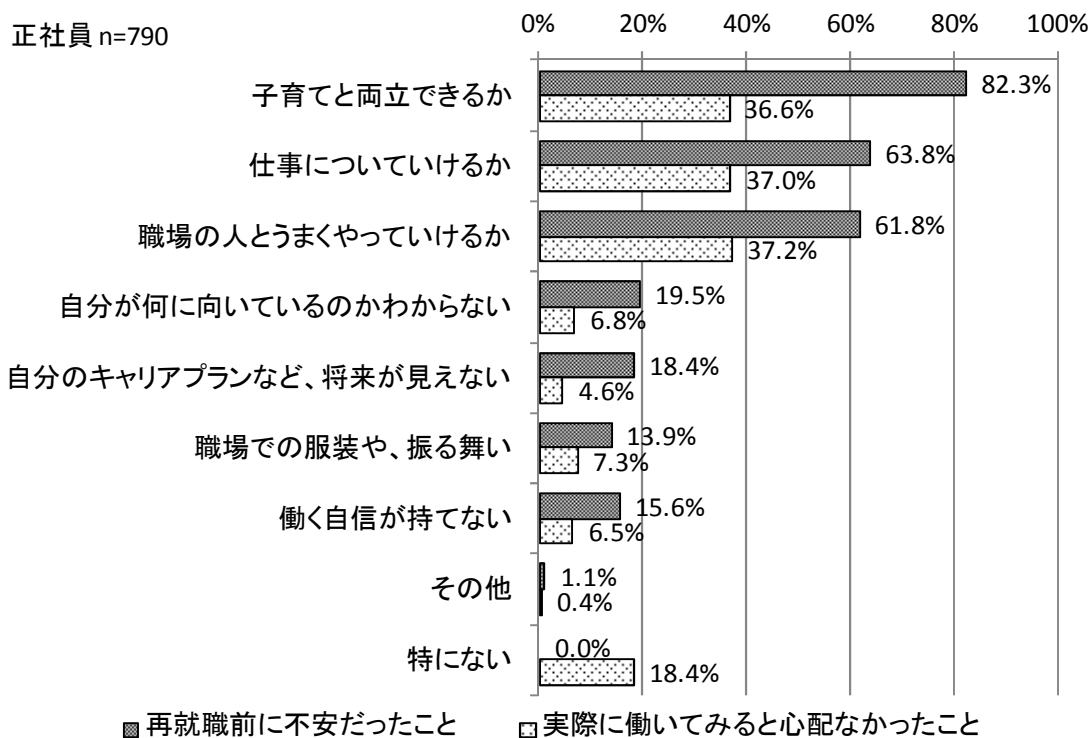
再就職前に不安があった人について、具体的にその内容と、実際に働いてみると思っていたほど心配はなかったことをきいた。

正社員は「子育てと両立できるか」(82.3%)、「仕事についていけるか」(63.8%)、「職場の人とうまくやっていけるか」(61.8%)などが上位にあげられている。

実際に働いてみると心配なかったこととの差をみると、「子育てと両立できるか」(差 45.7 ポイント)、「仕事についていけるか」(差 26.8 ポイント)などで、差が大きくなっている。

図表 53 再就職前に不安だったことと、実際に働いてみると心配なかったこと

【正社員】：複数回答 (Q35)

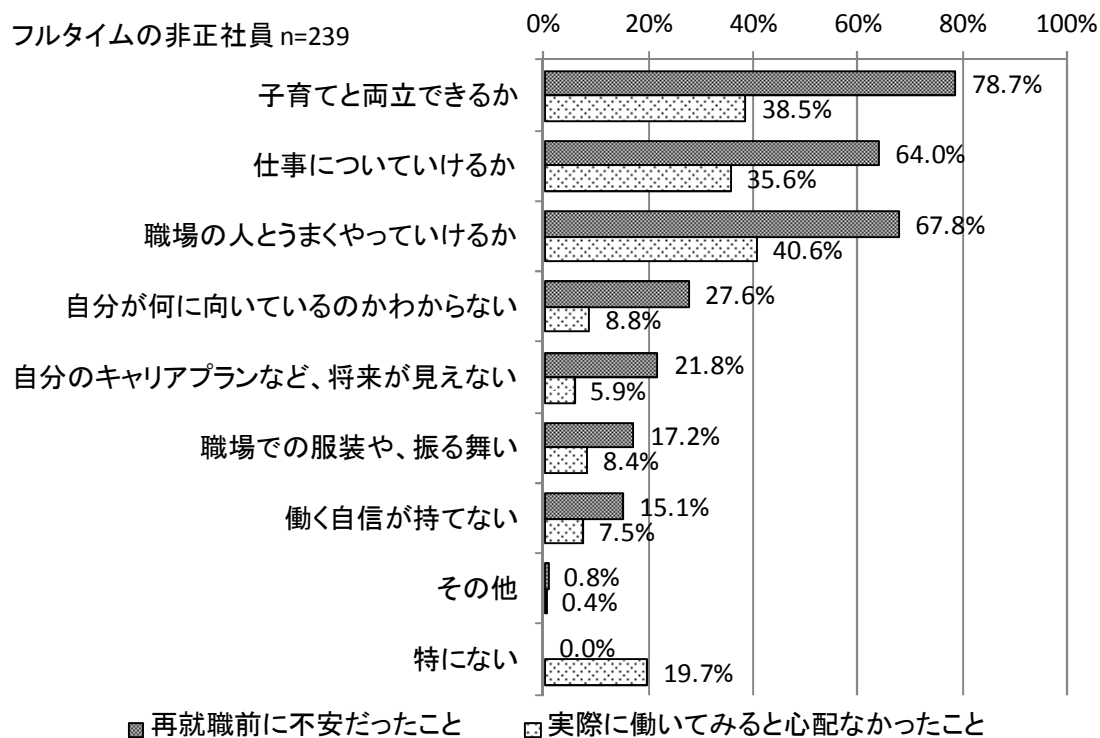


フルタイムの非正社員については「子育てと両立できるか」(78.7%)、「職場の人とうまくやっていけるか」(67.8%)、「仕事についていけるか」(64.0%)などが上位にあげられている。

実際に働いてみると心配なかったこととの差をみると、「子育てと両立できるか」(差 40.2 ポイント)、「仕事についていけるか」(差 28.4 ポイント)などで、差が大きくなっている。

図表 54 再就職前に不安だったことと、実際に働いてみると心配なかったこと

【フルタイムの非正社員】：複数回答 (Q35)

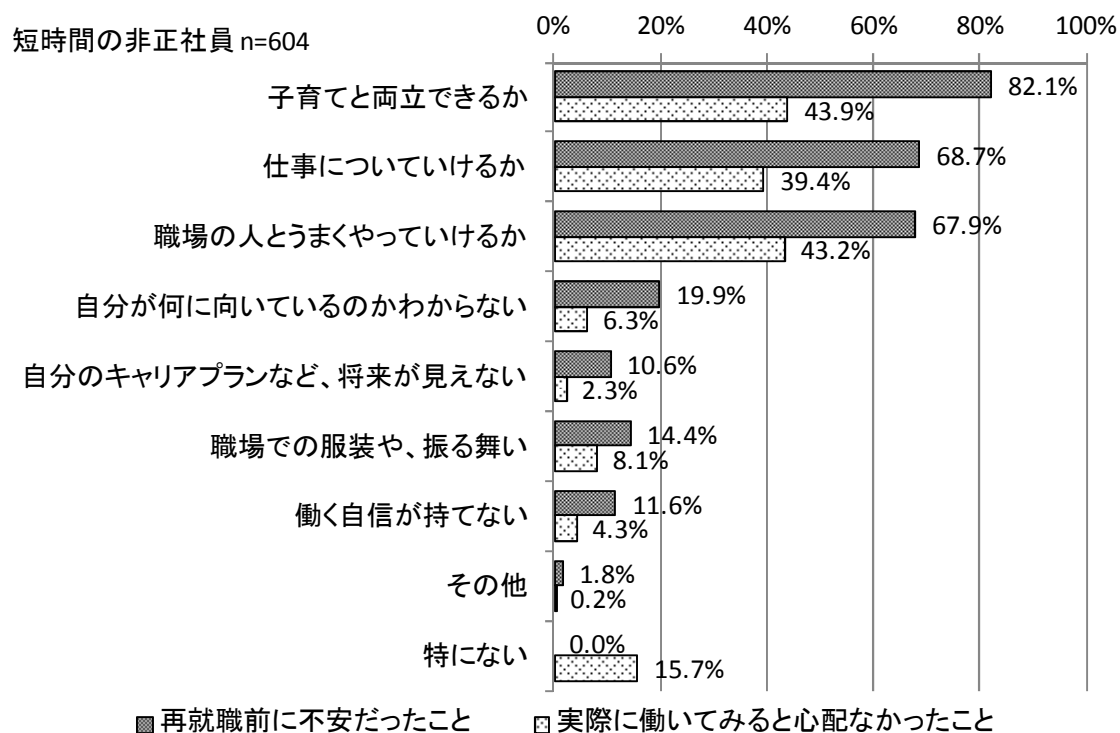


短時間の非正社員については「子育てと両立できるか」(82.1%)、「仕事についていけるか」(68.7%)、「職場の人とうまくやっていけるか」(67.9%)などが上位にあげられている。

実際に働いてみると心配なかったこととの差をみると、「子育てと両立できるか」(差 38.2 ポイント)、「仕事についていけるか」(差 29.3 ポイント)などで、差が大きくなっている。

図表 55 再就職前に不安だったことと、実際に働いてみると心配なかったこと

【短時間の非正社員】：複数回答 (Q35)

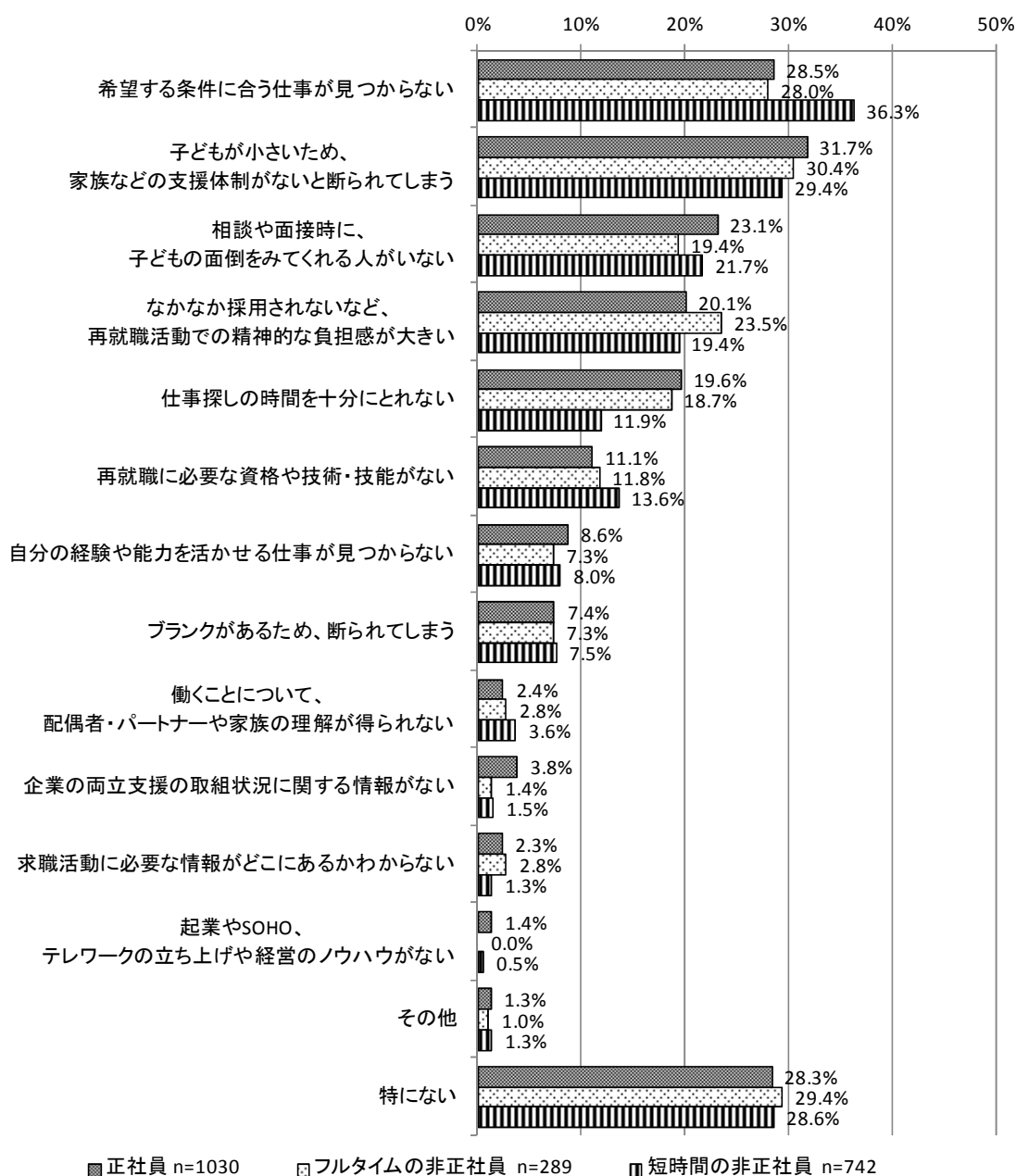


(12) 再就職活動で苦労した事

再就職活動で苦労した事をみると、正社員、非正社員とも「子どもが小さいため、家族などの支援体制がないと断られてしまう」、「希望する条件に合う仕事が見つからない」、「相談や面談時に、子どもの面倒をみてくれる人がいない」、「なかなか採用されないなど、再就職活動での精神的な負担感が大きい」などが上位にあげられている。

また、正社員及びフルタイムの非正社員は、短時間の非正社員と比べて、「仕事探しの時間を十分にとれない」(19.6%、18.7%)、短時間の非正社員は、他と比較して「希望する条件に合う仕事が見つからない」(36.3%)の割合が高い傾向がみられる。

図表 56 再就職活動で苦労した事：複数回答（Q36）

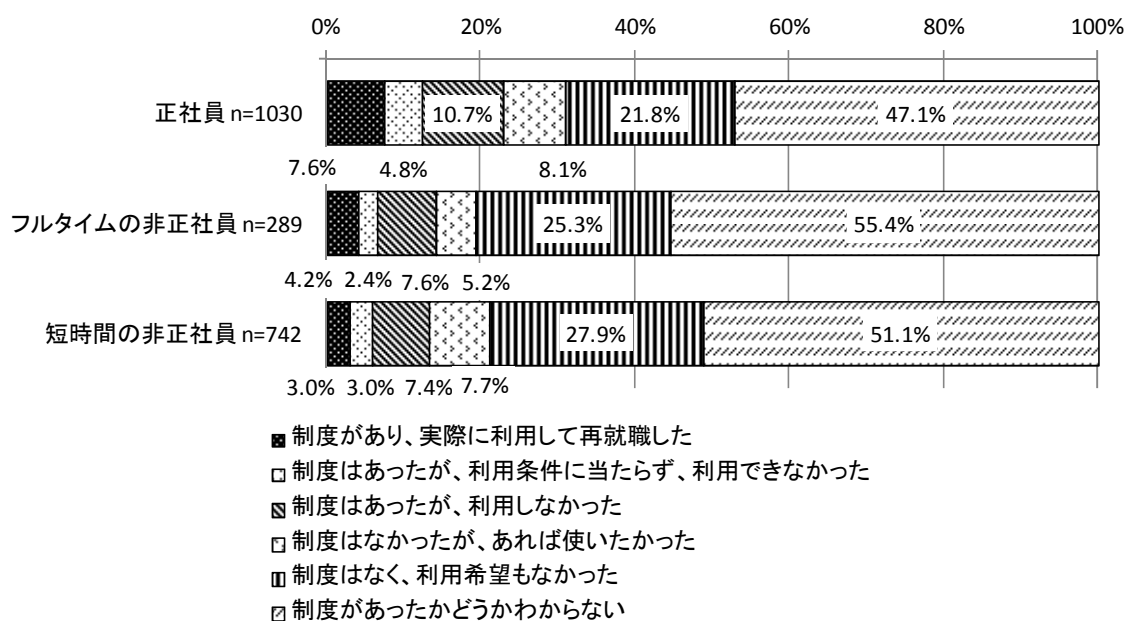


(13) 再雇用制度の利用状況

①以前勤めていた会社の再雇用制度の利用経験

再就職にあたって、以前勤めていた会社の再雇用制度を利用したかどうかをみると、正社員、非正社員とも「制度があったかどうかわからない」が半数前後で最も多く、次いで「制度はなく、利用希望もなかった」が2～3割を占めている。また、正社員では、他と比較して「制度があり、実際に利用して再就職した」(7.6%)の割合がやや高い。

図表 57 以前勤めていた会社の再雇用制度の利用経験：単数回答（Q37）

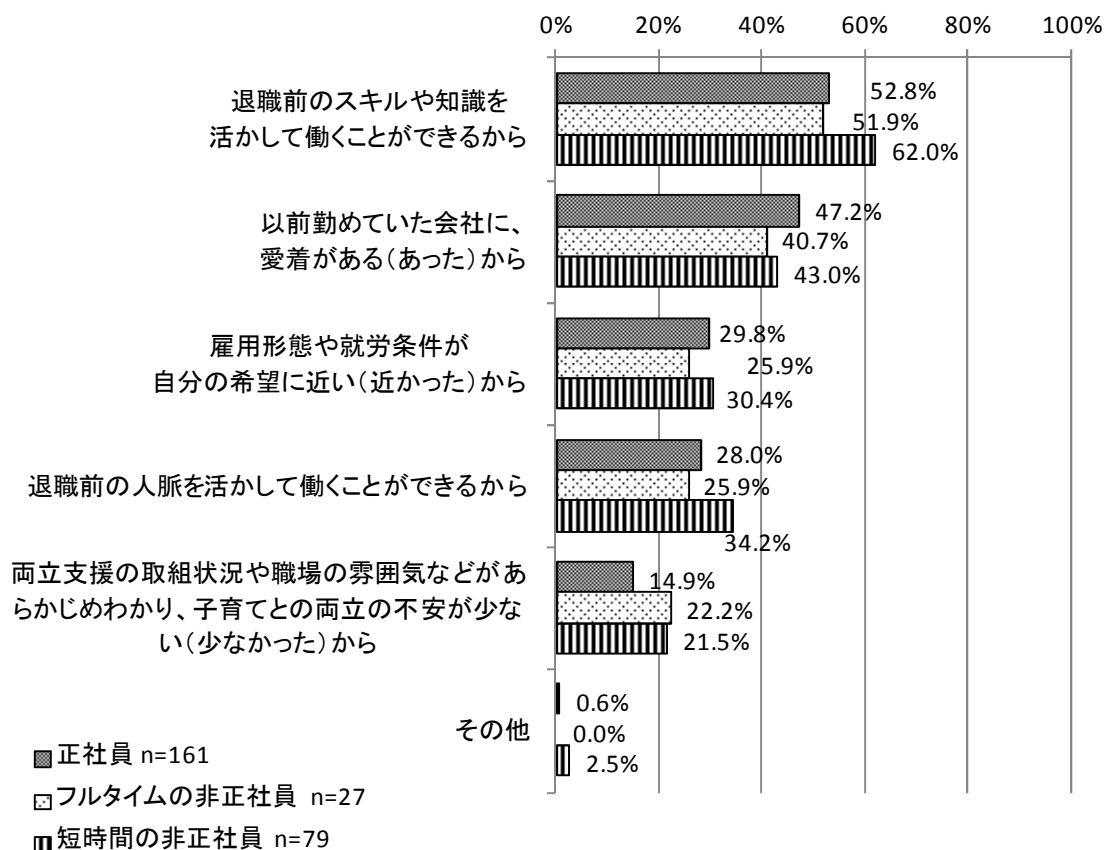


②再雇用制度を利用した／利用したいと思う理由

再就職にあたって、「制度があり、実際に利用して再就職した」もしくは「制度はなかったが、あれば使いたかった」と回答した人について、再雇用制度を利用した理由／利用したい理由をみると、「退職前のスキルや経験を活かして働くことができるから」、「以前勤めていた会社に、愛着がある（あった）から」などが上位にあげられている。

短時間の非正社員は、他と比較して「退職前のスキルや知識を活かして働くことができるから」（62.0%）、「退職前の人脈を活かして働くことができるから」（34.2%）の割合が高い傾向にある。

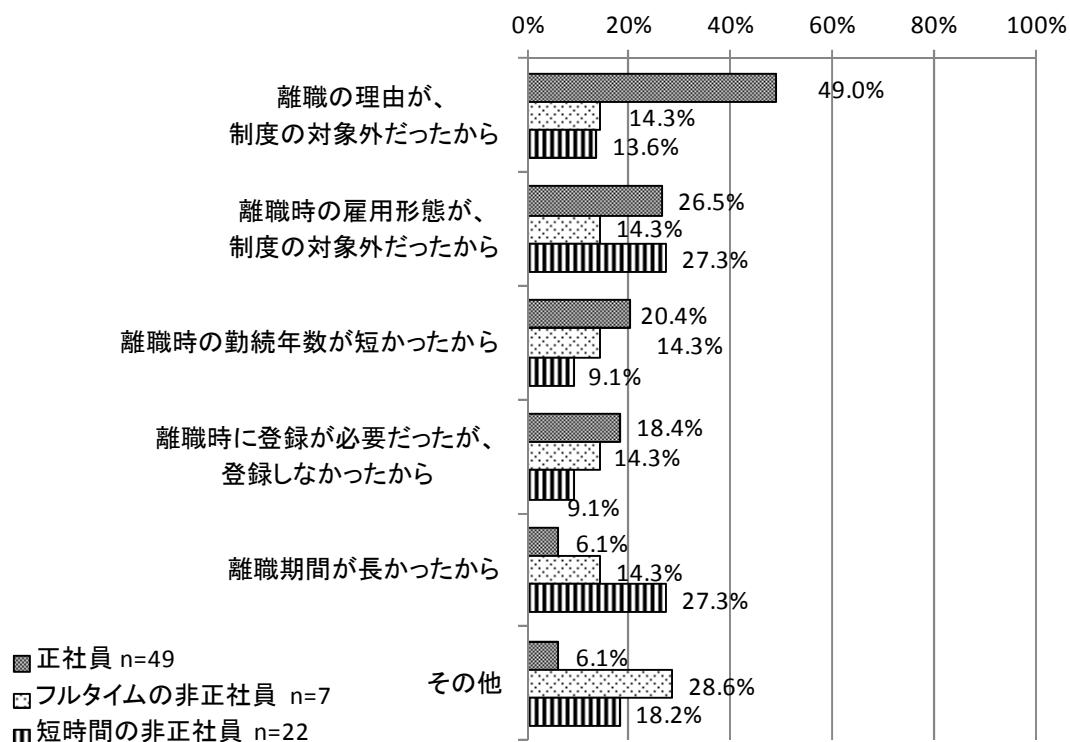
図表 58 再雇用制度を利用した／利用したいと思う理由：複数回答（Q38）



③再雇用制度の利用条件に当てはまらなかった理由

再就職の際に、「再雇用制度はあったが、利用条件に当たらず、利用できなかった」と回答した人について、利用条件に当てはまらなかった理由を具体的にみると、正社員は「離職の理由が、制度の対象外だったから」（49.0%）、短時間の非正社員は「離職期間が長かったから」（27.3%）などの割合が高い。※サンプル数が少ないため留意が必要

図表 59 再雇用制度の利用条件に当てはまらなかった理由：複数回答（Q39）



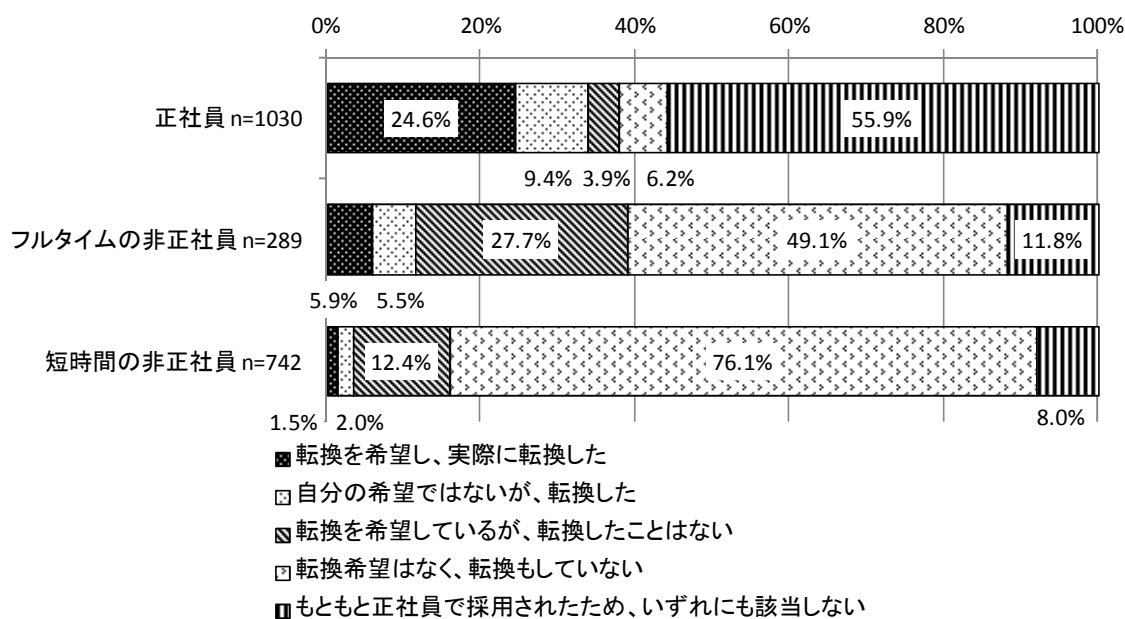
4. 再就職後の働き方

- 雇用形態の変更（非正社員から正社員などへの転換）については、正社員は「転換を希望し、実際に転換した」が24.6%、フルタイムの非正社員は「転換希望はなく、転換もしていない」が49.1%、「転換を希望しているが、転換したことはない」が27.7%、短時間の非正社員は「転換希望はなく、転換もしていない」が76.1%を占めている。
- 再就職先での支援は、「職務内容に関する研修」が2割前後あげられている。
- 利用経験のある両立支援制度、もしくは利用を希望する両立支援制度は、「短時間勤務制度」「子の看護休暇制度」「半日単位、時間単位等の休暇制度」などが多い。また、正社員は、非正社員に比べて、利用経験、利用ニーズとも高くなっている。
- 再就職先の職場について、②所定時間内で仕事を終えることを奨励している、⑤上司が仕事と育児の両立に理解がある、⑥同僚が仕事と育児の両立に理解があるについては、『あてはまる』（「あてはまる」及び「どちらかというにあてはまる」）割合が6～8割と比較的高いが、⑦男性で、育児や介護をしている人がいる、⑨ロールモデルがいるに『あてはまる』（「あてはまる」及び「どちらかというにあてはまる」）割合は、1～2割前後にとどまっている。
- 現在の仕事に満足している割合（「満足している」及び「まあ満足している」）は、フルタイムの非正社員が65.4%、正社員が72.6%、短時間の非正社員が79.1%である。
- 出産・育児等を機に仕事を辞めたことについて、4分の1前後は後悔している（「とても後悔している」及び「やや後悔している」）。後悔している理由は、「経済的に厳しくなった」のが6割弱で最も割合が高く、次いで、「再就職したが希望の仕事に就けなかったり、就労条件が悪くなったりした」「今後再就職しようとしても良い就職先がない」などが続いている。
- 現在のキャリア意識は、「仕事以外の生活を充実させたい」が35%程度、「やりがいのある仕事をしたい」が4分の1前後を占めている。最初の子を持つ前と比べて、前者は大きく増加し、後者は特に短時間の非正社員において大きく減少している。
- 子どもが小さいうちは、正社員は「フルタイムだが残業のない仕事」、フルタイムの非正社員は「短時間勤務・短日勤務制度」を希望する割合が高いが、実際の働き方は、正社員、フルタイムの非正社員とも希望に比べて「残業もあるフルタイムの仕事」の割合が高くなっている。短時間の非正社員は、「家でできる仕事」を希望する割合が高いが、実際の働き方は、希望に比べて「短時間勤務・短日勤務制度」の割合が高くなっている。

(1) 雇用形態変更への希望・経験

非正社員から正社員への変更など雇用形態変更の希望・経験をみると、現在正社員である者は、他と比較して「転換を希望し、実際に転換した」(24.6%)の割合が高く、約4分の1を占めている。フルタイムの非正社員は、「転換希望はなく、転換もしていない」(49.1%)が約半数を占めている一方、「転換を希望しているが、転換したことはない」(27.7%)も3割弱にのぼっている。短時間の非正社員は、「転換希望はなく、転換もしていない」(76.1%)の割合が高くなっている。

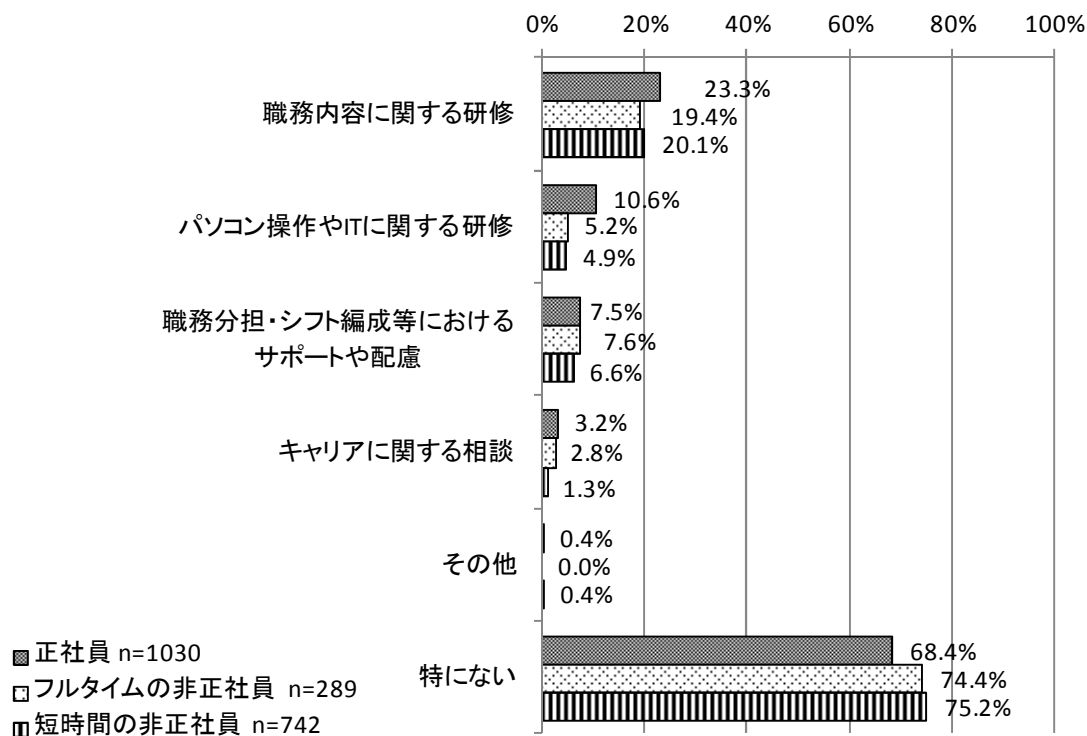
図表 60 雇用形態変更への希望・経験：単数回答（Q40）



(2) 再就職先で受けた支援

再就職先で受けた業務習熟のための支援をみると、「職務内容に関する研修」が2割前後、次いで、正社員は「パソコン操作やITに関する研修」(10.6%)、フルタイムの非正社員及び短時間の非正社員は「職務分担・シフト編成等におけるサポートや配慮」(7.6%、6.6%) があげられているが正社員、非正社員とも「特にない」が7割前後となっている。

図表 61 再就職先で受けた支援：複数回答（Q41）

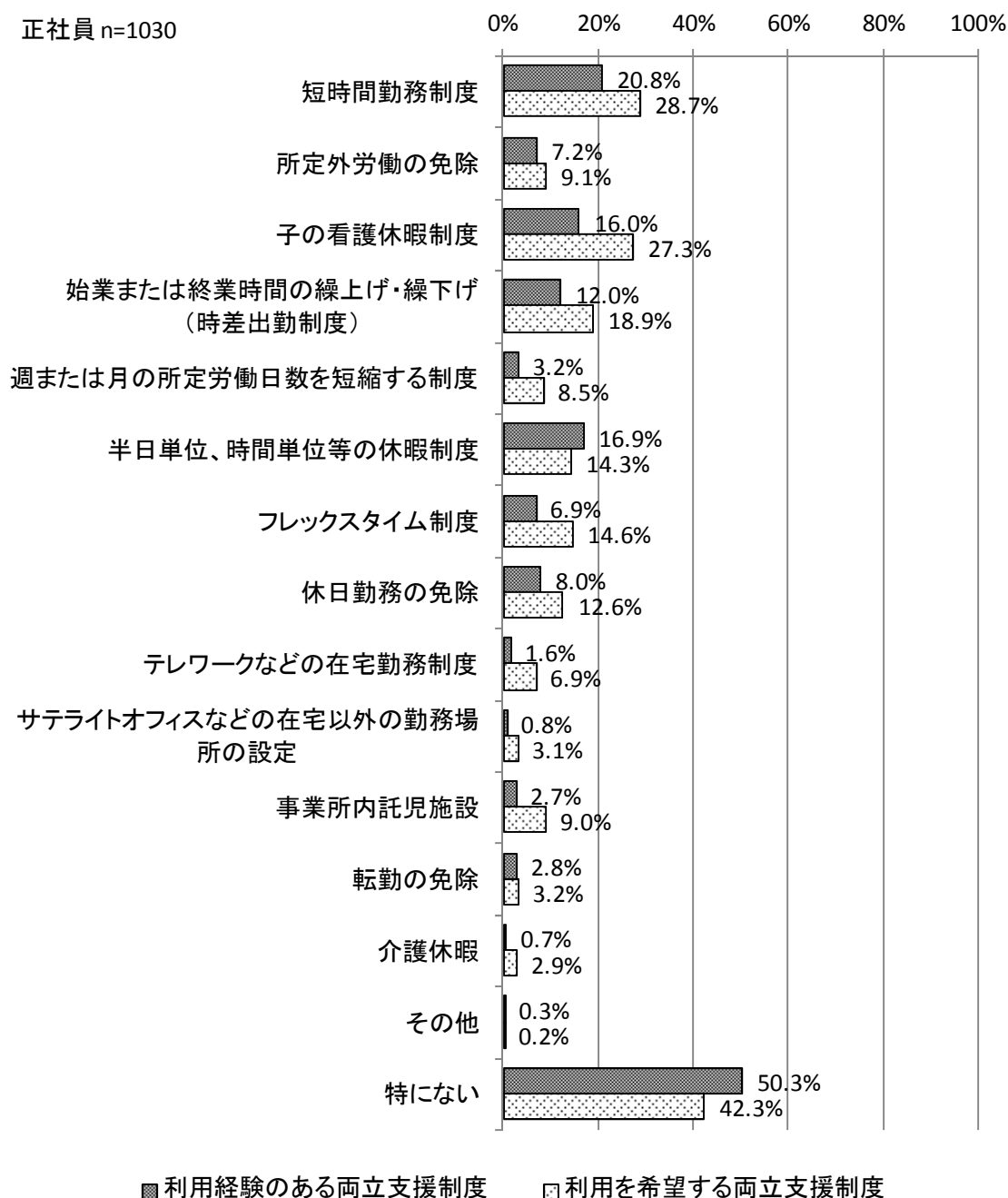


(3) 利用経験のある両立支援制度、利用を希望する両立支援制度

利用経験のある両立支援制度をみると、正社員は、「短時間勤務制度」(20.8%)、「半日単位、時間単位等の休暇制度」(16.9%)、「子の看護休暇制度」(16.0%)などが上位にあげられている。

利用を希望する両立支援制度は、「短時間勤務制度」(28.7%)、「子の看護休暇制度」(27.3%)、「始業または就業時間の繰上げ・繰下げ(時差出勤制度)」(18.9%)などが上位にあげられている。

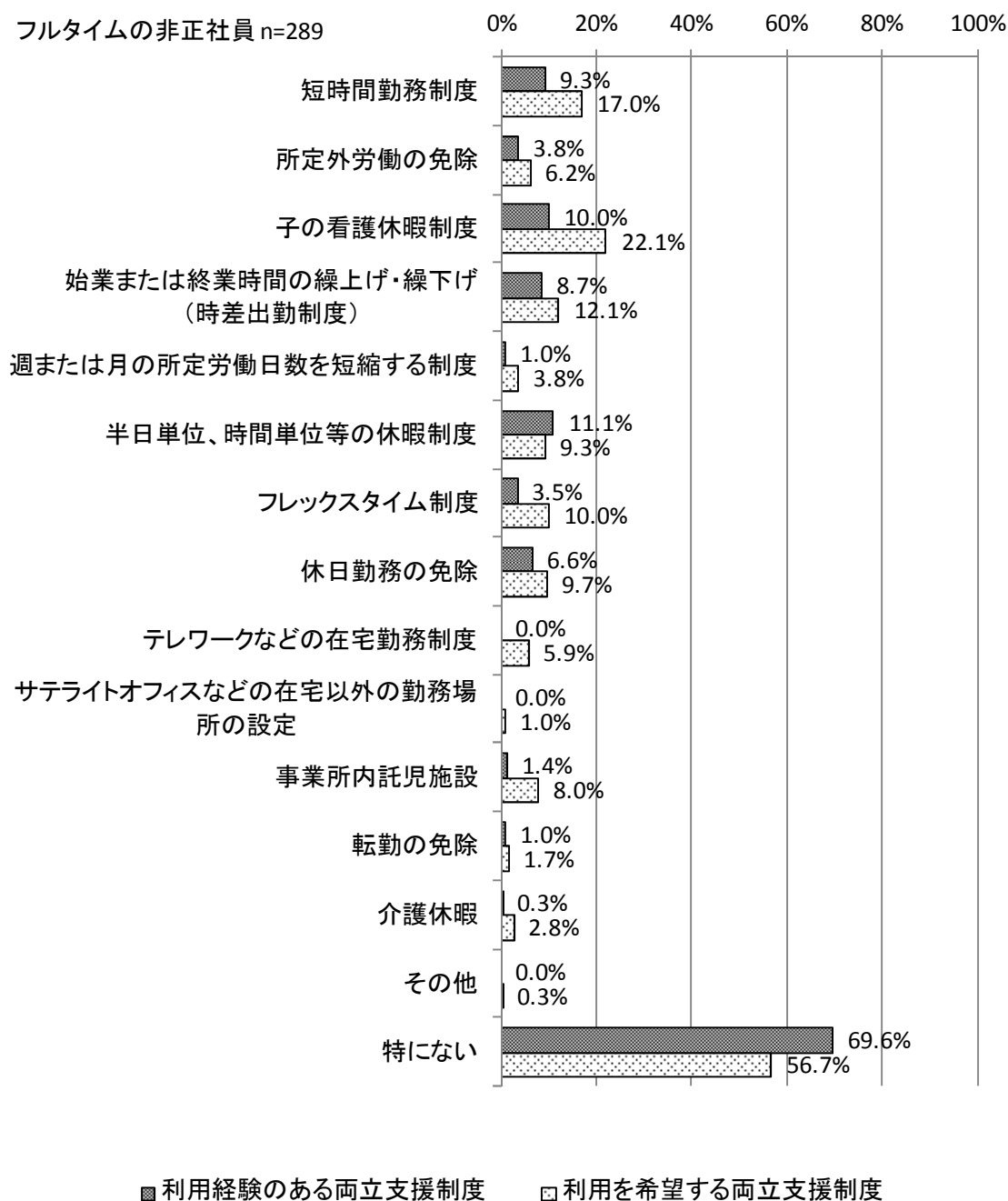
図表 62 利用経験のある両立支援制度、利用を希望する両立支援制度【正社員】：複数回答(Q42)



フルタイムの非正社員については、「半日単位、時間単位等の休暇制度」（11.1%）、「子の看護休暇制度」（10.0%）などが上位にあげられている。

利用を希望する両立支援制度は、「子の看護休暇制度」（22.1%）、「短時間勤務制度」（17.0%）などが上位にあげられている。

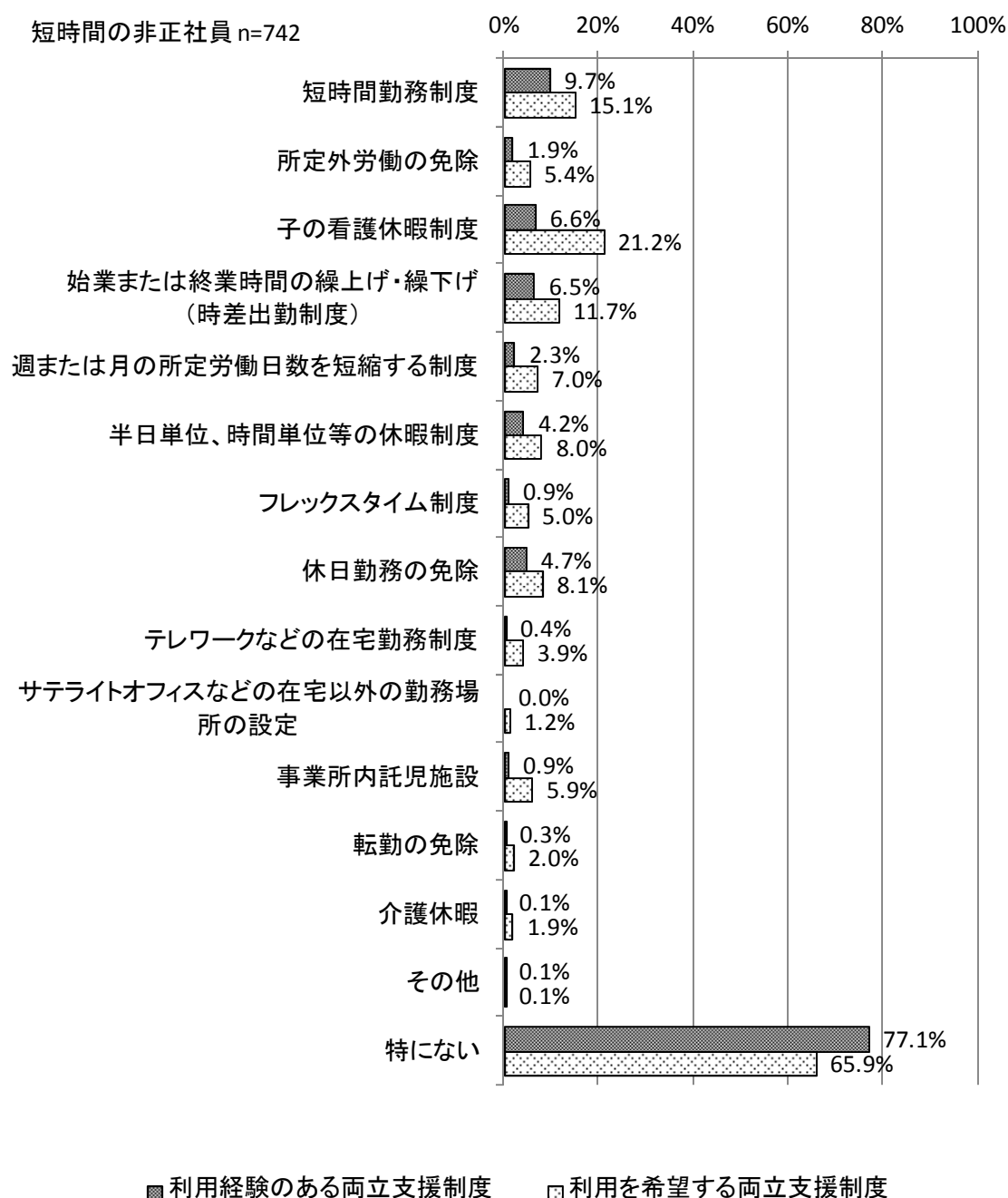
図表 63 利用経験のある両立支援制度、利用を希望する両立支援制度【フルタイムの非正社員】：
複数回答（Q42）



短時間の非正社員については「短時間勤務制度」(9.7%)や、「子の看護休暇制度」(6.6%)などが上位であるが、いずれも1割以下にとどまっており、正社員、フルタイムの非正社員に比べると利用割合は低い。

利用を希望する両立支援制度は、「子の看護休暇制度」(21.2%)、「短時間勤務制度」(15.1%)などが上位にあげられている。

図表 64 利用経験のある両立支援制度、利用を希望する両立支援制度【短時間の非正社員】：複数回答 (Q42)



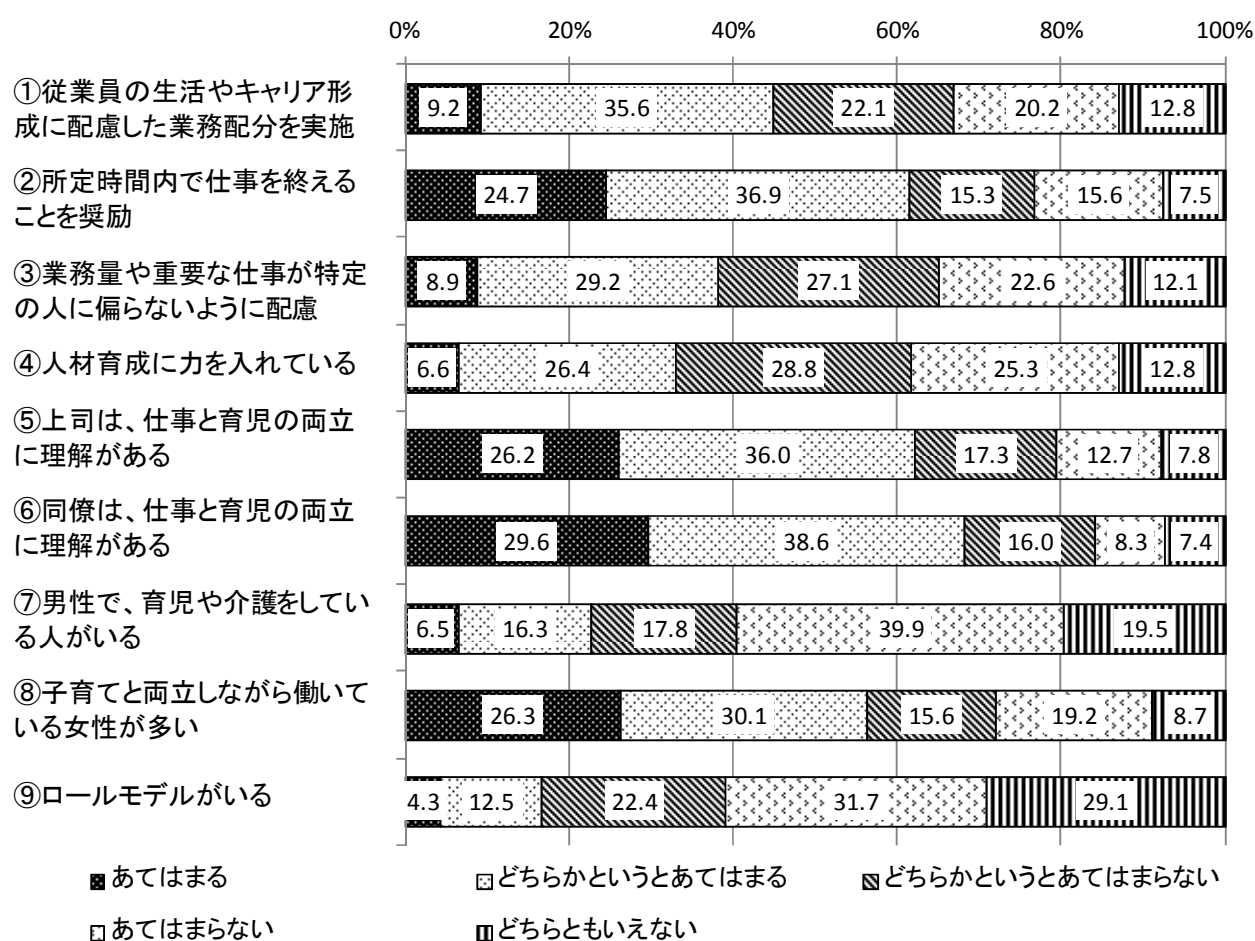
(4) 再就職先の仕事や職場の家庭との両立に関する特徴

正社員について再就職先の仕事や職場の家庭との両立に関する特徴をみると、正社員は「⑥同僚は、仕事と育児の両立に理解がある」、「⑤上司は、仕事と育児の両立に理解がある」、「②所定時間内で仕事を終えることを奨励している」について、あてはまる（「あてはまる」及び「どちらかというにあてはまる」）と回答した人の割合が比較的高く、いずれも6割を超えている。

一方、「⑨ロールモデルがいる」、「⑦男性で、育児や介護をしている人がいる」については、あてはまる（「あてはまる」及び「どちらかというにあてはまる」）と回答した人の割合は、2割前後にとどまっている。

図表 65 再就職先の仕事や職場の家庭との両立に関する特徴【正社員】：単数回答（Q43）

正社員 n=1030

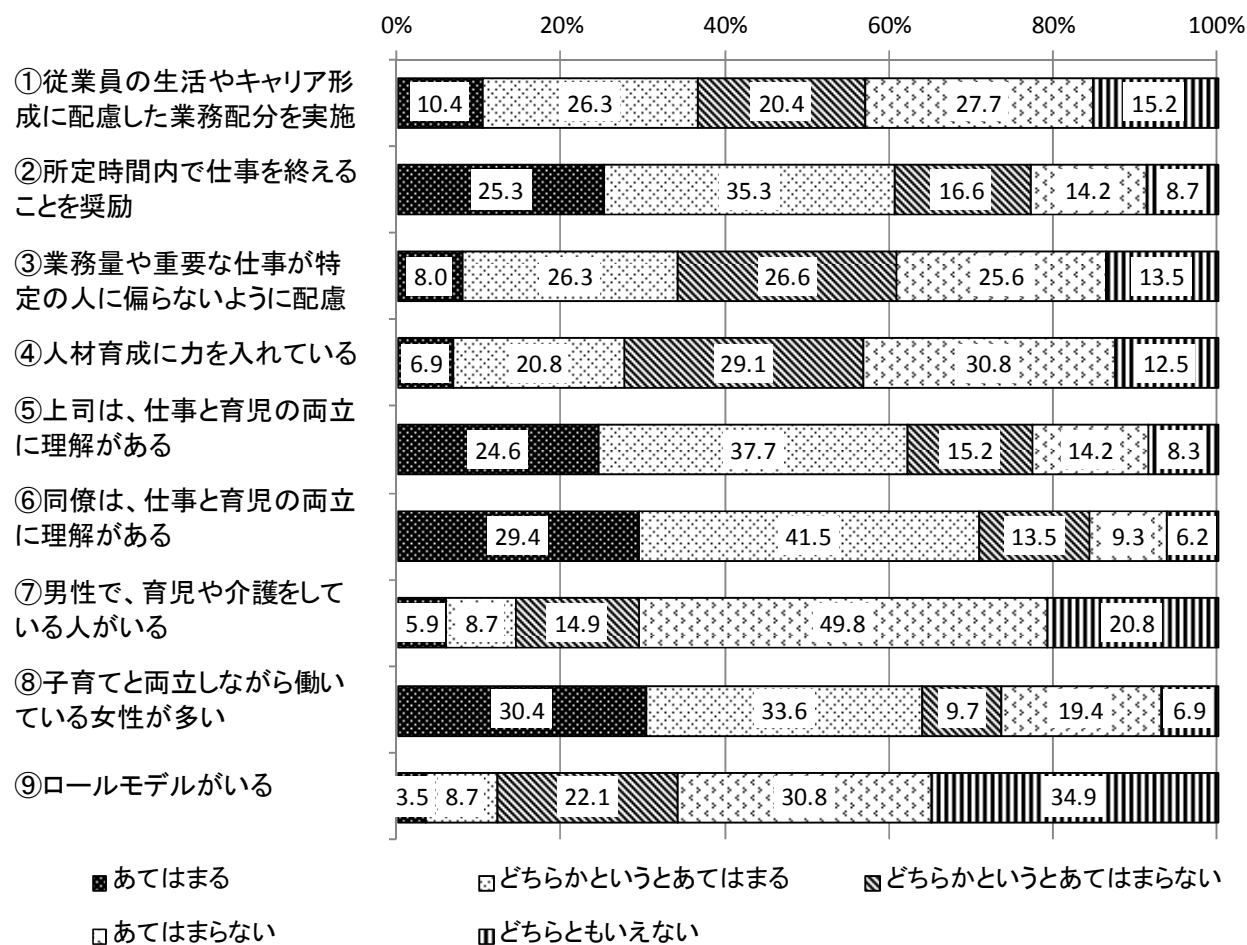


フルタイムの非正社員については、正社員と同様に「⑥同僚は、仕事と育児の両立に理解がある」、「⑤上司は、仕事と育児の両立に理解がある」、「②所定時間内で仕事を終えることを奨励している」については、あてはまる（「あてはまる」及び「どちらかというにあてはまる」）と回答した人の割合が比較的高く、いずれも6割を超えている。

一方、「⑨ロールモデルがいる」、「⑦男性で、育児や介護をしている人がある」については、あてはまると（「あてはまる」及び「どちらかというにあてはまる」）回答した人の割合は、1割強にとどまっている。

図表 66 再就職先の仕事や職場の家庭との両立に関する特徴【フルタイムの非正社員】：単数回答
(Q43)

フルタイムの非正社員 n=289

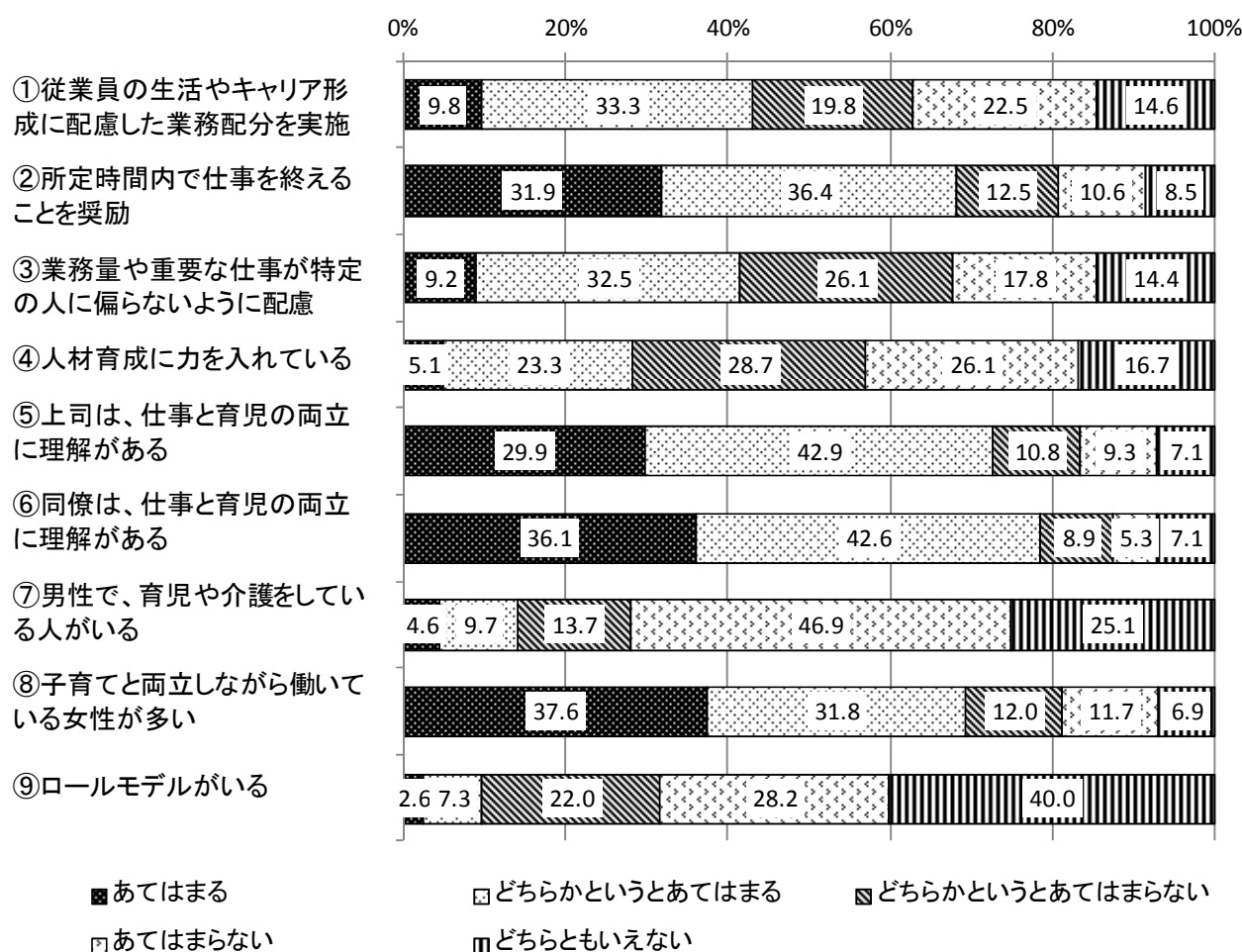


短時間の非正社員については、「⑥同僚は、仕事と育児の両立に理解がある」、「⑤上司は、仕事と育児の両立に理解がある」、「②所定時間内で仕事を終えることを奨励している」については、あてはまる（「あてはまる」及び「どちらかというにあてはまる」）と回答した人の割合が比較的高く、いずれも7～8割前後を占めている。

一方、「⑨ロールモデルがいる」、「⑦男性で、育児や介護をしている人がいる」については、あてはまる（「あてはまる」及び「どちらかというにあてはまる」）と回答した人の割合は、1割前後と低くなっている。

図表 67 再就職先の仕事や職場の家庭との両立に関する特徴【短時間の非正社員】：単数回答（Q43）

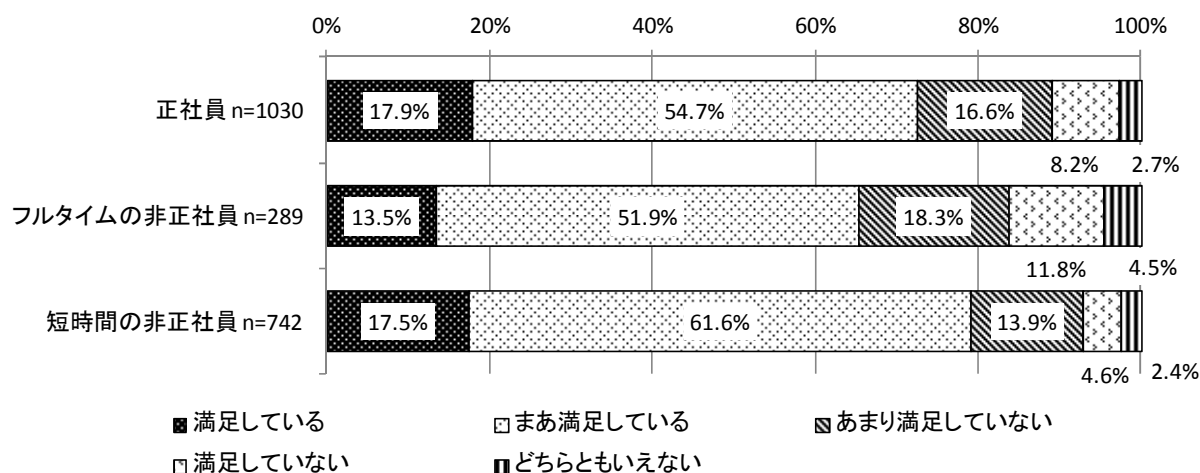
短時間の非正社員 n=742



(5) 現在の仕事の満足度

現在の仕事の満足度をみると、「満足している」と「まあ満足している」を合わせた満足している割合は、フルタイムの非正社員（65.4%）、正社員（72.6%）、短時間の非正社員（79.1%）の順に高くなっている。

図表 68 現在の仕事の満足度：単数回答（Q44）

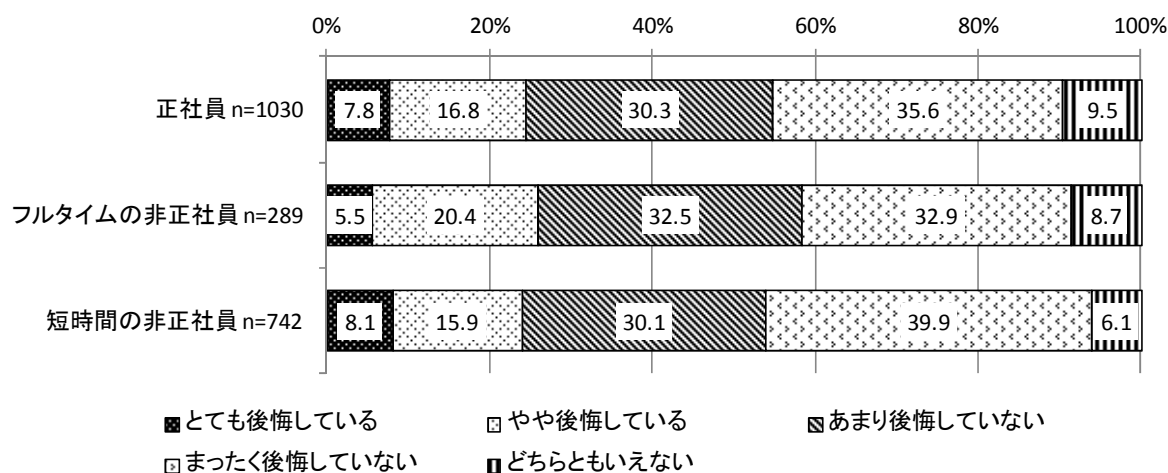


(6) 出産・育児等を機に仕事を辞めたことについて

① 出産・育児等を機に仕事を辞めたことについての後悔

出産・育児等を機に仕事を辞めたことについて、後悔しているかどうかきいたところ、正社員、非正社員とも後悔している（「とても後悔している」及び「やや後悔している」）割合は、4分の1前後となっている（正社員 24.6%、フルタイムの非正社員 25.9%、短時間の非正社員 24.0%）。一方、「まったく後悔していない」割合は、フルタイムの非正社員（32.9%）、正社員（35.6%）、短時間の非正社員（39.9%）の順に高くなっている。

図表 69 出産・育児等を機に仕事を辞めたことについて：単数回答（Q45）

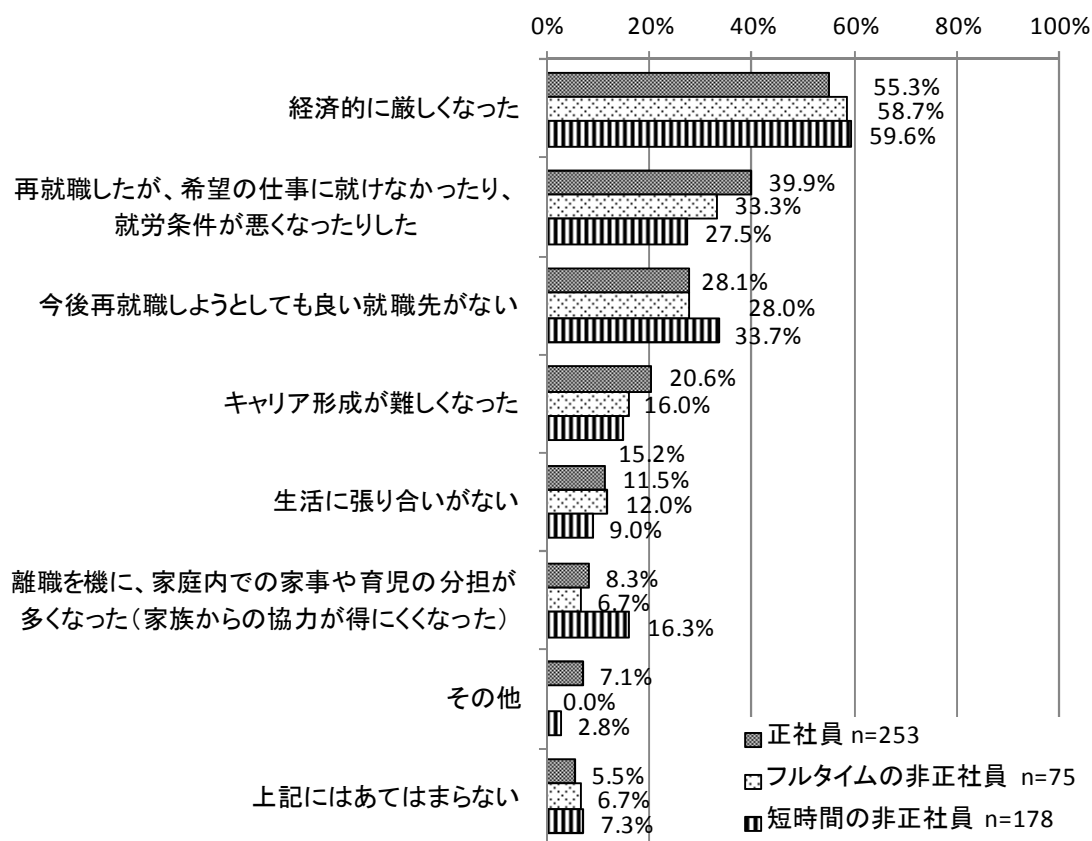


②後悔している理由

出産・育児等を機に仕事を辞めたことについて、後悔していると回答した人にその理由をきいたところ、「経済的に厳しくなった」、「再就職したが、希望の仕事に就けなかったり、就労条件が悪くなったりした」、「今後再就職しようとしても良い就職先がない」などが上位にあげられている。

正社員は、他と比較して「再就職したが、希望の仕事に就けなかったり、就労条件が悪くなったりした」(39.9%) や、「キャリア形成が難しくなった」(20.6%)、短時間の非正社員は「今後再就職しようとしても良い就職先がない」(33.7%) や、「離職を機に、家庭内での家事や育児の分担が多くなった(家族からの協力が得にくくなった)」(16.3%) などの割合が高い傾向にある。

図表 70 出産・育児等を機に離職したことを後悔している理由：複数回答（Q46）

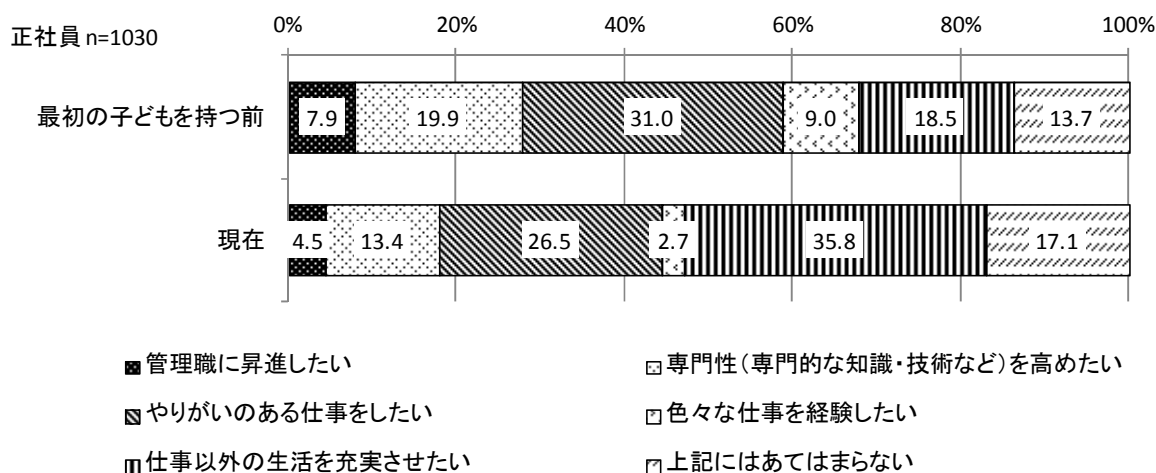


(7) キャリア意識

現在のキャリア意識をみると、正社員は「仕事以外の生活を充実させたい」(35.8%)が最も高く、最初の子どもを持つ前(18.5%)の2倍近くとなっている。次いで「やりがいのある仕事をしたい」(26.5%)となっているが、最初の子どもを持つ前(31.0%)と比べると、その割合は減少している。

また、現在、「管理職に昇進したい」(4.5%)や、「専門性(専門的な知識・技術など)を高めたい」(13.4%)と考える割合は、最初の子どもを持つ前に比べて減少している。

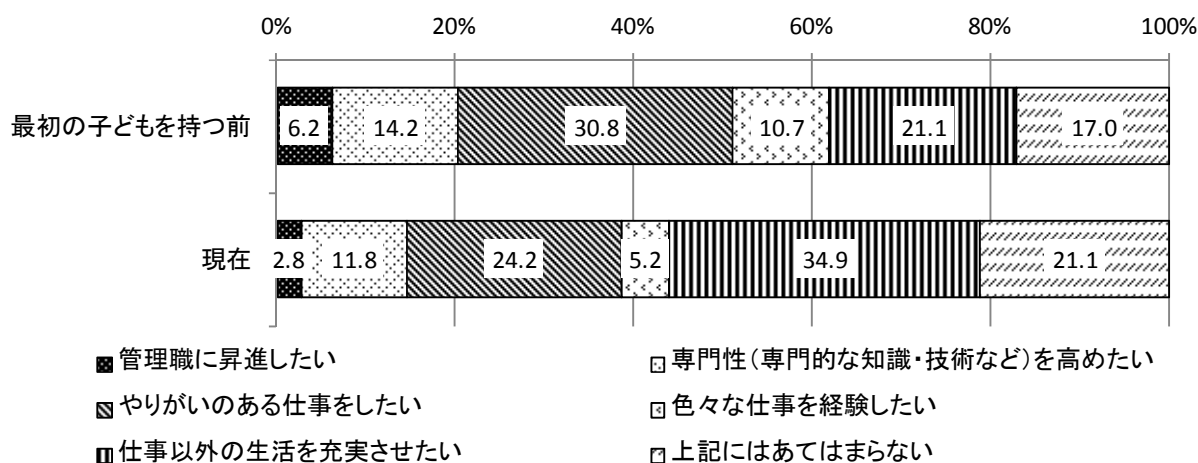
図表 71 キャリア意識【正社員】：単数回答 (Q47)



フルタイムの非正社員について、現在のキャリア意識をみると、正社員と同様、「仕事以外の生活を充実させたい」(34.9%)が最も高く、次いで「やりがいのある仕事をしたい」(24.2%)となっている。最初の子どもを持つ前からのキャリア意識の変化についても、正社員と同様の傾向となっている。

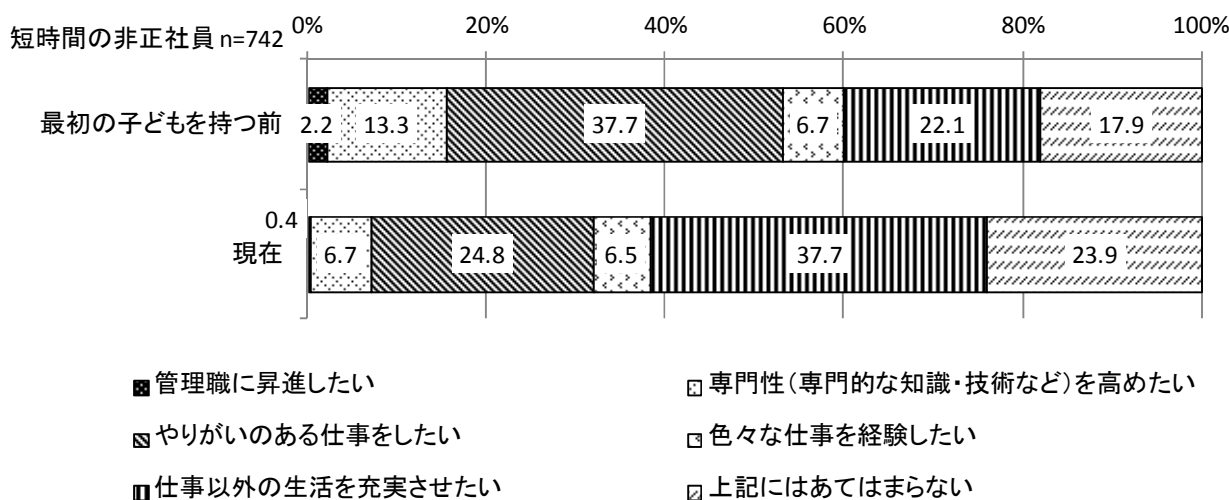
図表 72 キャリア意識【フルタイムの非正社員】：単数回答 (Q47)

フルタイムの非正社員 n=289



短時間の非正社員について、現在のキャリア意識をみると、「仕事以外の生活を充実させたい」（37.7%）が最も高く、次いで「やりがいのある仕事をしたい」（24.8%）、「上記にはあてはまらない」（23.9%）となっている。最初の子どもの持つ前は、「やりがいのある仕事をしたい」は 37.7%であったが、現在は大きく減少している。

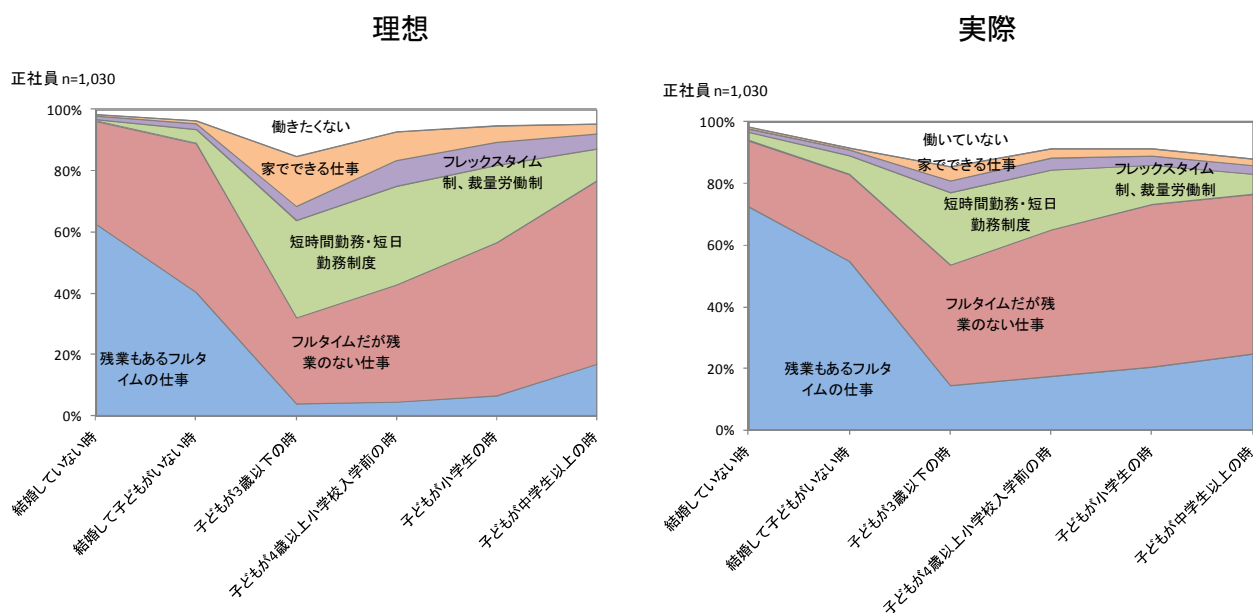
図表 73 キャリア意識【短時間の非正社員】：単数回答（Q47）



(8) 働き方の理想と実際

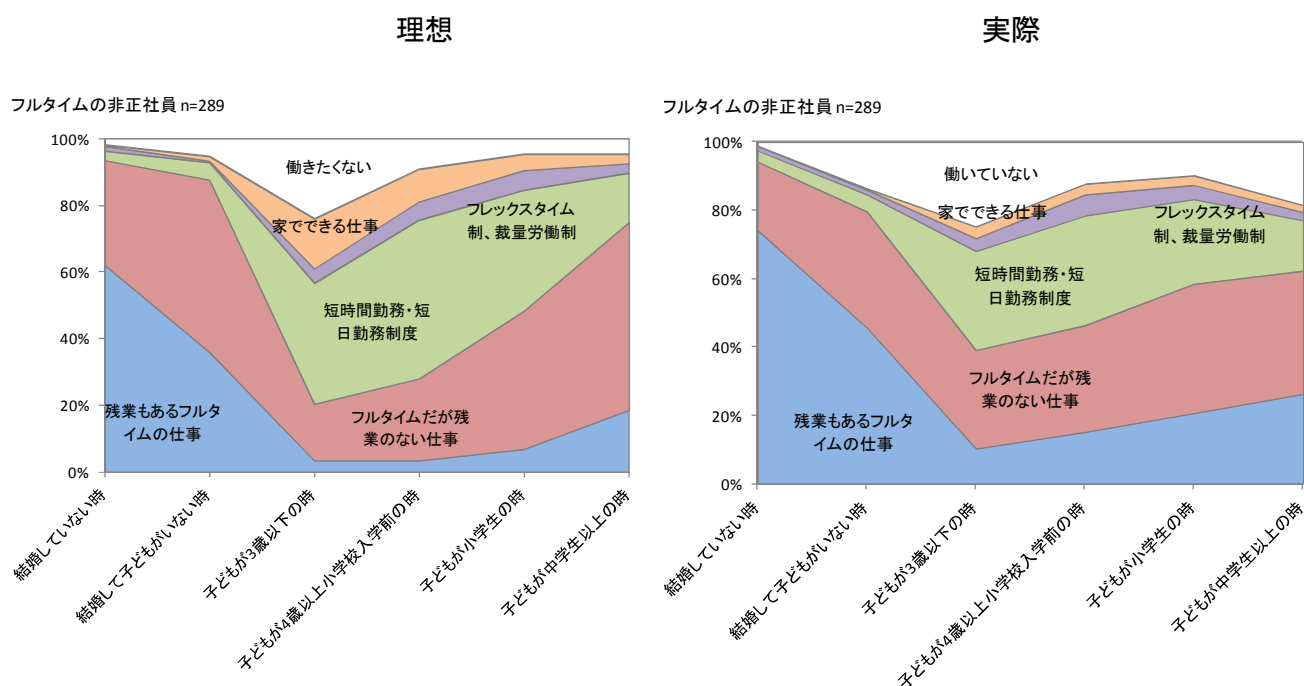
働き方の理想と実際をみると、正社員は、「子どもが小学生の時」までは、「フルタイムだが残業のない仕事」の希望が多い。また、同時期において、「短時間勤務・短日勤務制度」や「家でできる仕事」については、理想に比べて実際の方が少ない傾向がみられる。

図表 74 働き方の理想と実際【正社員】：単数回答（Q48）



フルタイムの非正社員については、正社員と同様に「子どもが小学生の時」までは、「残業もあるフルタイムの仕事」を理想とする割合は非常に少ないが、実際には7～15%前後となっている。また、同時期において、「短時間勤務・短日勤務制度」や「家でできる仕事」については、理想に比べて実際の方が少ない傾向にある。

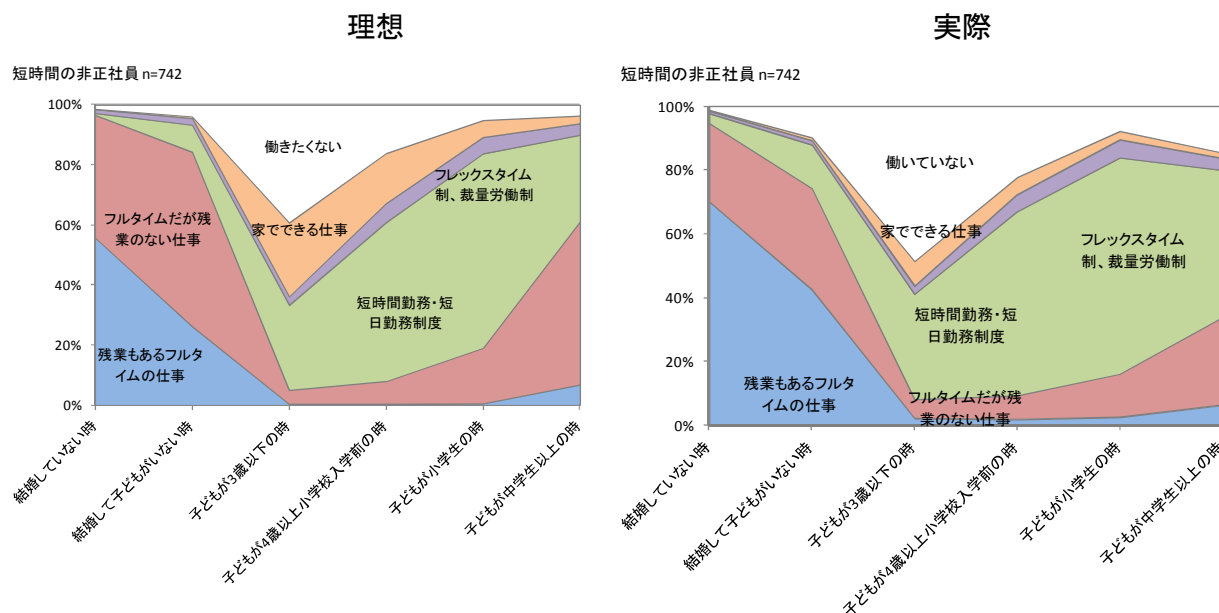
図表 75 理想の働き方と、実際の働き方【フルタイムの非正社員】：単数回答（Q48）



短時間の非正社員については、「子どもが小学生の時」までは、「家でできる仕事」が、理想よりも実際の方が少ない傾向にある。

さらに、「子どもが3歳以下の時」、「子どもが中学生以上の時」では、理想の働き方で「働きたくない」（39.4%、3.6%）と回答した割合に比べて、実際に「働いていない」（48.5%、14.6%）割合が特に多くなっている。

図表 76 理想の働き方と、実際の働き方【短時間の非正社員】：単数回答（Q48）



(9) 配偶者控除や社会保険料の適用等を理由とした就業調整

配偶者控除や社会保険料の適用等を理由とした就業調整の有無をみると、「している（年収を103万円以下、130万円以下などにおさえるようにしている）」の割合は、短時間の非正社員が最も高く 71.4%、次いでフルタイムの非正社員が 25.6%、正社員が 9.2%となっている。

図表 77 配偶者控除や社会保険料の適用等を理由とした就業調整：単数回答（Q49）

